

三育学院大学年報

2024 年度

(No.7)



三育学院大学
Saniku Gakuin College

年報 2024 年度 (No.7)

目次

卷頭言	1
運営組織	2
2024 (令和 6) 年度看護学部学年暦	3
2024 (令和 6) 年度看護学部専任教員一覧	4
2024 (令和 6) 年度看護学研究科学事暦	5
2024 (令和 6) 年度看護学研究科専任教員一覧	6
委員会活動	7
研究倫理審査委員会	8
教学委員会 (大学院看護学研究科)	12
人試広報委員会	16
FD 委員会	22
自己点検評価委員会	27
教務委員会	29
実習ワーキンググループ(WG)	34
学生委員会	37
国家試験対策委員会	40
ICT 委員会	45
労作教育委員会	47
保健師課程選考委員会	49
宗教教育委員会	52
図書委員会	54
学修委員会	55
地域共創委員会	57
保健委員会	60
研究推進委員会	65
IR 委員会	71
防災委員会 (危機管理)	73
高大連携委員会	75
ハラスメント防止委員会	77
衛生委員会	78

SD 委員会	81
内部質保証委員会	83
教育活動	86
教養教育・専門基礎領域	87
基礎看護学領域	90
小児看護学領域	93
女性看護学領域	95
成人・老年看護学領域	97
精神看護学領域	100
地域看護学・公衆衛生看護学領域	101
研究・社会活動	104
教養教育・専門基礎領域	105
基礎看護学領域	106
小児看護学領域	107
女性看護学領域	109
成人・老年看護学領域	111
精神看護学領域	112
地域看護学・公衆衛生看護学領域	113
資料	114
2020 年度以降入学者看護師課程カリキュラム	115
2020 年度以降入学者保健師課程カリキュラム	117
2017 年度以降入学者看護師課程カリキュラム	119
2017 年度以降入学者保健師課程カリキュラム	122
2024 年度開講科目一覧(1 年次)	125
2024 年度開講科目一覧(2 年次)	127
2024 年度開講科目一覧(3 年次)	129
2024 年度開講科目一覧(4 年次)	131
看護学部非常勤講師一覧	132
2024 年度大学院看護学研究科看護学専攻	
修士課程カリキュラム	134
専門領域別 研究指導教授・研究テーマ一覧	135
大学院看護学研究科非常勤講師一覧	136
あとがき	137

卷頭言

2024 年度を終えるにあたり、本学の活動を振り返る機会を得ることができました。本年の年報では、学内委員会活動報告にとどまらず、全学でどのように諸課題に取り組んできたのかを包括的にまとめました。本学の発展に寄与したすべての教職員の皆さんに、心より感謝申し上げます。

本学は、キリスト教の精神に基づく看護教育を基盤とし、「何事でも、自分にてもらいたいことは、他人にもそのようにしなさい」（マタイ 7:12）を教育理念の根幹としています。すべての患者に寄り添い、思いやりと奉仕の心をもって看護の実践にあたることこそが、本学の使命であり、社会に貢献するための指針となります。

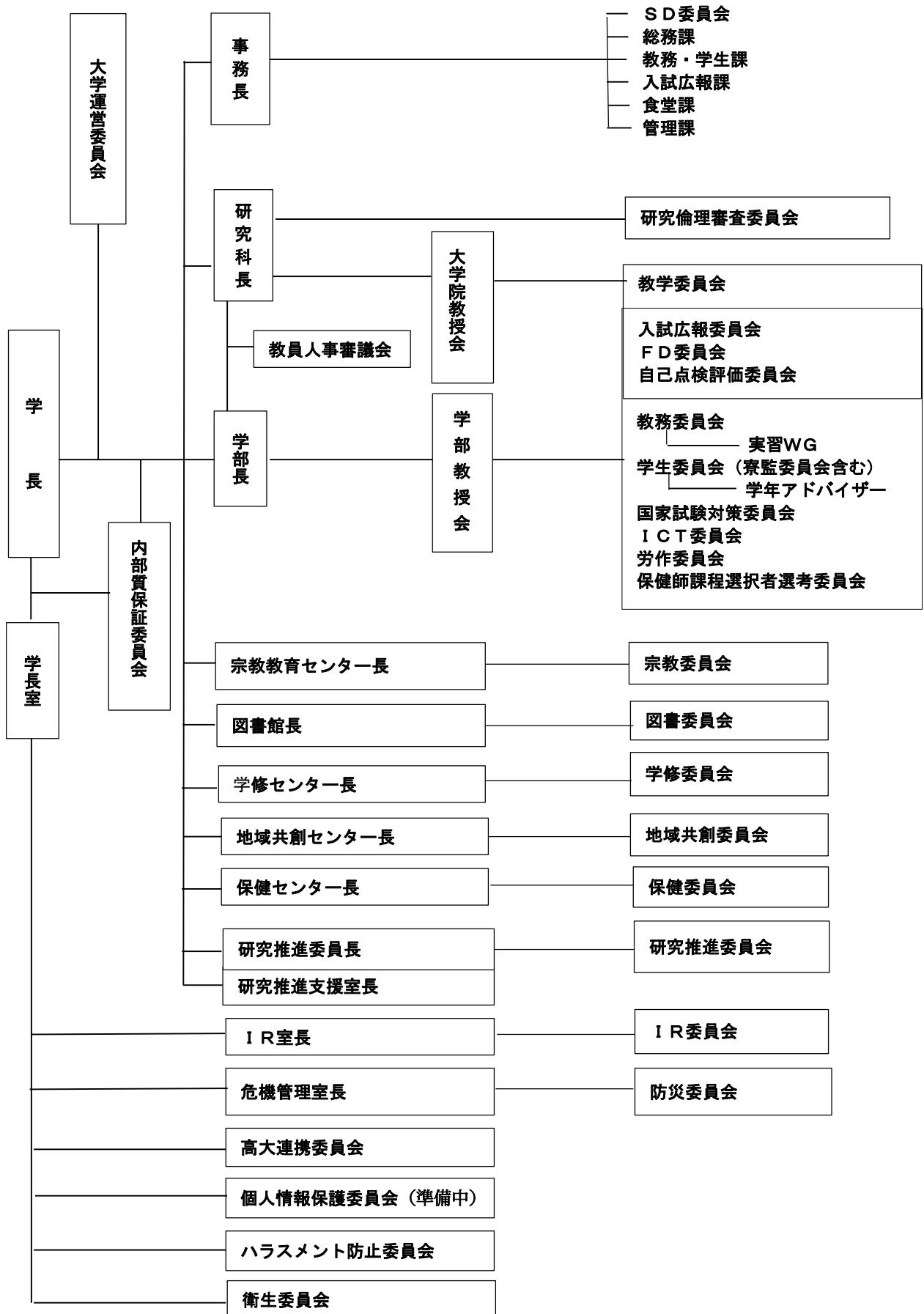
社会の変化が加速する中、本学の存在意義は一層高まっていると考えております。現在求められているのは、超高齢社会や医療の高度化に対応できる専門性を持ち、チーム医療を支える看護師の育成です。本学は、実践的な教育と研究の融合を通じて、現場で即戦力となる人材を輩出することに注力しております。

また、我々は急速に進展する少子化への対応という、避けて通ることのできない課題に真正面から向き合い、議論を重ねてきました。しかし、それは決して規模や活動の縮小といった後ろ向きな対応ではなく、この危機を、大学をはじめとする高等教育機関の活動を強靭なものとし、さまざまな社会課題の解決に貢献することにより、社会全体の活性化を促す好機と捉えております。

本学は、全学的な「内部質保証」活動を推進しております。各委員会における活動の可視化を進めるとともに、IR 活動を通じて学修成果の向上に資する課題の共有を図ってまいりました。2024 年の成果と今後の課題を総括し、年報の発行に尽力いただいた教職員の皆さまの献身的なご努力に、改めて感謝申し上げます。

三育学院大学 学長 杉 正純

2024年度 運営組織（大学）



※本組織図は、2024年度のものである。2024年末に運営組織（大学）の見直しを行い、委員会の削減、WGの設定等、2025年度に向けた組織（案）を作成した。

2024（令和6）年度 看護学部学年歴

入学式	4月 2日（火）
オリエンテーション週	4月 2日（火）～5日（金）
履修登録	4月 3日（水）
前期授業開始	4月 4日（木）
前期履修登録変更日	4月 17日（水）～18日（木）
バイブルウィーク（大多喜）	5月 13日（月）～18日（土）
バイブルウィーク（東京）	5月 20日（月）～25日（土）
前期試験週	7月 22日（月）～26日（金）
夏期休業	7月 29日（月）～9月 20日（金） N1 7月 28日（日）～9月 29日（日） N2
	7月 30日（火）～8月 25日（日） N3
	8月 5日（月）～9月 16日（月） N4
宣誓式	8月 30日（金）
後期授業開始	9月 30日（月）
後期履修登録変更日	10月 16日（水）～17日（木）
バイブルウィーク（大多喜・東京）	11月 4日（月）～9日（土）
冬期休業	12月 20日（金）～1月 13日（月） N1, N4 12月 20日（金）～1月 14日（火） N2 12月 22日（日）～1月 13日（月） N3
学生バイブルウィーク	1月 16日（木）
後期試験週	2月 4日（月）～10日（月）
卒業礼拝	3月 1日（土）
卒業式	3月 2日（日）
春期休業	2月 11日（火）～3月 28日（金） N1 3月 3日（月）～4月 2日（水） N2 2月 10日（月）～4月 2日（水） N3

2024 (令和6) 看護学部専任教員一覧

学長 杉 正純

学部長 平野美理香

学部長補佐 篠原清夫 教授 (大多喜キャンパス) / 後藤佳子 教授 (東京校舎)

教養教育・ 専門基礎教育	教授	篠原清夫
	教授	山本理
	講師	新妻規恵
	講師	サムエルコランテン
	特任講師	伊藤春雄
基礎看護学	教授	後藤佳子
	准教授	山口道子
	講師	遠田きよみ
	講師	玉那霸文美
	助手	石井慶子
小児看護学	教授	廣瀬幸美
	特任准教授	松崎敦子
	講師	清野星二
母性看護学	教授	廣瀬幸美
	准教授	北田ひろ代
	助教	近藤勇美
成人看護学・ 老年看護学	教授	平野美理香
	特任教授	市川光代
	特任教授	鈴木純恵
	准教授	今野玲子
	講師	近藤かおり
	講師	素村知佳
精神看護学	助手	清水浩美
	准教授	松本浩幸
地域看護学・ 公衆衛生看護学	教授	浦橋久美子
	教授	鈴木美和
	助教	手塚早苗
	助教	朝見優子

学年アドバイザー

1年	山本理(長)、遠田きよみ、新妻規恵
2年	前期: 山口道子(長)、松本浩幸 後期: 鈴木美和(長)、朝見優子
3年	市川光代(長)、近藤かおり、近藤勇美
4年	卒業研究指導教員

2024（令和6）年度 看護学研究科学事曆

入学式	4月2日（火）
1年次オリエンテーション	4月2日（火）
1年次前学期授業開始	4月11日（木）
夏期休業	8月1日（木）～9月30日（月）
1年次後学期授業開始	10月2日（水）
第1回研究計画書 (テーマと方向性)	10月3日（木）
冬期休業	12月26日（木）～1月5日（日）
第2回研究計画発表会	2月6日（木）
2年次前学期授業開始	4月4日（木）
2年次オリエンテーション	4月4日（木）
倫理審査申請書提出	4月～承認まで
修士論文中間発表会	7月4日（木）
夏期休業	8月1日（木）～9月30日（月）
2年次後学期授業開始	10月3日（木）
修士論文提出（審査用）	12月23日（月）
冬期休業	12月26日（木）～1月5日（日）
修士論文審査	1月上旬
修士論文修正版提出	1月30日（木）
修士論文発表会	2月13日（木）
学位記授与	3月7日（金）
修士論文（保存用）提出	3月24日（月）

2024（令和6）年度 看護学研究科専任教員一覧

研究科長 平野美理香
研究科長補佐 廣瀬幸美
教学委員長 廣瀬幸美

スピリチュアルケア論	准教授	山口道子
看護教育学	教授	鈴木美和
看護技術学	教授	後藤佳子
成育看護学	教授	廣瀬幸美
	特任准教授	松崎敦子
	准教授	北田ひろ代
成人看護学	准教授	今野玲子
高齢者看護学	教授	平野美理香
	特任教授	市川光代
地域看護学	教授	齋藤泰子
	准教授	松本浩幸
キリスト教人間学	特任教授	東出克己
保健医療社会学	教授	篠原清夫

委員會活動

研究倫理審査委員会

1. 構成員

委員長：廣瀬幸美

委 員：篠原清夫、齋藤泰子、
金城隆展（外部委員）、宮城眞理（外部
委員）

書 記：廣瀬幸美

申請書類の受付・管理業務：東京校舎教務

2. 所掌事項

- 1) 研究者から申請された研究計画の倫理審査に
係わる事項
- 2) 研究倫理に係わる学内の教職員を対象とした
教育に関する事項
- 3) その他、研究科長が研究倫理審査に関して指
示する事項

3. 事業計画

- 1) 研究者から申請された研究計画の倫理審査を
円滑に行う。
- 2) 研究倫理審査申請の手続きや事務業務が円滑
に行われるよう、教務・学生課と連携し、協
力を得る。

3) 学内の教職員を対象とした研究倫理に係わる
教育として、本年度は4年毎の研究倫理教育
(日本学術振興会e-learningの受講)の受講
年になるため、FD委員会および研究推進委員
会と共に研修を実施し、教員全員の受講
を目指す。

4) 厚生労働省等公的機関への研究倫理審査状況
の報告をする。(速やかに「倫理審査委員会報
告システム」にアップロードする。)

4. 活動の実際

- 1) 2024年度の研究倫理審査定例審査および事前
審査日程、ならびに審査の実施については、
表1の通りである。
- 2) 研究倫理審査委員会は、①研究倫理審査委員
会（定例審査）ならびに事前審査は、8月と1
月を除き毎月開催を計画し、申請が無い場合
は原則として開催しない、②申請が無くても
委員会の運営上必要な場合は開催した（委員
会・審査の開催と議題は、表2の通り）。

表1. 2024年度の研究倫理審査定例審査および事前審査日程、審査の実施について

月	申請書提出期限	事前審査	審査時間	定例審査(本審査)	審査時間	審査の実施
4月	8日(月)15:00	15日(月)	14:30~	4月22日(月)	14:30~	新規2件
5月	7日(火)15:00	13日(月)	14:30~	5月20日(月)	14:30~	新規1件
6月	3日(月)15:00	10日(月)	14:30~	6月17日(月)	14:30~	新規1件
7月	1日(月)15:00	8日(月)	14:30~	7月16日(水)	14:30~	新規1件
9月	2日(月)15:00	9日(月)	14:30~	9月18日(水)	14:30~	新規1件
10月	7日(月)15:00	15日(火)	14:30~	10月21日(月)	14:30~	
11月	5日(火)15:00	11日(月)	14:30~	11月18日(月)	14:30~	
12月	2日(月)15:00	9日(月)	14:30~	12月16日(月)	14:30~	新規1件
2月	3日(月)15:00	10日(月)	12:50~	2月17日(月)	14:30~	新規1件
3月	3日(月)15:00	10日(月)	14:30~	3月17日(月)	14:30~	

表2. 研究倫理審査委員会の開催と議題

月日 (委員会／『審査会』)	議題、主な内容・経緯、等
4月15日(月) 14:30～15:40 第1回委員会	1. 委員会の活動方針、所掌事項の確認 2. 2024年度研究倫理審査の日程、委員会の通知・出席・役割等の確認
〃 『事前審査』	・4月8日(月)に申請のあった新規申請2件(大学院生)について事前審査し、その結果、大学院生からの申請のため、面接審査と判定
4月22日(月) 14:30～15:50 第2回委員会『本審査』	1. 4月定例研究倫理審査：新規申請2件について面接による本審査を実施 審査の結果、1件は「条件付き承認」、1件は「再審査」 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
5月13日(月) 『事前審査』	・5月7日(火)に申請のあった新規申請1件(4月審査で「再審査」となった院生による申請)について事前審査し、面接審査と確認
5月20日(月) 14:30～15:30 第3回委員会『本審査』	1. 5月定例研究倫理審査：新規1件について面接審査を実施、 審査の結果、「再審査」(2回目の再審査の判定) →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
6月12日(月) 『事前審査』	・6月5日(月)に申請のあった新規申請1件(4月・5月審査で「再審査」となった院生による3回目の申請)について事前審査を実施、面接審査と確認
6月19日(火) 14:30～15:30 第4回委員会『本審査』	1. 6月定例研究倫理審査：新規申請1件について面接による審査を実施 ・審査の結果、「条件付き承認」 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
7月8日(月) 『事前審査』	・7月1日(月)に申請のあった新規申請1件(教員からの申請)の事前審査を実施し、その結果、介入研究のため、面接審査と判定
7月16日(水) 14:30～15:40 第5回委員会『本審査』	1. 7月定例研究倫理審査：新規申請1件について面接による審査を実施 審査の結果、「再審査」 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
9月9日(月) 『事前審査』	・9月2日(月)に申請のあった新規申請1件(7月審査で「再審査」となった教員による申請)について事前審査し、面接審査と確認
9月18日(水) 14:30～15:40 第6回委員会『本審査』	1. 9月定例研究倫理審査：新規1件について面接審査を実施、 審査の結果、「再審査」(2回目の再審査の判定) →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
12月9日(月) 『事前審査』	・12月2日(月)に申請のあった新規申請1件(7月・9月審査で「再審査」となった教員による3回目の申請)について事前審査を実施し、面接審査と確認
12月16日(月) 14:30～15:40 第7回委員会『本審査』	1. 12月定例研究倫理審査：新規申請1件について面接による審査を実施 ・審査の結果、「条件付き承認」 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
2月10日(月) 『事前審査』	・2月3日(月)に申請のあった新規申請1件(教員からの申請)の事前審査を実施し、迅速審査(書面審査)と判定 →迅速審査としての手続き・審査の実施
引続き 第8回委員会	迅速審査の結果、「条件付き承認」 →「研究倫理審査結果答申書」を作成・確認し、研究科長に報告
3月3日(月) メール会議	3月3日に申請が無いため、3月審査委員会は休会。 本年度の振り返りとして、年報内容の確認をメール会議にて実施

3) 研究計画の変更、進捗状況、研究終了についての確認

- ・研究計画変更届は1件の申請があり、その内容は研究期間の1年延長であった。
- ・本年度進行中の研究（教員による申請で承認済）は2件あり、この2件とも年度末までに、進捗状況報告書の提出があった。
- ・本年度に終了となった研究は無かった。

4) 研究倫理教育（日本学術振興会e-learning）の受講の支援

- ・6月に研究推進支援室より、全教員及び大学院1年生宛に「研究倫理eラーニング受講開始のお知らせ」メールを個々のユーザID・パスワードと共に配信した。受講状況を確認しながら、未受講者への催促を行い、年度末に受講状況をまとめた。

5. 評価と課題

1) 研究倫理審査委員会開催と審査結果について

- ・今年度の審査体制も例年同様、構成委員5名の審査委員（内部委員3名、外部委員2名）で、8月と1月を除く毎月の合計10回の事前・定例開催を計画し、7回開催（表1：4月、5月、6月、7月、9月、12月、2月）、例年同様の回数であり、円滑に審査及び事務手続きが行われた。
- ・定例審査（本審査）前の『事前審査』結果では、全7回開催中、合計8件（全て新規8件）の審査が実施され、7件が面接審査（『本審査』：大学院生からの4件と教員からの3件）、1件が書面審査（迅速審査）となった。

なお、この書面審査1件は2月の迅速審査で、「条件付き承認」（表2）→再提出後に「承認」となった。

- ・事前審査後の『本審査』結果は、面接審査7件のうち、大学院生からの4件は、1件が「条件付き承認」（4月）→再提出後に「承認」となったが、残り3件は、2件「再審査」（4月、5月）、1件「条件付き承認」（6月）→その後に「条件付き

承認」→再提出後に「承認」であり（表2）、この3件は同じ大学院生による申請で、3回目に承認となったものである。この院生による研究計画は研究倫理上の困難な課題があったことが承認までに時間を要したと考えられるが、昨年5月の手順の改正で、大幅修正による「再審査」となった場合には次の申請は新規申請となって修正対照表作成・添付が無くなつたため、書類作成の負担が軽減され翌月の申請がスムーズに行われた。教員からの3件は、同じ教員からの申請による審査（介入研究のため本審査となった）結果であり、2件「再審査」（7月、9月）、1件「条件付き承認」（12月）→その後に「条件付き承認」→再提出後に「承認」であった（表2）。これも先の大学院生同様、3回目の申請で承認となつたが、この教員の場合は介入研究であることから、承認までには様々な課題がありその解決に時間を要したものと考えられる。

今年度は、申請から承認までに時間を要するものがあったものの、申請のあった8件全てが年度内に「承認」となり、申請者が指摘事項に真摯に対応された結果として、本委員会に申請された研究の倫理的妥当性及び科学的合理性の確保に繋がった。

- 2) 研究倫理審査申請の手続きや委員会開催関連事務業務、審査結果の報告、進行中の研究の報告・まとめにおいても、円滑に業務が遂行できた。

3) 研究倫理教育（日本学術振興会e-learning）の受講結果について

- ・受講対象者は、教員27名（研究者向け研修の受講）と大学院生4名（大学院生向け研修の受講）の合計31名。2月末日時点で、教員の受講修了者は24名（24名/27名中で88.9%）、大学院生は4名（4名/4名中で100%）のため、教員未受講者3名へ再通知。その結果、3名とも受講し、受講者全体の受講率100%を達成した。

- 4) 厚生労働省管轄の「倫理審査委員会報告システム」には、例年同様、今年度実施された8回

の研究倫理審査委員会の議事録について、各委

員会終了後に迅速にアップロードを行った。

教学委員会

1. 構成員

委員長：廣瀬幸美

委 員：市川光代、齋藤泰子、鈴木美和

書 記：諸見里優子（東京校舎教務大学院担当）

2. 所掌事項

1) 教育課程に関する事項

(1) 教育課程の運営に関する事項

- i 年間授業計画に関する事項
- ii オリエンテーションに関する事項
- iii 履修要項に関する事項
- iv 学位審査に関する事項
- v その他教育課程に関する事項

(2) 教育課程の評価方法の検討

(3) 試験及び単位の認定に関する事項

2) 学生支援全般に関する事項

(1) 生活指導に関する事項

(2) 健康管理に関する事項

(3) 履修指導に関する事項

(4) 奨学金に関する事項

3) 学生の入学・休学・退学等、身分異動に関する事項

4) 研究科長が諮問した事項及び運営会議が付託した事項に関する事項

3. 事業計画

1) 今年度は新カリキュラム実施 2 年目で、昨年度入学生は修了年を迎える。旧カリキュラム院生もおり、これら新・旧のカリキュラムを着実に実施する。

2) 修士論文作成・提出に向けて、昨年の改善点を踏まえ、院生及び指導教員への学修・指導支援を継続する。

3) 学生生活や履修について、迅速丁寧かつ適切に学生に対応する。

4) 入学者の獲得に向け、より有効な広報を検討するとともに、関連病院との協力体制をさらに強化する。

5) 2025 年度入試（I 期、II 期、III 期）を円滑に実施する。

4. 活動の実際

1) 委員会の開催

月 日	議 題（検討事項、報告事項）
第 1 回 2024.4.16 (火)	<ul style="list-style-type: none">・2023 年度 第 11 回教学委員会議事録の承認・2024 年度の教学委員会活動方針について確認・2025 年度学生募集要項大学院入学ガイド、募集チラシについて検討・M1 の合同演習〔前期：実践看護学演習 I 〈事例分析〉、後期：特別研究 I 〈第 1 回研究計画発表会〉〈第 2 回研究計画発表会〉〕について・修士論文審査関連：修士論文中間発表会の開催について、学位論文審査関連書類の配信について報告・2025 年度休学申請者（221301）計 1 名について報告

第 2 回 2024.5.21 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度第 1 回教学委員会議事録、2023 年度第 11 回議事録の差換えを承認 ・2024 年度の主・副研究指導教員について ・7 月「中間発表」を 12 月下旬「修士論文提出」の前提条件にするか否かについて検討 ・2024 年度大学院入試の広報、募集について報告 ・『三育学院大学研究理論審査申請手順』の改定について報告
第 3 回 2024.6.11(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度 第 2 回教学委員会議事録の承認 ・M1 の実践看護学演習 I (事例分析) の合同演習：全 2 回(2 名／回)で実施 ・2024 年度大学院 I 期入試の広報、募集について報告
第 4 回 2024.7.16 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度 第 3 回教学委員会議事録の承認 ・大学院生の 5 号館 1 階事務室印刷機の使用と事務室立ち入りの制限について検討 ・前期科目の成績の入力 (又は教務課への提出)、アンケート実施について報告 ・2025 年度大学院 I 期入試の応募状況について報告
第 5 回 2024.8.27 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度 第 4 回教学委員会議事録の承認 ・前期の成績判定 ・2025 年度大学院 I 期入試(9/1)実施要項について (台風用も合わせて) 検討 ・前期授業評価アンケートの結果が科目責任者に報告されたと教務課より報告
第 6 回 2024.9.10 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度 第 5 回教学委員会議事録の承認 ・2026 年度入試関連スケジュールについて ・第 1 回研究計画 (研究テーマと方向性) 発表会 (10/3) の実施について報告
第 7 回 2024.10.15 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度 第 6 回教学委員会議事録の承認 ・休学者について履修・休学期間を履修状況を整理し研究指導体制について確認 ・2024 年度修士論文審査スケジュールについて確認 ・2026 年度入試関連スケジュールについて：Ⅲ期の日程変更 (日曜日→月曜休日) ・2025 年度大学院 II 期入試の応募状況について報告
第 8 回 2024.11.12 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度 第 7 回教学委員会議事録の承認 ・2023 年度修士論文審査 主査・副査 (案) について検討 ・2025 年度 II 期入試関連日程について報告・確認 (定例 12 月 10 日(火)は、議題が無く休会)
第 9 回 2025.1.14 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度 第 8 回教学委員会議事録の承認 ・2025 年度 II 期入試(1/19)の実施について、実施要項等の確認 ・2025 年度大学院履修要項 (シラバス) について：加筆、回覧 ・第 2 回研究計画発表会 (特別研究 I : 合同演習) 2/6(木)の実施について報告 ・2024 年度修士論文発表会・大学院教授会 (判定会議) 2/13(木)の時間について確認 ・成績の入力 (又は教務課への提出)、アンケート実施について報告 ・2025 年度 III 期入試の応募状況について報告
第 10 回 2025.2.18 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度 第 9 回教学委員会議事録の承認 ・研究計画書の審査について検討し、修士論文発表会 (最終試験) の位置づけの確認 ・後期 M1 の成績判定、M2 の通年・修了要件について確認 ・2025 年度 III 期入試(2/24)の実施について、入試実施要項等の確認 ・次年度復学予定者 2 名の履修について検討 ・次年度新任の非常勤講師 2 名について、担当科目・所属等について報告
第 11 回 2025.3.11 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度 第 10 回教学委員会議事録の承認 ・2024 年度教学委員会活動報告書の確認 ・2025 年度新入生、M2 のオリエンテーションについて報告

2) 入試の実施

- ・2025年度Ⅰ期試験：2024年9月1日(日)、一般入試に1名の応募があり、1名が受験し1名合格
- ・2025年度Ⅱ期試験：2025年1月19日(日)、一般入試に1名の応募があり、1名が受験し1名合格
- ・2025年度Ⅲ期試験：2025年2月24日(月)、資格審査に1名応募あり、資格取得後に一般入試に応募し、この1名が受験し1名合格

5. 評価と課題

- 1) 本年度は新カリキュラム開始2年目で、新2年生3名は新カリキュラムでの初めての修了生となった。授業評価アンケートからは、共通科目に限定されているが、いずれの科目においても、興味深い内容で教員・院生間での討論で学びがより深まつたこと、学問の奥深さや難しさを実感する中で視点の広がりを導いてもらつた、などこれまでの旧カリキュラム同様、高評価であった。修了生対象の修了時アンケートでは、本研究科における様々な学びがあり、新カリキュラムの内容や履修指導・研究指導に対しても高い評価の回答が大部分であった。
- 2) 修士論文作成・提出に向けての学修・指導支援の取り組みとして、昨年度見直した内容を踏襲し、1年次の第1回および第2回研究計画発表会、2年次の中間発表会(7月上旬に一週間先送りし、7月4日実施)を修士論文作成までのステップとして実施した。発表時期の調整も行ったこともあり、院生・教員ともにそれぞれの発表を目指して実施した。発表時期の調整も行ったこともあり、院生・教員ともにそれぞれの発表を目指して実施した。なお、2年次の中間発表会は今年度より1年生の参加を認めたため、1年生にとって修了論文に取り掛かる次年度のプロセスがイメージでき有意義なものとなった。

教学委員会において上記の振り返りを行ったところ、以下の点が議論となつた。①第2回研

究計画発表会(2年生、2月に実施)は研究倫理審査提出(論文作成スケジュールでは4月を予定)の前提として研究計画書の審査を行つてはどうか: 第2回研究計画発表会は、特別研究Iの演習の一環であり評価は指導教員が行うこと、研究計画書の審査については研究倫理審査委員会において「人を対象とする生命科学・医学系研究倫理指針」に則つて行われてことから、審査の必要はないとの結論に達し、これまで通りの演習とする。②主査を初めて担当する教員もあり、修士論文発表会(最終試験)の位置づけが分かり難かった: 再度、「大学院履修要項」、「修士論文審査内規」を確認した。以上の教学委員会での議論を踏まえ、次年度には混乱が生じないように、「修士論文審査内規」をプログラムとともに配布する、修士論文要旨集を審査会にて配布・回収する、主査・副査により論文の評点は審査判定会議では公表せず内容のコメントのみとするなどの対策を決議し、大学院教授会において大学院担当教員への周知を行つた。

- 3) 学生生活や履修の支援については、今年度休学中の3名(2年次生2名: 修士論文と特別研究IIの履修未、1年次生1名)に対して、特に2年生1名と1年生1名は作年度より続く休学2年目で最後の休学年度となり次年度復学が極めて高いことから、担当の指導教員と情報共有・連携し、教学委員会においても各学生個別の支援を検討し、指導教員に対する支援も行った。休学2年目を担当の指導教員は、2名とも院生が希望する研究テーマ・領域を重視したことから、本年度から丸合(研究主指導)教員となつた教員が担当となつた。この2名の教員は大学院での指導経験が浅い(本学では副指導経験のみ)ことから、今後も研究指導の相談・支援を教学委員会として行っていく必要がある。もう1名の休学2年次生については、次年度の身分変更、履修に向けて、担当の指導教員と連携し

ながら教育支援を行った。しかしながら、年度末になって、休学者 3 名のうち、2 年次生の 2 名から退学の申し出があり受理され、大学院開設以降初めての退学者を出すことになった。この退学者 2 名は、入学年度は異なるが本学卒業生であり、卒業見込みで受験した学生であった。入学後は、臨床経験が無いことから学業に支障のない程度で臨床に出るなどして研究テーマを探ったが、研究課題の設定や研究計画に難渋し、途中、指導教員の変更も重なったことも影響して学習が停滞し、残念な結果となった。

4) 入試広報については、昨年に引き続き、HP の充実、看護系学術集会でのチラシの配布、関連病院への働きかけを行った。さらに研究科長には同窓会出席の折、本学大学院のアピールをお願いするなど本学卒業生にターゲットを絞った活動も行った。なお、在学生に対する広報は、卒後に臨床経験を経てからの入学を奨励することから、例年通り情報提供は行わなかった。

今回 3 名の受験者があり、1 名は関連病院の看護師で看護部長からの勧めによるもの、1 名は本学卒業生でこちらも関連病院勤務だが本人の従来からの希望によるもの、1 名は本学教員の紹介によるものであった。以上の 3 名は、本学の入試広報活動と直接関わるものではなかったが、次年度も同様の広報活動は継続する予定である。

5) 2025 年度入試では、I 期、II 期、III 期とも各 1 名の受験で、3 名とも合格となった。入学予定者は 3 名で 5 名定員のため、定員充足率 60% であり、昨年度は 4 名（充足率 80%）と比べて、1 名減（充足率 20% 減）となった。入学者 3 名の所属は、1 名は東京衛生アドベンチスト病院の看護師長であり、1 名は神戸アドベンチスト病院看護師の後この 2 月より本学教員、1 名は近隣病院の看護師であった。

2024 年度在籍／2025 年度入学	履修生／入学生	休学	合計
2024 年度 1 年次生	4 名	1 名	5 名
2 年次生	3 名	2 名 ^{注1)}	5 名
2025 年度入学予定	3 名	—	10 名

注 1) 2 名（休学の 2 年次生）は 2024 年度末で退学

2024 年度 修了生（領域）		修士論文題目	研究指導
1	立石 愛（地域看護学）	ひきこもり支援における自治体保健師の思考過程	齋藤 泰子 教授
2	遠田 朋子（看護教育学）	看護専門学校に就業する教員が実践する社会人経験学生へのキャリア形成支援	鈴木 美和 教授
3	平尾 知子（地域看護学）	医療・福祉分野で働く労働者のヘルスリテラシーの実態	齋藤 泰子 教授

入試広報委員会

1. 構成員

委員長：杉正純

委 員：平野美理香、浦橋久美子、
後藤佳子、篠原清夫、鈴木美和、
清野星二、平澤久美子、諸見里優子、
榎原拓巳、池田直子、伊波浩樹
山口伊作

書 記：諸見里優子

役割分担

役割	氏名
委員長	杉正純
教員委員	杉正純、平野美理香、 浦橋久美子、後藤佳子、 篠原清夫、鈴木美和、 清野星二
職員委員	平澤久美子、諸見里優子、 榎原拓巳、池田直子 伊波浩樹、山口伊作

2. 所掌事項

- 1) 学生募集に関する事項
- 2) 入学試験に関する事項
- 3) 広報に関する事項
- 4) 奨学金、学生納付金優待制度等に関する事項
- 5) その他、入試広報に関し、委員長が必要と認める事項

3. 事業計画

1) 委員会開催

- ①月 1 回の定例会議を行う。
- ②必要に応じて臨時の会議を行う。

2) 入学者選抜試験に関する計画

- ①入試広報課業務担当は入試業務の企画を担当し、運営は全教職員の協力を得て行う。
- ②業務は正確かつ効率的に行う。業務内容に

は、試験監督、面接員、交通宿泊の確保、試験問題や解答用紙の持ち運び、合否判定会議の招集、発表など入試監督等のマニュアル整備などを含む。

③入試監督等のマニュアルを整備する。前年度合否発表処理のインシデント発生を踏まえ、合否判定後の実務処理を含むマニュアルを整備し、実行する。

④入試問題は委員長および入試広報課担当者により作問者の選定と依頼、および試験問題の管理を行う。

3) 学生募集に関する広報活動

①前年度の結果（2024 年度入学生数）を踏まえ、以下を優先的重點策とする。

- ✓ グループ分け重点リストに基づく高校訪問
- ✓ 系列校へのアプローチ
- ✓ キリスト教学校、実績校など重点校の設定
- ✓ 全学体制での高校訪問、広報活動を行う

②広報ツールを計画し、作成と配布を行う。
(紙媒体印刷物、Web、SNS など)

③OC、看護学体験セミナー、などのプログラムを企画実行する。

④高校ごとの病院見学説明会、出張講義・説明会などを実施する。

⑤上記活動から 2025 年度 50 名の入学者数確保を目指す。

4. 活動の実際

1) 委員会活動

表 1 に開催日および議題をまとめる。

2) 入学者選抜試験

表 2 に実施状況をまとめる。

3) 学生募集活動

表 3 に活動の概要、表 4 に学生募集関連イベント実施状況をまとめる。

表1 入試広報委員会開催日と議題

開催日	議題
第1回 2024年4月9日	1. 学校推薦型選抜の追加：キリスト者等推薦 2. 広島三育学院カレッジデー派遣者 3. OC 及び入試業務担当方針 4. 看護職アピールパンフレット（小冊子）作成 5. 2024年度入試広報委員会活動計画 6. 3月学生募集活動報告
第2回 2024年5月7日	1. 2025年度指定校一覧 2. 上半期の学生募集活動 3. 広報活動計画（5月） 4. 4月学生募集活動報告 5. 地域との協定（大多喜・御宿）
第3回 2024年6月4日	1. 指定校の追加（2校） 2. 看護職紹介冊子の作成（株式会社 細山田デザイン事務所） 3. 広島三育学院の大学見学ツアーワークショップ 4. 入試課職員補充について 5. 5月学生募集活動報告
第4回 2024年7月2日	1. 指定校の追加（1校） 2. 広島三育学院の大学見学ツアープログラム 3. 面接評価の基準について 4. 入試広報委員会年間スケジュール 5. 広報ツール作成（動画・パンフレット） 6. 6月学生募集活動報告
第5回（臨時） 2024年7月19日	1. 指定校の追加（1校）
第6回 2024年9月3日	1. 指定校の追加（1校） 2. 学寮体制変更に伴う入試広報課としての検討 3. 面接評価の基準について 4. 2025年度年間スケジュール検討 5. 8月学生募集活動報告
第7回 2024年10月6日	1. 指定校の追加（1校） 2. 入試会場の追加（沖縄） 3. 入試マニュアル（面接評価基準）追記 4. 2026年度入試について 5. 入学前課題「学問サキドリプログラム」株式会社進研アド 6. 系列学校プログラム（行事支援等） 7. 9月学生募集活動報告
第8回 2024年11月5日	1. 次年度契約業者について 2. 2024年度学生募集活動報告

	3. 10月学生募集活動報告（訪問校リスト）
第9回 2024年12月3日	1. 系列校入試の追加について（12月15日） 2. 予備選考会議の時間変更 3. 保健師認知調査結果 4. 三育学院中等教育学校ベスパー、チャペル担当について 5. 11月学生募集活動報告
第10回（臨時） 2024年12月16日	1. 2025年度広報予算の承認について (株式会社リクルート、株式会社マイナビ)
第11回 2025年1月17日	1. 12月学生募集活動報告 2. 広島三育学院高等学校及び三育学院中等教育学校との情報交換会 3. 地域連携枠の提携進捗状況について
第12回（予備選考） 2025年2月4日	1. 一般選抜試験Ⅰ期の選考
第13回（予備選考） 2025年2月25日	1. 一般選抜試験Ⅱ期の選考
第14回 2025年3月4日	1. 看護学体験セミナーの日程変更について（AMC） 2. 2026年度指定校リスト（案） 3. 2026年度募集要項_地域推薦 4. 2025年度入試広報課営業方針 5. イベント申込状況 6. 2月学生募集活動報告
第15回（予備選考） 2025年3月18日	1. 一般選抜試験Ⅲ期の選考

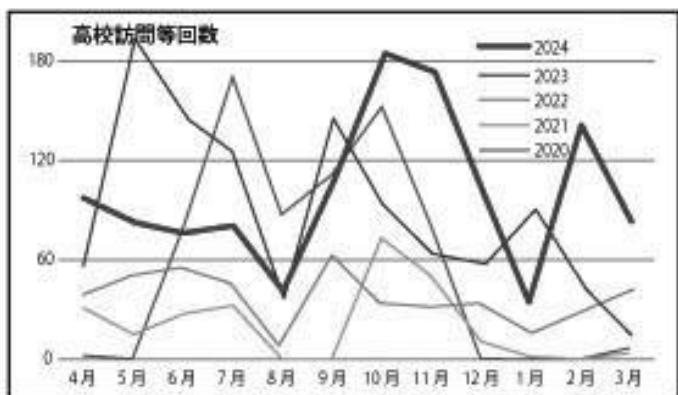
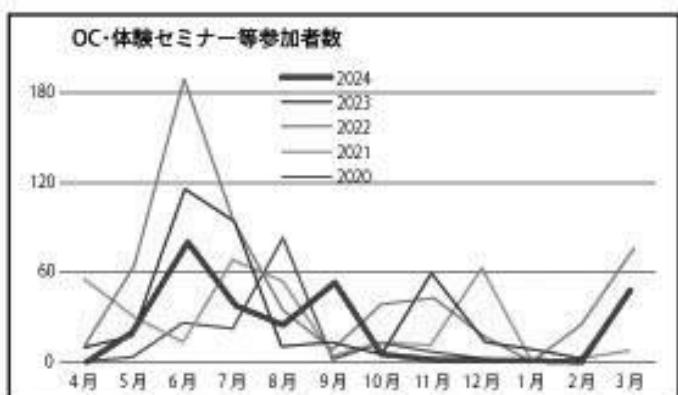
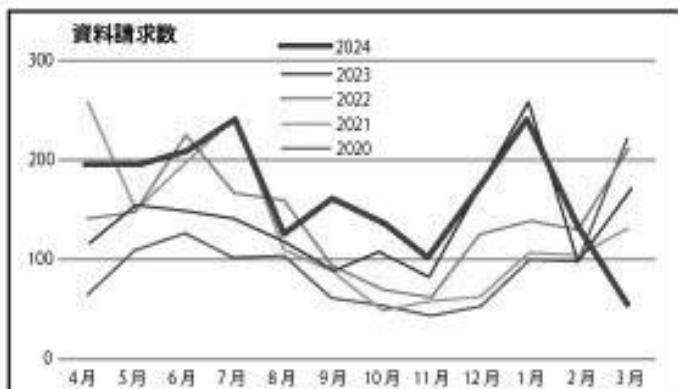
表2 入学者選抜試験実施状況

実施日	入試区分	出願者	受験者	合格者	入学者
10/20	総合型選抜試験Ⅰ期	4	4	3	3
11/24	総合型選抜試験Ⅱ期	1	1	1	1
12/15	総合型選抜試験Ⅲ期	1	1	1	1
2/23	総合型選抜試験Ⅳ期	0	0	0	0
11/24	公募制推薦試験Ⅰ期	3	3	3	3
12/15	公募制推薦試験Ⅱ期	3	3	3	3
11/24	キリスト者等Ⅰ期	1	1	1	1
12/15	キリスト者等Ⅱ期	1	1	1	1
11/24	指定校推薦試験	7	7	7	7
2/2	一般選抜試験Ⅰ期	3	3	2	2
2/23	一般選抜試験Ⅱ期	2	2	0	0
3/16	一般選抜試験Ⅲ期	3	2	2	1
合 計		29	28	24	23

表3 学生募集活動サマリー

学生募集活動サマリー【2025.03.31】

2020年度～2024年度実績



	2020	2021	2022	2023	2024
4月	64	257	140	116	193
5月	110	149	148	155	194
6月	126	197	225	148	208
7月	100	244	166	140	243
8月	102	108	159	118	124
9月	60	87	91	88	161
10月	53	49	70	108	138
11月	42	57	61	83	99
12月	51	61	125	174	179
1月	98	107	138	256	241
2月	97	104	130	99	133
3月	220	131	211	169	56
合計	1,123	1,551	1,664	1,654	1,956

	2020	2021	2022	2023	2024
4月	0	57	10	11	1
5月	3	30	64	19	22
6月	26	13	189	117	80
7月	22	69	95	94	38
8月	84	54	35	10	26
9月	4	3	11	14	53
10月	13	13	39	6	5
11月	7	11	42	60	3
12月	1	63	18	16	2
1月	0	2	0	9	2
2月	1	1	24	0	0
3月	49	7	75	46	46
合計	210	323	602	402	278

	2020	2021	2022	2023	2024
4月	1	31	39	57	97
5月	0	15	50	196	84
6月	79	27	55	148	78
7月	170	32	46	126	82
8月	87	0	8	37	39
9月	111	0	62	145	108
10月	152	73	33	95	185
11月	81	50	31	62	176
12月	0	10	33	59	101
1月	0	1	17	90	34
2月	0	0	29	42	142
3月	6	3	42	11	82
合計	687	242	445	1,068	1,208

	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度		
	出願者数	合格者数	入学者数												
指定校推薦(系列校)	4	4	4	2	2	2	3	3	3	0	0	0	3	3	3
指定校推薦	12	12	12	11	11	11	8	8	8	7	7	7	4	4	4
キリスト者等推薦													2	2	2
公募制推薦	6	5	4	4	4	4	2	2	2	6	6	6	6	6	6
総合型/AO推薦	22	17	16	12	8	8	13	12	12	8	8	8	6	5	5
一般Ⅰ期	13	10	3	12	10	4	12	10	4	4	4	1	3	2	2
一般Ⅱ期	7	4	2	3	3	2	2	0	0	1	1	0	2	0	0
一般Ⅲ期	2	2	0	0	0	0				4	2	1	3	2	1
一般Ⅳ期	4	2	2	0	0	0									
一般Ⅴ期							1	1	0						
社会人・その他															
合計	70	56	43	45	39	31	40	35	29	30	28	23	29	24	23

表4 学生募集関連イベントの実施状況

日程	内 容	参加者数	高3生 既卒生	出願者数	出願率
6/23	TAH 看護学体験セミナー/東京OC	5	4	3 (指1, キ1, 総1)	75.0%
7/14	TAH 看護学体験セミナー/東京OC	7	3	1 (総1)	33.3%
8/11	TAH 看護学体験セミナー/東京OC	13	6	4 (指1, 総1, 公1, 一般2)	66.6%
9/15	東京OC	4	3	0	0.0%
10/6	東京OC	4	2	0	0.0%
6/16	大多喜OC	2	1	0	0.0%
7/7	大多喜OC	2	2	1	50.0%
8/4	大多喜OC	5	4	1 (総1)	25.0%
9/8	大多喜OC	6	3	2 (総1, 公1, 一般1)	66.6%
3/23	大多喜OC	2	2	※2025入試対象者	
6/9	KAH 看護学体験セミナー	1	1	1 (指1)	100.0%
7/21	KAH 看護学体験セミナー	1	0	0	0.0%
3/27	KAH 看護学体験セミナー	0	0	※2025入試対象者	%
6/2	AMC 看護学体験セミナー	35	35	0	0.0%
7/14	AMC 看護学体験セミナー	20	9	0	0.0%
3/23	AMC 看護学体験セミナー	40	40	※2025入試対象者	
6/25	尚絅学院高等学校ガイダンス	37	1	0	0.0%
7/23	広島三育学院体験	7	5	2 (指1, 公1)	40.0%
8/19	玉川聖学院高等部ガイダンス	8	6	0	0.0%
9/12	日本大学第二高等学校ガイダンス	37	0	0	0.0%
随時	いつでも見学	15	14	13 (指1, キ1, 公5, 総3, 一般4)	92.8%
随時	業者主催説明会 等	47	9	0	0.0%
合 計		298	150	28	18.6%

※参加者数の内、2025入試対象者の数（高校3年生および既卒生）

5. 評価と課題

本年度は、4グループ分けの優先リストに基づく高校訪問計画の実施、指定校基準の見直し、新たな学校推薦型区分として「キリスト者等推薦入試」の導入など、入試制度の充実とその周知を図り、学生募集活動を展開した。

また、10月以降は入試広報課のスタッフ増員や、沖縄県の系列病院との協力体制を強化するなど、重点施策を推進した。これらの取り組みは、

本学の魅力を広く伝えるための重要な施策であり、今後の展開に向けた基盤を形成するものである。

一方で、千葉県南総地域における18歳人口の減少および看護系志望者の減少という全国的な傾向が影響を及ぼしており、志願者確保の課題は依然として残る。しかしながら、これまで北海道、東北、沖縄など地方から一定数の出願があった実

績を踏まえ、地域ごとの特性に応じた戦略的アプローチを展開することで、新たな可能性を見出しができると考えられる。

こうした状況の中で、本学の特色をいかに広く発信し、「本学が目指す看護師像」に共感する高

校生に訴求するかが、引き続き重要な課題である。今後も、より効果的な広報戦略の構築と実施を通じて、本学の教育理念と魅力を的確に伝え、志願者の確保につなげることが求められる。

FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会

1. 構成員

委員長：平野 美理香

委 員：廣瀬 幸美（副委員長：研究研修）

山口 道子（副委員長：教育研修）

新妻 規恵 清野 星二

書 記：新妻 規恵 清野 星二

役割分担

内容	担当者
研究プログラム	廣瀬 幸美、清野 星二
教育プログラム	山口 道子、新妻 規恵
評価アンケート	清野 星二

2. 所掌事項

1) 教育活動の質的向上に関する事項

2) 研究と教育に関する研修会の実施

3) その他 FD に関する事項

3. 事業計画

教員を対象にした研修を 5 回開催し、内容は研究プログラムを 2 回、教育プログラムを 3 回とする。委員会の開催は、年 4 回の定例会議、及び各プログラム開催に合わせ必要時臨時会議を追加する。その際は、事前に委員長が招集する。

1) 研究関連プログラム（年 2 回開催）

学内教員の研究報告を行い、新たな教育的示唆を得る。

① 研究報告（年 1 回）

② 倫理研修（年 1 回）

研究倫理研修（e ラーニング）についての説明

・研修日程

研究報告 1：清野 星二先生 8 月 5 日（水）

研究報告 2：近藤 勇美先生 8 月 5 日（水）

倫理研修：廣瀬 幸美先生 6 月 19 日（水）

2) 教育関連プログラム（年 4 回開催）

2025 年度、追認証評価受審に向けた取り組みに関する内容を内部質評価委員会と連携して実施する。

・研修日程

教育研修 1：2024 年 6 月 19 日

授業評価可視化システム アセスメンター導入について 講師：濱野 史雄 様

教育研修 2：2024 年 8 月 21 日（水）

内部質保証・自己点検評価の取り組みについて
授業評価可視化システム「アセスメンター」導入運用について

教育研修 3：2024 年 12 月 23 日（月）

アセスメントチェックリストの活用確認と
アセスメンターを用いた専門性・DP 到達度
の確認・分析 追評価受審に向けての取り組み
各領域にてアセスメンターを用いて授業評価、改
善点についてグループワークを実施

教育研修 4：2025 年 3 月 25 日（火）

アセスメンターを用いた専門性・DP 到達度
の確認・分析と今後の取組みについて

① ジェネリックスキル(PROG テスト)から見た本
学生の特徴

講師：北田 ひろ代先生

② 合理的配慮の必要な学生への教育的関わり

講師：松崎 敦子先生

各領域でアセスメンターを用いた後期の授業・
実習評価の分析と改善点の検討

3) 教育オプション研修

テーマ：看護教育場面での教育を知る

—教えるとは何か？学生とは何か？—

講師： 森 祐二先生

日時：2024 年 6 月 25 日・7 月 9 日

4. 活動の実際

1) FD 委員会会議の開催

開催日	議題
第1回 FD 委員会 2024年4月30日(火)	1. 今年度の活動方針の検討(役割分担、研修会の内容) 2. 教育研修オプション企画の検討
第2回 FD 委員会 2024年7月17日(水)	1. 第1回 FD 研修会、教育研修オプション企画アンケート結果の報告 2. 第2回～第5回 FD 研修会の検討
第3回 FD 委員会 2024年11月5日(火)	1. 第3回 FD 研修会アンケート結果の報告 2. 第4回～第5回 FD 研修会の検討
第4回 FD 委員会 2025年2月4日(火)	1. 第4回 FD 研修会アンケート結果の報告 2. 第5回 FD 研修会の検討 3. 次年度 FD 研修会の日程と内容の検討

2) FD 研修会の開催

	開催日	講師	テーマ	参加者
第1回	6月19日	濱野史雄 様 (学びと成長のしくみデザイン研究所) 廣瀬幸美 先生	教育研修「新システム(アセスメンター)導入について」 研究倫理「研究倫理のEラーニングについて」	25
第2回	8月5日	清野星二 先生 近藤勇美 先生	研究報告「幼児期の子どもをもつ父親の育児関与とその関連要因」 研究報告「1ヶ月健診までの家庭における新生児スキンケアの実態調査-A 病院における保湿ケア指導後の実態-」	22
第3回	8月21日	濱野史雄 様 杉 正純 先生 今野玲子 先生	FD・SD 合同教育研修「大学新システム導入・高大連携について」	26
第4回	12月23日	平野美理香 先生 今野玲子 先生 廣瀬幸美 先生	教育研修「アセスメントチェックリストの活用確認とアセスメンターを用いた専門性・DP到達度の確認・分析-追評価受診に向けて-」	25
第5回	3月25日	平野美理香 先生 廣瀬幸美 先生 北田ひろ代 先生 松崎敦子 先生	教育研修「アセスメンターを用いた専門性・DP到達度の確認・分析と今後の取り組み-ジェネリックスキル(PROG テスト)から見た本学生の特徴と合理的配慮の必要な学生への教育的関わりを踏まえて-」	23

3) 教育オプション研修の開催

	開催日	講師	テーマ	参加者
第1回	6月25日	森 祐二 先生	教育オプション研修「授業とはどのような営みか -自分の授業観を持つ-」	15
第2回	7月9日	森 祐二 先生	教育オプション研修「カリキュラムとは何か-指導案作成の基本-」	13

5. 評価と課題

1) 研究関連プログラム

研究活動の質的向上に向け、研究倫理研修と学内教員2名による研究懇話会を1回ずつ実施した。

研究懇話会では2名の教員の研究が報告された。実際に取り組んだ研究報告より、看護実践の示唆や活用について討議され、今後の学生指導にも活かせる内容であった。研修後のアンケート（回収率64.0%）では56%がとても良かった、44%が良かったと回答した。フリーコメントでは「研究テーマはどちらも子育てに関する内容で、近年は父親母親の認識の変化が激しく、重要なテーマであると感じた」「父親の育児関与に関して、要因が及ぼす影響が具体的に分かった」「赤ちゃんのきれいな皮膚がお母さんの自信になっていると感じられる場面にあったことがあり、とても興味深かった」との意見があった。

研究倫理研修は、FD副委員長の廣瀬幸美先生よってEラーニングを用いた研究倫理について紹介と8月末日まで全員が研修を受講することについての発表がなされた。結果、2024年度において100%の教員が研究倫理研修を受講することができた。今後も年に1回の倫理研修の中で企画していく。

2) 教育関連プログラム

内部質保証委員会と連携し、2025年度の認証評価再受検および教育の質向上に向け、今後さらに取り組むべき課題や計画・改善点を明確できるよう、4回の教育研修と新任教員対象にオプションとして教育研修を開催した。

第1回目の教育研修は、教学マネジメントのための学修成果可視化システム導入に向けた研修会を実施した。外部講師により、教学マネジメントのための新システム（アセスメンター）の使用に向け、使用の意義や具体的な使用方法などの説明を受けた。研修により、学生が主体的な学修者となるために、学生自身が学修計画を立て、振り返るなど、PDCAサイクルを回す仕組みについての認識を深めた。また、学生が主体となり自己の学修計画を振り返ること、さらに授業アンケートなどより、DPの達成度などを教員が確認し分析し、それにより授業やカリキュラム改善につながることを再確認した。研修後のアンケート（回収率64%）では、50%がとても良かった、44%が良かったと回答した。「このような学修成果可視化システムにより、教員の授業内容、教授法が受講学生の成長評価につながることについて、責任を感じ、成果を上げることができるのか、その能力があるのか、と考える時間となった。」や「日々の業務の中では『教育』のことを学ぶのは難しいのでこのような機会があり感謝している。」などの意見があった。

第2回目の研修は、SDと合同で実施した。外部講師による、学修者本位の教育実現と学修成果可視化に向けた取り組みに関する事、内部質保証の一環として、AP,CP,DPの3ポリシーに基づく大学レベル、教育課程レベル、科目レベルにおける学修成果を測定・評価するための方針（アセスメントポリシー）、アセスメントチェックリストなどの確認を全学的に行った。またこれらの活用により、学修者自身が主体的な学修者となり、さらに、自己点検評価結果をもとにカリキュラム等の

改善ができる取り組みとなることを再度確認した。最後に領域ごとにグループワークを実施し、科目の授業アンケート結果を確認・分析を行い、科目目標の到達度や DP の到達度確認を実施し、アセスメント実施報告書を作成した。加えて高大連携の取り組みについての理解を深めるための研修も実施した。研修後のアンケート（回収率 76.9%）では、45%がとても良かった、45%が良かったと回答した。「全学体制で教育の質をより良いものにしていこうと回していること、その動きが一時ではなく続いていること改めて理解した」や「教職員の認証評価への意識向上のために必要なプログラムだと思った。外部講師の研修内容は的を射ていて、実践的でとても良い。」などの意見があった。

第 3 回目の研修は、内部質保証委員長より、大学における内部質保証委員会の位置づけ、活動内容、自己点検評価との関連などの確認・説明があった。また、教務委員長より、本学のカリキュラムマップの確認、および追評価受審ワーキング長より、認証評価追評価までのワーキングスケジュールやアセスメントチェックリストの確認・説明があり、これらの認識を深めた。さらに領域ごとに学修成果可視化システム（アセスメンター）を使用し、8 月の研修で実施できなかった科目の結果確認・分析などのグループワークを実施し、アセスメント実施報告書を作成した。グループワークでの内容を、全領域で確認し、学生の学修成果や弱点、今後の対策などを共有した。アンケート（回収率 72%）結果では、50%がとても良かった、50%が良かったと回答した。「学修成果可視化システム（アセスメンター）から学生のことが見えてくるということを体感した。本学の学生に合わせた学びの支援を考え、また領域を越えて共有し合える貴重な時間だった。」や「学修成果可視化システム（アセスメンター）に慣れ、PDCA が回るようになったら、新しい知見を得られる研修などを希望する。」という意見があった。

第 4 回目の研修は、内部質保証委員長より、内

部質保証の組織機能図についての説明があり、各部・各委員会において自己点検評価に必要な取り組みが組織的に行われることなどの再確認が行われた。またアセスメントチェックリストを用いて、AP,CP,DP を踏まえた学修成果の分析・改善に向けた取り組みについて確認・説明があり、とくに専門性・DP 到達度の確認・活用の意義が強調された。また、追評価受審ワーキング長より、追評価受審ワーキングの経過報告があり、現時点での作業進捗や今後の実施内容が説明された。さらに今回の研修では、前回の研修のアンケート結果を踏まえ、学生の現状を踏まえた研修を実施した。はじめに IR 委員長による、ジェネリックスキル（PROG 結果）から見た本学生の特徴の説明・確認があった。次に小児看護学教員による、合理的配慮の必要な学生への教育的関わりについて研修を実施した。その後、領域別にグループワークを実施し、主に実習に関する授業評価結果を確認・分析を実施し、アセスメント実施報告書を作成した。最後に全領域でのアセスメント結果を共有し、学生への関わりや支援について検討した。研修後のアンケート（回収率 82.6%）結果では、68.4%がとても良かった、31.6%が良かった、と回答した。また、「講師の先生のお話を通して学生理解が深まった。」や「合理的配慮に関して、わからないことが多かったため、大変貴重な時間だった。」「領域での科目振り返りを FD の時間で実施することで、他領域の発表を聞くことができ、全体の様子がわかるので、良い。」という意見があった。

今年度は教育オプション研修を企画し、対象を主に大学教育経験が短い教員として 2 回シリーズで開催した。参加は任意とし、第 1 回には 15 名、第 2 回には 13 名が参加した。第 1 回研修後のアンケート（回答率 73.3%）では、とても良かった 55%、良かった 45%と回答した。フリーコメントでは、「教員が適切な目標をたて、目標と評価を一体化、明確化することにより学生が効力感を感じ、学生の自律的な学習につながっていくのだという

ことを理解することができました。」「私は『教育とケアの本質は同じ』だと、かなり前から思っていましたので、今回森先生のお話（教育の基本）を聞くことができて非常に良かったです。」「指導案の作成について具体的に例を示してくださっていましたので、イメージしやすく今後の自分の課題が見つかりました。」との意見があった。

第2回研修後のアンケート（回答率53.0%）では、とても良かった86%、良かった14%と回答した。フリーコメントでは「教育は、社会の形成と発展に大きな影響を与える『目的意識的な営みである』という意識して、授業案を丁寧に作成してから授業に臨んでいきたいと思いました。授業案の作成について具体的に例を示してくださっていましたので、イメージしやすく今後の自分の課題が見つかりました。」「指導案に必要な要素を具体的に教えていただき、指導案の必要性を知り、また目標と評価を一体化することの重要性をさらに認

識しました。前回、今回とも初めて聞く用語がたくさんありました。教えていただいたそれらの用語をポイントに教育に関する学びも進めていきたいと思います。」との意見があった。

その他のコメントとして「森先生にご講義いただける機会が今後もありますように希望いたします。」とあり、学びの多い研修内容だったことが伺えた。

今後も教育の質改善に向けた取り組みに向け、内部質保証委員会より具体的な研修内容について助言・支援・指導を受け、本学に必要な研修が実施できるよう、検討していく。常に教学マネジメントとして、学生主体の学修ができるよう、PDCAサイクルを回す取り組みのための仕組み作り、本学学生の特徴に合わせた、教育・支援に必要な研修の実施を心がけ、教育の質向上に向けた計画を立案していく。

自己点検評価委員会

1. 構成員

委員長：篠原清夫

委 員：今野玲子、手塚早苗、平澤久美子、
中村信一、山口伊作

書 記：篠原清夫

2. 所掌事項

自己点検項目に基づき、次の事項を審議する。

- 1) 自己点検評価の実施方法に関する事項
- 2) 自己点検評価結果の分析に関する事項
- 3) 自己点検評価結果に基づく改善策に関する事項
- 4) 自己点検評価結果の公表に関する事項
- 5) 「第三者評価制度」に係る事項
- 6) セブンスデー・アドベンチスト学校大学認可協会による評価に関する事項
- 7) その他自己点検評価に関する事項

以上の所轄事項に基づき、本学の教育研究に関する全学の活動状況並びに組織、施設・設備、運営の状況 などについて全学的観点に立って自己点検評価を行うため、内部質保証委員会の依頼に基づき資料を集約、結果報告を行う。

3. 事業計画

以下の項目における資料収集を行い、『2023年度自己点検評価書』を作成、内部質保証委員会に報告する。また来年5月末までのデータを入れた『2024年度自己点検評価書』の作成準備をするとともに、来年度の高等教育評価機構による追評価受審のための『追評価自己点検評価書』の作成を実施する。

【基準1 使命・目的等】

- 1-1 使命・目的及び教育目的の設定
- 1-2 使命・目的及び教育目的の反映

【基準2 学生】

- 2-1 学生の受け入れ
- 2-2 学修支援
- 2-3 キャリア支援
- 2-4 学生サービス
- 2-5 学修環境の整備
- 2-6 学生の意見・要望への対応

【基準3 教育課程】

- 3-1 単位認定、卒業認定、修了認定
- 3-2 教育課程及び教授方法
- 3-3 学修成果の点検・評価

【基準4 教員・職員】

- 4-1 教学マネジメントの機能
- 4-2 教員の配置・職能開発等
- 4-3 職員の研修
- 4-4 研究支援

【基準5 経営・管理と財務】

- 5-1 経営の規律と誠実性
- 5-2 理事会の機能
- 5-3 管理運営の円滑化と相互チェック
- 5-4 財務基盤と収支
- 5-5 会計

【基準6 内部質保証】

- 6-1 内部質保証の組織体制
- 6-2 内部質保証のための自己点検・評価
- 6-3 内部質保証の機能性

4. 活動の実際

- 1) 自己点検評価委員会活動方針の検討・確認
 - ・本年度の活動方針を検討し、自己点検評価書の作成方針を確認した。（第1回委員会：2024年5月21～22日）
- 2) 自己点検評価書の作成・提出
 - ・昨年度末から実施していた『2023年度自己点検評価書』の各基準担当者を中心に原稿作成が

行われ、提出・委員会による編集が行われた。

(2024年4~11月)

・委員会で内容を確認・修正するとともに、各基準の評価を行い、自己点検評価書を完成させ内部質保証委員会に提出した。(2024年10月14日)

3) 追評価自己点検評価書の作成

・2025年度に高等教育評価機構の追評価を受審

するための『追評価自己点検評価書』作成に関して認証評価追評価ワーキンググループに協力した。

4) 『2024年度自己点検評価書』の原稿依頼の実施(2025年1月31日)

5) 本年度活動の評価と課題・来年度方針検討

(第4回委員会:2025年3月13日)

委員会開催と議題

日 時	議 題・内 容
2024年5月21~22日 第1回自己点検評価委員会(メール会議)	2024年度自己点検評価委員会活動方針の検討 1)『2023年度自己点検評価書』作成・内部質保証委員会への報告および公表 2)『2024年度自己点検評価書』作成のための情報収集 3)自己点検評価のデータ収集・整理・保管方法の検討 4)「自己点検評価委員会規程」の改正への協力 5)「日本看護学教育評価機構(JABNE)」の認証評価受審の検討 以上の活動計画(案)が承認され、次回教授会で発表することが決定された。
2024年6月13日 第2回自己点検評価委員会	1.『2023年度自己点検評価書』(2024.6.7案)の検討 2.自己点検評価書のための資料共有
2024年6月21~27日 第3回自己点検評価委員会(メール会議)	1.『2023年度自己点検評価書』2024.6.21暫定版の検討
2025年3月13日 第4回自己点検評価委員会	1.『2024年度自己点検評価書』作成方針の検討 2.2024年度委員会活動の評価と課題の検討

5. 評価と課題

本年度の中心的な活動の一つである『2023年度自己点検評価書』を作成し、内部質保証委員会に報告することができたが、複数回にわたる修正により6月に完成させることができず、内部質保証委員会への提出が10月になったことは課題である。今年度は『2024年度自己点検評価書』の暫定版作成とともに、同時進行で来年度の日本高等教育評価機構による追評価受審のための『平成7年度追評価自己点検評価書』にも取り組んでおり、認証評価追評価ワーキンググループと共同で追評価書の作成にあたっている。年度末に予定している『2024年度自己点検評価書』と同時進行の作業であるため、評価書作成の効率化と分担が課題と

なる。

研究推進委員会の年報発行チームにより毎年発行されている『年報』には各委員会活動および教育活動の報告があり、事業計画・実際の活動・評価と課題が記載されているが、PDCAサイクルのActionへ結びつけ、それを自己点検評価する方策を考えなくてはならない。

大学における自己点検評価の重要性を全教職員が理解し、それを踏まえた自己点検評価書作成に関わる情報共有ができるようにするために、自己点検評価委員会としてFD・SD研修で自己点検評価に関する重要性について発表を行ったが、全教職員が深く認識するための方策を構築することが課題として挙げられる。

教務委員会

1. 構成員

委員長：今野玲子

委 員：浦橋久美子、後藤佳子、鈴木美和、
山本理、北田ひろ代、松本浩幸、
松崎敦子、小田朋子
(平野美理香 ※オブザーバー)

書 記：小田朋子、北田ひろ代、松本浩幸

ポリシーに則り、各学年の学修成果を確認できる

2. 職務

- (1) 教育課程の編成及び実施に関すること
- (2) 授業科目の履修についての連絡調整に関すること
- (3) 単位制に関すること
- (4) 学業成績の評定に関すること
- (5) 卒業認定並びに制度に関すること
- (6) その他教務に関する重要事項

3. 今年度の活動方針

前年度の課題に取り組み、学生にとって学修しやすい環境整備に努めるとともに、認証評価の課題に取り組むための以下の目標を設定した。

[目標と具体策]

- 1) 教育活動の効果的な展開
 - (1) ディプロマ・ポリシー到達のための学修支援体制が構築できる
 - (2) キャンパスプランの学生カルテと学修成果可視化システム(Assessmentor)を適切かつ効果的に運用できる
 - (3) 2020年度開始の新カリキュラムを評価できる
 - (4) カリキュラムの移行を円滑に進めることができる
 - (5) 学修環境の改善ができる
- 2) 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立
 - (1) 内部質保証委員会の策定したアセスメント

4. 活動の実際

2024年度の教務委員会の委員会開催と議題（決議事項）は表1の通りである。教育活動に関する様々な審議、報告、検討がなされた。以下、活動方針に沿って2024年度の委員会活動について述べる。

(1) ディプロマ・ポリシー到達のための学修支援体制の構築

教務委員会では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの「3つのポリシー点検シート（三育学院大学カリキュラムマップ）」を見直し、FD研修会で全教員が共有した。特に新入生に対しては、新年度のオリエンテーションにおいて、「3つのポリシー点検シート」に基づき本学が卒業までにどのような能力の育成を目指しているのか、そのためにどのようなカリキュラムが構築されているのかについて、資料を用いて丁寧に説明した。また、履修要項のシラバスにおいて各科目に紐づいているディプロマ・ポリシーを明示した。

学期末の授業評価アンケートにより学生からの意見を収集し、FD研修会で領域ごとに検討、教育活動の改善につなげた。なお、授業評価アンケートの結果において改善が必要な点については、各科目教員が次年度シラバス作成時に「授業評価アンケートを受けて」の項に記載することで、学生にフィードバックした。これは教員がディプロマ・ポリシー達成に向けて授業計画を練り直す機会となっている。また、シラバスの内容を第三者がチェックをする体制を整え実施している。

加えて、学内における学修支援の取り組みとして、低学力者を抽出し、学年アドバイザー、学修センター、IR室、補習担当の特任教授と情報を共有しつつ、支援を行った。

(2) キャンパスプランの学生カルテと学修成果可視化システム(Assessmentor)の適切かつ効果的な運用

学修管理システムであるキャンパスプラン内の学生カルテについては、段階的に運用が始まっていたが、本年度、アドバイザーによる面談結果や教員による情報を共有し指導に役立てられるよう、教務・学生課と協力して運用システムを整えた。

次に、学修成果可視化システム(Assessmentor)については、業者と教務課で必要な情報を入力し運用を開始した。学生に対しては、学年ごとに Assessmentor の活用の意義と使用方法について説明する機会をもった。学生には、学期末に各科目の到達目標に対する自己評価を記入し、教員による成績評価と合わせて、目標に対する振り返りを行うように促した。

(3) 2020年度開始の新カリキュラムの評価

2020 年に開始した新カリキュラムが一巡したため、カリキュラムの適切性や、改善点など、全体的な評価の必要性について、教務委員会でカリキュラム WG の設立を検討した。しかし、まずは認証評価の追認に向けて注視すべきであると考え、本年度は全体的な見直しは実施しなかった。

(4) カリキュラムの円滑な移行

2019 年度以前のカリキュラム該当の学生が数名在学しているため、卒業要件の充足に問題が生じないように対応した。

(5) 学修環境の改善

学修環境の改善について、教務課が時間割を調整して、東京校舎での 2・3・4 年生の学習場所の確保に努めた。

2) 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立

(1) 内部質保証委員会の策定したアセスメント

ポリシーに則った各学年の学修成果の確認 本学のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つのポリシーに基づく各種の取り組み状況について、内部保障委員会が作成した学修成果の評価方針(アセスメン

ト・ポリシー)に従い、学修成果を測定・評価した。具体的には、入学時、在学中、卒業時の各時期における評価項目、評価時期、評価方法、評価者、結果の活用などを明記したアセスメント・チェックリストに従い、単位取得状況・GPA 状況・学位授与率等を把握し教授会へ報告した。

5. 評価

ディプロマ・ポリシー到達のための学修支援体制の構築に向けて、学修成果可視化システム(Assessmentor)の運用を開始したが、目標設定や振り返りに参加している学生が限定されており、十分に活用できていないという課題がある。学生本人が目標達成に向けて、主体的に学習に取り組めるよう、活用の意義を繰り返し伝えることが必要であると考える。今後、時間割として新年度オリエンテーションや振り返りの時間を設定して、学生の参加を促していく。また、FD を活用し、教育活動の改善や教育の質向上の有効なツールとして活用を勧めしていく。

本学における育成を目指す力の全体像を俯瞰するには「3つのポリシー点検シート(三育学院大学カリキュラムマップ)」の作成は有効であったと考える。次年度は、学生がカリキュラム全体を把握する目的で、履修要項に掲載する予定にしている。これにより、大学の構成員である教員、職員、学生による 3 つのポリシーを意識した教育活動に繋がると考える。

学修管理システムであるキャンパスプランの学生カルテは、学年アドバイザーや学部教員により活用されている。今後も、合理的配慮と併せて特性や学修に課題のある学生への指導に役立てていく。

学修環境の改善については、教務課が時間割を調整して、東京校舎での学生の学習場所の確保に努めた。しかし、特に後期は学習場所の確保に課題が残った。また、大多喜キャンパスと東京校舎の 2 校地での教授活動による教員の移動や、2 校地による学生の教員へのアポイントメントやオフィスアワー

活用の難しさ、東京校舎の教室や図書スペースの不足、教員と学生や学生同士の交流の場の不足など、教育環境の課題は多く残る。今後も学生から意見収集し、管理者に現状を伝え、学生の教育環境の整備に向けて努めていく。加えて、時間的・空間的な制約を超えて、学内外の様々な資源を活用しつつどのように学修の効果を高めていくのかという観点からも検討を続けていく。

学修成果については、内部質保証委員会の策定したアセスメントポリシーに則り測定・評価した。学

力低迷による留年や中途退学が課題となっている。これらの防止のためには、学習困難な学生を早期に特定し、アドバイザーと協力して個々の学生に応じた学習計画の立案と、基礎学力強化のための学習支援の充実が必要と考える。

今後も、本学の理念やミッションに合わせた教育が実践できているか、成果として卒業時の学生に目指している能力が身についているかを確認する客観的な評価を継続し、必要に応じてカリキュラムを見直す機会を持つ。

表1. 委員会開催と議題

日 時	議 題
第1回 4月16日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 2023年度第13回、第14回、第15回議事録の承認 学生の身分変更の承認 2024年度教務委員会方針の報告・検討 カリキュラムマップ修正についての報告・検討 学生の学習状況についての報告
第2回 5月21日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度第1回教務委員会議事録の承認 教務委員会2024年度活動方針の承認 3つのポリシー点検シート（三育学院大学カリキュラムマップ）3月FD研修会後修正（案）の承認 基礎看護学実習Ⅰ学生配置（案）の報告 2024年度領域別看護実習学生配置（案）の報告 2025年度領域別看護実習スケジュール（案）の報告 第1回領域別看護学実習前オリエンテーションについての報告 第2回領域別看護学実習前オリエンテーションについての報告 実習要項 基本事項の製本に関する報告 学修成果可視化システム（Assessmentor）用カリキュラムマップについての報告 各学年・学期の到達目標 3月FDグループワークの報告
第3回 6月11日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度第2回教務委員会議事録の承認 臨床教授等辞令交付式および第1回東京衛生アドベンチスト病院実習指導者連絡会日程の報告 2025年度領域別看護実習スケジュール（案）5/30版の報告 学修成果可視化システム（Assessmentor）導入準備についての報告 教務関連の規程整備に関する報告 前期成績確定までのスケジュールについての報告 大学HPにおける教務関連の情報公開についての検討 「教務規程」の修正（案）の検討
第4回 7月16日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度第3回教務委員会議事録の承認 公衆衛生看護学実習Ⅲ補習実習の承認 補習実習に伴う4年生保健師課程科目履修の前提要件への対応の承認
第4回 7月16日（火）（続き）	

	<ol style="list-style-type: none"> 4. 総合看護実習（公衆衛生看護学分野）の時期変更についての承認 5. 宗教教育プログラム未参加学生への対応(案)の報告・検討 6. 三育学院中等教育学校との高大連携についての報告・検討 7. 学生から教務課へ訴えのあった授業科目の対応についての報告 8. 学修に課題のある学生についての報告
第5回 8月7日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度第4回教務委員会議事録の承認 2. 学生の身分変更の承認 3. 2024年度前期の成績判定 4. 学修成果可視化システム（Assessmentor）に掲載する各学期の学修目標（案）の報告 5. 成人・老年看護学領域の実習担当についての報告 6. 合理的配慮のある学生の領域別実習履修スケジュール調整に関する報告 7. 入寮条件としての履修単位数についての検討 8. 学位記の再発行についての検討
第6回 9月10日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度第5回教務委員会議事録の承認 2. 学生の身分変更の承認 3. 学位規程：再発行について 第9条の追加の承認 4. 保留者成績会議のスケジュールの報告 5. 卒業研究Ⅰ 提出締切日程についての報告 6. 国際看護実習Ⅱ 2024年度の珠洲市での活動報告と2025年度からのインドネシアでのプログラム開始についての報告 7. 実習中のインシデントに関する報告 8. 懲戒処分となった学生の追試験、追実習についての報告 9. 学寮移転プロジェクトにおける教務委員会の役割についての報告
第7回 10月15日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度第6回教務委員会議事録の承認 2. 学生の身分変更の承認 3. 2024年前期保留者成績判定 4. Universitas Advent Indonesia にて国際看護実習Ⅱ開催についての承認 5. 教務委員会規程の改定について承認 6. カリキュラムワーキンググループの設置について承認 7. 科目担当の考え方について変更の提案に関する検討 8. 【文科省・通知】学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布についての報告 9. モデル・コア・カリキュラムの改定についての報告 10. 高大連携委員会から進捗状況の報告
第8回 11月12日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度第7回教務委員会議事録の承認 2. 学生の身分変更の承認 3. 基礎看護学実習Ⅱ学生配置（案）の承認 4. 高大連携の開講予定科目について承認 5. 受傷した学生の追実習について報告 6. 2025年度年間実習スケジュール・年間行事予定変更の報告 7. 1～3年生のPROGテスト結果についての報告 8. 2025年度の総合実習と看護研究の担当者についての報告
第9回 12月12日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度第8回教務委員会議事録の承認 2. 体調不良による実習を欠席した学生の対応についての報告 3. 科目担当の考え方についての今後の方針に関する報告

	<ol style="list-style-type: none"> 4. 2024 年度後期 成績確定までのスケジュールの報告 5. 実習中のインシデントに関する報告 6. 学生のキャロリングについての報告 7. 学修に課題のある学生についての報告
第 10 回 2025 年 1 月 14 日 (火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度第 9 回教務委員会議事録の承認 2. 2025 年度実習スケジュール (案) の承認 3. 2026 年度実習スケジュール (案) の承認 4. 2025 年度 公衆衛生看護学関連の科目担当者についての報告 5. 次年度からの通学許可に伴う教育への影響とその対策に関する検討 6. 4 年生の看護技術到達度調査の結果の報告 7. 受傷した学生の追実習予定についての報告 8. 実習を欠席している学生についての報告 9. 国際看護実習 I (欧米の看護体験) の隔年開催提案についての報告 10. 第 2 回東京衛生アドベンチスト病院実習指導者連絡会の日程の報告 11. 2024 年度 PROG テスト 4 年生結果および本学の傾向についての報告
第 11 回 2 月 12 日 (火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度第 10 回教務委員会議事録の承認 2. 学生の身分変更の承認 3. 2024 年度後期 4 年生成績判定および卒業認定
第 12 回 (臨時) 2 月 19 日 (水)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度第 11 回教務委員会議事録の承認 2. 2024 年度後期 1 年生および 3 年生成績判定 3. 学生の身分変更の承認
第 13 回 3 月 11 日 (水)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度後期 2 年生成績判定 2. 2024 年度後期保留者成績判定 3. 学生の学業成績変更の承認 4. 学生の身分変更の承認 5. 2025 年度の卒業研究 I ・ II の学生ガイダンスについての報告 6. インドネシア研修旅行の報告

実習ワーキンググループ（WG）

1. 構成員

WG長：清野星二

委員：朝見優子、遠田きよみ、近藤かおり

近藤勇美、清水浩美、素村知佳

松本浩幸、今野玲子（オブザーバー）

書記：委員が交代で担当

2. 職務

教務委員会の下部組織である実習WGは、看護基礎教育の学習形態の一つである実習が円滑に行えるよう、学生への教育的指導や注意喚起、実習に関する調整や準備等を行う。

- 1) 実習要項に関する事項
- 2) 実習スケジュールと学生配置に関する事項
- 3) 実習オリエンテーションに関する事項
- 4) 実習生の予防接種に関する事項
- 5) 電子カルテの使用に関する事項
- 6) 実習同意書に関する事項
- 7) インシデント・アクシデントに関する事項
- 8) 実習指導者連絡会に関する事項
- 9) 臨床教授等の辞令交付に関する事項
- 10) その他実習に関する事項

3. 今年度の活動方針

2024年度の実習が円滑に行えるよう、各領域や実習施設等と連携して調整や準備を行う。学生が実習に向けた十分な準備をすることが出来るよう、オリエンテーションを計画・実施し、実習の進捗状況に応じた指導や注意喚起を適宜行う。今年度の実習を振り返り、今後の課題を検討する。

4. 活動の実際

1) 実習要項に関する事項

実習要項の配布部数を確認した。「基本事項」、「看護技術の実施水準と実践・到達度記録」の内

容検討と修正を行った。「領域別看護学実習要項」、「総合看護実習要項」の取りまとめと編集、印刷を行った。「基本事項」、「看護技術の実施水準と実践・到達度記録」、「基礎看護学実習Ⅰ」、「基礎看護学実習Ⅱ」の取りまとめと印刷依頼を行った。

2) 実習スケジュールと学生配置に関する事項

2024年度の領域別看護学実習スケジュールの確認と学生配置を行った。2025年度と2026年度の実習年間スケジュール案を作成した。

3) 実習オリエンテーションに関する事項

領域別看護学実習オリエンテーションを計画し、第1回実習オリエンテーションを2024年7月29日（月）、第2回を2024年8月26日（月）～8月29日（木）に実施した。なお、8月26日～27日は各領域による事前課題や演習などの実習準備、8月28日～29日は全体プログラムとした。

4) 実習生の予防接種に関する事項

予防接種オリエンテーション・健康管理ノートの回収と接種状況の確認・未接種者への注意喚起を保健センターと連携して行った。学生の予防接種状況を実習施設へ報告した。

5) 電子カルテの使用に関する事項

東京衛生アドベンチスト病院から学生と教員に付与されている電子カルテID（閲覧制限あり）の申請と削除依頼を行った。

6) 実習同意書に関する事項

臨地実習説明書・同意書の印刷と管理、保管を行った。

7) インシデント・アクシデントに関する事項

実習記録の取扱いに関するインシデントが続いたことから、教務課と連携して印刷機の取扱いに関する掲示を行った。インシデント・アクシデントの内容を看護学部教授会に報告し、学生指導に

活用できるよう教員間で情報を共有した。

8) 実習指導者連絡会に関する事項

東京衛生アドベンチスト病院との実習指導者連絡会を計画し、第1回実習指導者連絡会を2024年6月19日(水)、第2回を2025年2月12日(水)に開催した。

9) 臨床教授等の辞令交付に関する事項

2024年6月19日(水)に行われた第1回実習指導者連絡会において、学部教授会で承認された臨床教授・准教授・講師への辞令交付を行った。

10) その他実習に関する事項

- ①東京衛生アドベンチスト病院の実習指導サポート委員会へ出席し、実習スケジュール、実習状況、学生の様子について情報交換を行った。
- ②4年生看護技術到達度アンケート調査を実施し、結果を教授会および東京衛生アドベンチスト病院と共有した。
- ③2024年度の東京衛生アドベンチスト病院での実習予定を取りまとめ、公文書を看護事務に依頼した。

5. 評価と課題

2024年度の看護学実習を大きな問題なく実施することができたことから、各領域や実習施設と連携して実習の調整や準備を行うことができたと考える。実習記録の取り扱いに関するインシデントが続いたことから、個人情報保護委員会が検討している指針を参考にインシデント・アクシデントの防止策を実習WGとして検討し、学生指導の充実を図っていく必要があると考えた。

会議の開催日と議題

会議の開催日	議題
第1回 2024年4月2日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 活動方針の確認と役割分担 インシデント・アクシデントの共有と防止策の検討 看護技術到達度調査結果の共有と活用方法の検討 「基本事項」、「看護技術の実施水準と実践・到達度記録」内容の検討 領域別実習オリエンテーションプログラムの検討
第2回 2024年5月1日（水）	<ol style="list-style-type: none"> 領域別実習学生配置の検討 2025年度実習スケジュールの検討 領域別実習オリエンテーションプログラムの検討 2024年度第1回実習連絡会・臨床教授授与式の内容の検討 実習要項の編集と製本状況の報告
第3回 2024年8月7日（水）	<ol style="list-style-type: none"> 第1回領域別実習オリエンテーションの報告 第2回領域別実習オリエンテーションプログラムの検討 実習要項の編集と製本状況の報告 2025年度実習年間スケジュールの検討 4年生看護技術到達度調査の方法と内容の検討
第4回（メール会議） 2024年9月19日（木） ～9月26日（木）	<ol style="list-style-type: none"> 実習記録の取扱いに関するインシデント対応と対策の検討
第5回 2024年12月24日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 第2回領域別実習オリエンテーションプログラムの報告 領域別実習進捗状況の報告 インシデント・アクシデントの共有と防止策の検討 2025年度・2026年度実習年間スケジュールの検討 4年生看護技術到達度調査結果の報告 2025年度総合実習における実習WGが果たす役割の検討
第6回 2025年3月3日（月）	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度の振り返りと2025年度の活動計画の検討 インシデント・アクシデントの共有と防止策の検討 卒業生と退職教員の電子カルテID削除依頼の報告 2025年度実習公文書準備の報告 2025年度総合実習の準備の報告

学生委員会

1. 構成員

委員長： 後藤佳子

委 員： 池田直子、市川光代、下村豪、棚橋浩

史、田渕路、玉那霸直大、松本浩幸、
(松崎敦子)

書 記： 石渡美由紀

2. 所掌事項

- 1) 学生の課外活動の支援
- 2) 学生からのイベント企画申請、車両申請、入退寮の申請の承認
- 3) 各種奨学金の申請の審査、承認、指導
- 4) 学生間で起こる諸問題の検討と指導
- 5) 学寮・ハウジングに関する検討と規程の整備
- 6) 学食と食の安全に関する検討と指導
- 7) 就職支援
- 8) その他学生生活の質向上に向けたサービス
- 9) 学生のメンタルサポート
- 10) 合理的配慮

3. 今年度の活動方針

- 1) 学生の寮および住宅の居住環境の安全を守り、安心して生活できる環境づくりを目指す。
- 2) 学生の課外活動を支援し、充実した学生生活が送れるようにする。
- 3) 奨学金等による経済的支援を行なう。また、奨学金を受けることの重みを学生に発信し、将来的に過度の負担にならないように指導する。
- 4) 医療機関の募集が従来よりも前倒しになる傾向を踏まえ、学生の就職活動を支援する。
- 5) 障害のある学生が、他の学生と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、必要かつ適当な調整を行う。
- 6) 災害の多い昨今の状況を踏まえ、防災の知識を持つように支援する。

4. 活動の実際

- 1) 学生からのイベント企画申請、車両申請、入退寮の申請の承認
- 2) 奨学金の申請の審査、承認（三育学院奨学金、神学科奨学金、勤労奨学金等）と教授会への承認申請。アドベンチスト病院協議会奨学金の受給者の確認と教授会への報告
- 3) 高等教育の修学支援制度の対応
- 4) 1年生への入学時オリエンテーションにて、奨学金の借り過ぎの弊害についての説明をした。
- 5) 2, 3, 4年生対象就職ガイダンスの実施
 - ・4月3日4年生対象のガイダンス実施（就職試験対策講座）
 - ・6月26日3年生対象のガイダンス実施（夏休みに取り組むこと）
 - ・9月30日2年生対象のガイダンス実施（就職活動の流れ、今からやってほしいこと）
- 6) 発達障害の学生を支援する合理的配慮に関して検討し対応した。
 - ・2024年度は4件の申請があった。
- 7) 生活および健康ガイダンスの実施
 - ・生活ガイダンスとして、防災について学ぶ講座を開催した。
 - ・健康ガイダンスとして NEW START 講座（健康の原則）を実施した。
- 8) 中等教育学校との学寮収容人数の調整を図るため寮移転を実行し、2025年4月から男子寮カレッジホールはシオンハイツに移転するための引っ越し作業等の準備を整えた。

＜大多喜キャンパスにおける学寮教育の概要＞

目的

寮は本学学生を寄宿させ、その寮生活を通して以下の事項を達成することを目的とする。

- 1) 寮生は、本学のキリスト教理念を寮生活の中で実践し、学生としての品位を保ちながら、そ

それぞれの理想や目標を実現する努力をする。

2) 寄生は、寮運営に参加することによって、自主的自己管理の能力を涵養する。

3) 寄生は、団体生活の中で相互理解を深め、ソーシャルスキルの向上を図り社会性を培う。(学寮規定第1条より)

内容

1) 異学年混合のファミリー形成

2) チームでの寮清掃 (ループリックを用いた自己評価・相互評価)

3) 時間管理：学業と私生活におけるタイムマネジメントノートの活用 (学修センターとの連携)

4) 私物の管理：忘れ物チェック、整理整頓、部屋検査、等

5) 健康管理：食育 (食堂課との連携)、規則正しい生活リズムの維持、等

6) 他者を意識するマナーの重視、ルールの順守

7) 役割を担う経験 (リーダー、または責任を担う機会を増やす)

8) 小グループ会議 (課題発見&解決、生活の秩序を維持するための工夫をする)

9) ストレスマネジメント (他者との交流、面談、等)

10) リフレーミング：不自由さ (時間的、空間的自由度の低さ、モノがない、等) の意味づけ

5. 評価と課題

1) 評価

(1) 寄生の移転について中等教育学校とも調整しながら進め、予定通りカレッジホールからシオンハイツへの引っ越しを行うことができた。

(2) 寄内ではなかったものの構内での生活上のルール違反が見られ、昨年に引き続き一時に寄内の雰囲気に影響を与えたため、安心して暮らせる環境の整備がさらに必要である。

2) 課題

(1) 寄生の移転は 2025 年度も継続するため、改修工事の状況を踏まえながら学生の生活環境を整えていく必要がある。

(2) 昨年に引き続き構内でのルール違反が見られたため、寄生が安心して生活が送れるように、寄生と協力しあいながら体制を構築していく。

2024 年度学生委員会における審議事項・検討事項・報告事項 ⑩はメール会議

NO	実施	決議事項・検討事項・報告事項
1	2024 年 4 月 3 日⑩	・合理的配慮申請の承認 (2 件)・車両運行資格申請の承認・中等教育学校アルバイトの承認・新入生歓迎会企画申請の承認
2	2024 年 4 月 12 日⑩	・車両申請の承認・野外礼拝/スポーツ交流企画申請の承認
3	2024 年 4 月 18 日	・勤労奨学生の承認・バレー大会/野球交流試合企画申請の承認・2024 年度活動方針の承認
4	2024 年 5 月 16 日	・三育学院奨学金採用の承認・国際看護実習 I 奨学金の採用者の承認・アドベンチスト病院協議会奨学金新規採用者の承認および支給変更の承認・神学科奨学金採用者の承認・アドベンチスト病院協議会奨学金就業義務取り消し願いの承認
5	2024 年 5 月 28 日⑩	・国際看護実習 II 奨学金の採用者の承認・学生交流企画申請の承認・車両申請の承認
6	2024 年 6 月 13 日	・夏祭り企画申請の承認・バイブルウィーク無断欠席者の奨学金への影響についての検討
7	2024 年 7 月 11 日	・入寮条件の検討・感染症拡大による企画申請の取り上げの報告・学長より高大連携

		および寮の改修・移転についての発表あり
8	2024 年 7 月 31 日㊏	・合理的配慮申請の承認・野球交流試合企画申請の承認・退寮願の承認・車両申請の承認
9	2024 年 9 月 12 日	・車両申請の承認・LTS 講師の承認・入寮条件変更の承認・ハイツ入居願いの承認 ・野球交流試合企画申請の承認・2025 年度年間行事予定表の検討・寮移転に伴う朝食時間の変更の検討・高等教育修学支援減免の区分の報告・寮移転プロジェクトの進捗状況の情報共有（学生への説明会・保護者へのオンライン説明会等）
10	2024 年 10 月 10 日	・学生委員会規程改定の承認・アドベンチスト病院協議会就業義務取消願いの承認 ・学生ハンドブックの改正・勤労学生 1 名後期からの勤労奨学金辞退の報告・寮生の様子の情報共有
11	2024 年 10 月 17 日㊏	・交流レクリエーション企画申請の承認・学生ハンドブックの改正の承認
12	2024 年 11 月 14 日	・アドベンチスト協議会奨学金就業義務取り消し願いの承認・アドベンチスト病院協議会奨学金支給変更の承認・中等教育学校とのバスケットボール交流試合企画申請の承認・神学科修養会、バイブルキャンプ予定の報告・寮生の様子の情報共有
13	2024 年 12 月 5 日㊏	・クリスマス礼拝、クリスマス会企画申請の承認・大多喜観光企画申請の承認
14	2023 年 10 月 12 日	・バレーボールと花火大会企画申請の承認・病院との野球交流会企画申請の承認・学生のサンハイツ入居の不承認・サフランハイツ短期滞在の 1 泊料金の検討・令和 6 年度年間行事予定表の検討・大多喜寮の様子の報告・食物アレルギー対応指針の報告
15	2024 年 12 月 25 日㊏	・合理的配慮申請の承認
16	2025 年 1 月 16 日	・投書についての検討（朝食の退出時間について）・寮移転プロジェクト学生対応チームについての情報共有（通学生への対応）
17	2025 年 2 月 6 日	・LTS 講師の承認・2025 生活および健康ガイダンスのプログラムの承認
18	2025 年 2 月 14 日㊏	・春季休暇中の学生アルバイト者ハイツ宿泊の承認
19	2025 年 3 月 13 日	・大多喜キャンパス教務学生課現金引き出し制度廃止についての検討

国家試験対策委員会

1. 構成員

委員長：山口道子

副委員長：近藤かおり

委 員： 松本浩幸 素村知佳 近藤勇美

手塚早苗 石井慶子 石渡美由紀

書 記：委員会メンバーが交代で担当

役割分担：表 1

山口道子	4 年生看護師課程全般 スタディグループ 全体統括
近藤かおり	2・3 年生看護師課程 全体統括補佐
松本浩幸	保健師課程全般
手塚早苗	
素村知佳	2・3 年生看護師課程
近藤勇美	4 年生看護師課程模試等
石井慶子	1 年生看護師課程 4 年生看護師課程模擬試験等
石渡美由紀	事務

2. 所掌事項

1) 国家試験対策の計画立案と実施

2) 教員および関係部署との連携

(ア) 教授会における国家試験対策の周知、依頼、情報提供

(イ) アドバイザー教員との連携

(ウ) 教務課との連携：国家試験願書申請等

3) 委員会の開催（表 2）

4) 研修会への参加

5) その他

(ア) 学生への情報（講座等）提供

(イ) 学生国家試験係との連携と協力

(ウ) 国家試験に関する本学の状況報告（三病院会議、保護者会等）

3. 活動計画

看護師・保健師国家試験での合格 100%を目指し、大多喜キャンパス・東京校舎でできる限りの対策を行う。看護師国家試験対策の主な活動として、模試の実施、必修問題対策として「看パスを活用した対策」、「帰れま 100」、一般・状況設定問題対策として「学内補講」、弱点補強として「東京アカデミーによる講座」（5 月・11 月）、低学力者対策として「スタディグループ」を実施する。保健師国家試験対策の主な活動として、模試の実施、学内補講、弱点補強として「東京アカデミー疫学講座」、および低学力者対策として「自主勉強会」、「個別対策」を実施する。

4. 活動の実際

1) 4 年生看護師課程学生に対する取り組み

(ア) ガイダンスの実施

(イ) 模擬試験の実施：人体・疾病模試を 1 回（4 月）、必修問題 150 問模試を 1 回（6 月）、全国模擬試験を 6 回実施した（7 月、9～1 月に各 1 回）。

(ウ) 必修問題対策として、「看パスを活用した対策」と「帰れま 100」（過去問）を実施：過去数年間の看護師国家試験受験結果を受け、4 月より「看パス」を利用し、週ごとに決められた必修問題を解くという取り組みを行った。10 月～12 月の月曜～金曜に対面と google classroom を利用し、「帰れま 100」にて、「看パス」の必修問題 20 問を満点になるまで解答し、結果を報告してもらった。1 月～2 月は「必修問題完全予想 550 問」（1810 円の問題集の、500 円を大学が補助をした）を活用した取り組みを行った。10 月～2 月まで計 74 回の取り組みを実施した。自宅

表 2 国家試験対策委員会の開催

日 時	議 題
第 1 回国家試験対策委員会 4 月 24 日 (水)	1. 今年度の看護師・保健師国家試験対策に関する検討（役割分担、模擬試験・外部講座等日程、と内容） 2. 学生国家試験対策係 の確認 3. 卒業生講話の卒業生の確定と役割確認 3. 予算確認等
第 2 回国家試験対策委員会 5 月 22 日 (水)	1. 国家試験対策スケジュール確認 2. 国家試験対策セミナー参加報告・情報共有 3. 外部講座確認（実施方法・内容等） 4. 学研セミナー情報共有
第 3 回国家試験対策委員会 6 月 26 日 (水)	1. 国家試験対策スケジュール確認 2. スタディグループの状況確認 3. 看パスの低学年の利用について確認
第 4 回国家試験対策委員会 7 月 25 日 (水)	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. スタディグループの状況確認 3. 学内補講の検討（対象者・内容・方法等） 4. 今後の国家試験対策の検討
第 5 回国家試験対策委員会 9 月 18 日 (水)	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. 必修対策実施の確認 3. 外部講座の確認（実施方法・内容等） 4. 低学年模試、補講について確認
第 6 回国家試験対策委員会 11 月 7 日 (木)	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. スタディグループの状況確認
第 7 回国家試験対策委員会 12 月 24 日 (火)	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. 今後の国家試験対策の検討 3. 受験票配布プログラムの確認
第 8 回国家試験対策委員会 1 月 22 日 (水)	1. 看護師・保健師模試結果の共有と今後の対策検討 2. 次年度模試会社、模擬試験日、卒業生講話日の検討 3. 低学年の春休みオンライン補講実施の確認
第 9 回国家試験対策委員会 3 月 4 日 (火)	1. 今年度国家試験対策に関するアンケート結果検討 2. 合格発表後の対応検討 3. 次年度の国家試験対策についての検討

学生のために配信を行い、大多喜キャ
ンパスでは毎日対面で実施し、学習習慣づ
け、生活習慣の改善も目的とした。

(エ) 一般・状況設定問題対策

1. 教員による学内補講の実施：10月の模
擬試験の結果で合格圏に満たない学
生と希望者を対象に、各領域の教員が

- 対面（大多喜キャンパス）とオンライン（東京校舎）で補講を実施した（7 領域計 10 コマ）。
2. 東京アカデミー講師による講座の実施：全学生を対象に、低得点領域を中心に計 6 コマ実施した。1 人当たり 11,000 円の受講料に対し、全コマ参加を条件に大学から各学生に 4,000 円程度の補助をした。
- (オ) 低学力者対策「スタディグループ（補講）」の実施：4 月から 12 月の模擬試験で低得点の学生を対象に、4 月から 12 月にかけて小グループでの勉強会を実施した。各回の参加者は 4 名～12 名程度で、教員 1 名が週 2 コマ対面とオンラインで担当した。内容は、時期と模擬試験結果を踏まえて適宜検討したが、4、5、6 月は主に解剖生理、7、8、9 月は主に病態生理、10、11 月は主に必修問題対策、12 月は主に一般・状況設定問題対策を補強する対策を行った。
- (カ) 卒業生講話の実施：国家試験に向けた具体的なアドバイスをしていただくことを目的に、2023 年度卒業生 4 名に依頼し 5 月と 11 月に実施した。
- 2) 4 年生保健師課程学生に対する取り組み
- (ア) ガイダンスの実施
- (イ) 模擬試験の実施：前年度本試験（第 110 回 保健師国家試験）を 1 回、全国模擬試験を 4 回実施した（5、9、11、1 月に各 1 回）。模擬試験実施後には振り返り解説を行った。
- (ウ) 教員による学内補講の実施：全学生を対象に、11 月から 12 月にかけて計 21 コマ実施した。
- (エ) 東京アカデミー講師による疫学の補講を実施した（計 2 コマ）。
- (オ) 卒業生講話の実施：国家試験に向けた具体的なアドバイスをしていただくことを目的に、2023 年度卒業生 1 名に依頼し 5 月に実施した。
- 3) 3 年生に対する取り組み
- (ア) ガイダンスの実施
- (イ) 模擬試験の実施：①学研「基礎学力 UP チャレンジテスト」を 6 月に実施した。模擬試験実施後、学研 e ラーニング機能を活用し復習を促した。②テコム「必修問題スピードテスト」を 2 月（領域別実習終了直後）に実施した。
- (ウ) 必修対策講座（11 月）の実施：外部業者 WAGON による脳神経の解剖生理について対面で 1 コマ実施した。
- 4) 2 年生に対する取り組み
- (ア) ガイダンスの実施
- (イ) 模擬試験の実施：東アカデミー「専門基礎模試」を 2 月に実施した。春休みに解説書を活用し復習を促した。
- (ウ) オンライン講座の実施（3 月）：外部業者 WAGON による血液・体液・免疫の解剖生・病態生理について 2 コマ実施した。
- 5) 1 年生に対する取り組み
- (ア) ガイダンスの実施
- (イ) 模擬試験の実施：東京アカデミー「人体の形態と機能」を 2 月に実施した。模擬試験実施後、振り返りを 1 コマ実施した。
- (ウ) オンライン講義の実施（2 月）：外部業者 WAGON による内分泌の解剖生理・病態生理について 2 コマ実施した。
5. 結果
- 1) 看護師国家試験の結果（表 3）
- (ア) 合格率：新卒では 90.2%、既卒では 100%、全体では 91.3% だった。
- (イ) 不合格になった学生（新卒）の傾向：4 名のうち、東京校舎（自宅他より通学）の学

生が 3 名で、大多喜滞在で学習していた学生が 1 名であった。不合格となった 4 名は 4 月よりスタディグループ対象者であり、うち 3 名が、4 月～10 月頃まで継続してスタディグループに参加していたものの、模擬試験での成績は一貫して低く、全 6 回の模試のうち、3～5 回は合格点に達しておらず、学習の効果が小さかった。1 名はスタディグループの学習進度や学習方法に合わないという理由より、参加対象者であったが、参加を希望しなかった。模試結果が低かった学生のうち、2 名は外部の講座も受講したが模試成績が伸びなかった。4 年間の GPA はそれぞれ 1.82, 2.17, 2.30, 2.34 であった。4 名ともに異なるアドバイザーが担当していたが、指導に困難を要した。

2) 保健師国家試験の結果（表 4）

（ア）合格率：100% だった。

（イ）学生の傾向：模擬試験の結果、11 月以降、2 回の模試で B 判定のため、模擬試験の結果だけで判断を行うことは困難であった。そのため、次年度は模試の結果は参考程度にし、学生個人の理解状況をもう少し深く見ていく必要がある。

6. 評価および今後の課題

1) 低学力者への対応

（ア）スタディグループの実施：模擬試験で低得点だった学生を対象に小グループを作り、教員 1 名が指導にあたった。模擬試験毎に対象者を入れ替えたが、指導が合わないと感じる学生もあり、参加を希望しない学生も数名いた。指導の結果、学力が向上した群、学力の向上が最小限だった群に大別できた。学力の向上が最小限だった群に対しては、スタディグループだけではなく、予備校等の利用を含めて、指導方法の異なる検討が必要である。

対象学生に上記を勧め、保護者にも依頼し、利用していた学生がほとんどであった。不合格となった学生のほとんどが 11 月頃までスタディグループ対象者であったが、最後まで教員に依存的に学習するスタイルではなく、国家試験 2 か月前頃より自律した学習の確立を目指し、指導に当たれるよう進めたが、結果的に効果が見られなかった。

（イ）アドバイザーとの連携：12 月の模擬試験において合格圏に達していない学生は 14 名（34%）であった。アドバイザーと対策委員会メンバーで相談し、委員会メンバーが面談にあたり個別に対応した。そこで各学生の学習や生活面での問題を確認し、アドバイザーの協力のもと、学生への指導、学習改善案などの話し合いを行った。また、スタディグループの参加を希望しない学生は、アドバイザーが保護者と連携をとり、国試本番直前まで継続的に学生との定期的な面談・学習支援を実施した。模試結果が上がらない学生に対し、アドバイザーが細やかに学習状況の確認・指導を実施した。また 1 名は 1 月以降体調不良により、模試の未受験となつたが、アドバイザーが丁寧なサポートを行っていた。

2) 学生の経済的問題：低学力の学生に対し、予備校や家庭教師の利用を勧めたが、経済的問題などにより予備校を利用しないと答えた学生が一定数いた。しかし、委員より学生への確認、保護者への連絡を実施したところ、結果的に予備校利用へつながり合格につながった学生もいた。

3) 各委員会との連携

国家試験合格に向けて低学年から対策を講じる必要があるため、今後も学修委員会等と連携して、合格 100% を目指せるよう検討する。

表 3 看護師国家試験結果 (厚生労働省発表資料)

	総数 (新卒+既卒)				新卒				既卒			
	出願数	受験者数	合格数	合格率	出願数	受験者数	合格数	合格率	出願数	受験者数	合格数	合格率
三育学院大学	46	46	42	91.3%	41	41	37	90.2%	5	5	5	100%
大学 ¹⁾	25,848	25,689	24,551	95.6%	24,289	24,181	23,635	97.7%	1,559	1,508	916	60.7%
全国 ²⁾	63,819	63,131	56,906	90.1%	56,415	56,035	53,718	95.9%				

¹⁾ 大学：全国の大学の結果²⁾ 全国：大学・短大・専門学校の結果

表 4 保健師国家試験結果 (厚生労働省発表資料)

	総数 (新卒+既卒)				新卒				既卒			
	出願数	受験者数	合格数	合格率	出願数	受験者数	合格数	合格率	出願数	受験者数	合格数	合格率
三育学院大学	12	12	12	100%	10	10	10	100%	2	2	2	100%
大学 ¹⁾	6,803	6,754	6,440	95.4%	6,544	6,515	6,323	97.1%	259	239	117	49.0%
全国 ²⁾	7,716	7,658	71,96	94.0%	7,339	7,308	7,045	96.4%				

¹⁾ 大学：全国の大学の結果²⁾ 全国：大学・短大・専門学校の結果

ICT 委員会

1. 構成員

委員長：篠原清夫

委 員：中村信一、榎原拓巳、大橋喬紀、

渡辺隆一

書 記：篠原清夫

作、ポータルサイト、メールの扱い方などを説明

- ・1月：2025年度新入生のPCの選定・答申
- ・3月：2025年度新入生のPCに関するオリエンテーション内容の企画・次年度方針検討

2. 所掌事項

- 1) 学内全体に関わるネットワーク環境、PC環境等のICT関連事項の検討
- 2) ICT環境整備のための提言と補助
- 3) 新入生用パソコンの選定と提言

5. 評価と課題

- 1) 学内ICT分野に関する答申
今年度は各部署からの諮問・相談について特になかった。
- 2) 学内ICT分野に関する啓発活動
ICT分野に関する情報と倫理に関して新年次オリエンテーション時に委員長が行った。
- 3) 新入生用パソコンの選定と提言
価格・性能・保証・授業での使いやすさ等からPCを検討・判断し適切な答申をすることができた。
- 4) 新入生用PC設定・オリエンテーションの協力
新入生用PC設定はICT委員会メンバー・ICT担当が中心となり実施された。学生へのICTリテラシー教育は新年次オリエンテーション時に教務・学生課と協働し実施した。
- 5) ICT委員会規程制定への協力
検討中であったICT委員会規程に関して、学長室に協力することで作成することができた。
- 6) Windows 10のサポートが2025年10月に終了するので、運用およびセキュリティ上の問題から学内で教職員が使用しているWindows 10のPCをWindows 11へバージョンアップをする方法や時期等を検討する必要がある。

3. 事業計画

1) 学内ICT分野に関する答申

学内のICTに関する事項について各部署から諮問・相談があった場合、それに対して審議し、答申する。

2) 学内ICT分野に関する啓発活動

ICT分野に関する公開講座・研修活動等の情報を本学教職員および学生に必要に応じて提供し、ICTに関する啓発活動を行う。

3) 新入生用PCの選定と答申

教育・機能・価格等より適切なPCを選定し、入試広報課へ答申する。

4) 新入生用PC設定・オリエンテーションの協力

新入生のPCに関するオリエンテーションにより、入学後スムーズにPC使用できるようにするためICT担当と協力し、学生指導に関わる。

5) ICT委員会規程制定への協力

ICT委員会規程が作成されていないので、任命権者に対して規程制定のための協力をし、委員会の役割を明確化する。

4. 活動の実際

- ・4月：新入生オリエンテーションにおいて、ICT担当がPCの設定、基本となるPC操

委員会開催と議題

日 時	議 題
2024 年 5 月 21 日～22 日 第 1 回委員会（メール会議）	・2024 年度 ICT 委員会活動方針の決定
2025 年 1 月 14 日 第 2 回委員会	・ICT 委員会の課題 2025 年度入学生 PC 推薦機種の選定 (候補 3 台の PC の比較検討)、入試・広報課への答申 ・東京校舎学生の推奨 PC 故障・保証修理手続きの確認
2025 年 3 月 14 日 第 3 回委員会	・2025 年度入学生 PC に関するオリエンテーション内容と役割 ・今年度の評価と課題

労作教育委員会

1. 構成員

委員長：山本理

委 員：相川由紀夫、遠田きよみ、城間俊次、棚橋浩史、田渕露

書 記：山本理

2. 職務

- 1) 教育活動としての労作のありかたの研究とその推進に関する事項
- 2) 労作に関わる学生の指導と評価に関する事項
- 3) 勤労奨学生の採用、配置、指導、および評価に関する事項
- 4) その他、労作教育に関する各種研修会、研究会の実施に関する事項

3. 今年度の活動方針

一年生労作においては、2021年度から実施の「新しい労作教育プログラム」を引き続き実施した。勤労学生奨学金においては、継続して働きながら学ぶ学生支援を実施した。各プログラムにおいて必要な調整と改善を行い、学内外において安定した継続を目指す。

4. 活動の実際(委員会活動は表1参照)

5. 評価

- 1) 各学期の最終回に成果発表会を実施した。班ごとに担当場所での作業内容と体験をまとめ、口頭発表をすることにより追体験をすると同時に個々の学びも深まった。別途、各自が学期末にレポートを提出し、自分の言葉で振り返る機会を設けた。
- 2) 天候不順によるスケジュール変更が前期、後期ともにあった。その結果、学外作業の回数が均一でなく、体験学修のためには、より良い対応が望まれる。

3) 本年度をもって「新しい労作教育プログラム」は一サイクル終了となった。調整と改善により、学外活動も軌道にのった。また、上級生や教職員によるボランティア参加も毎回多数あり、年齢や立場を超えた「協働」を実体験する貴重な機会を提供できた。

表1.

日 時	議 題
2024年4月8日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・新規勤労学生奨学金 採用 ・一年生労作に関する事項 ・活動方針の検討
2024年4月10日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労学生奨学金 辞退と採用について
2024年5月6日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生労作に関する事項 ・勤労学生に関する事項 ・規定の整備について
2024年6月3日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生労作に関する事項 ・勤労学生に関する事項
2024年7月1日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生労作に関する事項 ・勤労学生に関する事項 ・規定の整備について
2024年8月5日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労学生 前期人事考課 ・後期一年生労作に関する事項 ・勤労学生に関する事項
2024年9月2日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・後期一年生労作に関する事項 ・規定の整備について ・勤労学生に関する事項
2024年9月27日金曜	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労学生 辞退について
2024年10月7日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・後期一年生労作に関する事項 ・規定の整備について
2024年10月7日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・後期一年生労作に関する事項 ・勤労学生に関する事項
2024年11月4日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労学生奨学金 時給変更について ・後期一年生労作に関する事項 ・勤労学生に関する事項
2024年12月2日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・後期一年生労作に関する事項 ・勤労学生に関する事項
2025年1月27日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・後期一年生労作ボランティアについて
2025年2月3日月曜	<ul style="list-style-type: none"> ・後期一年生労作に関する事項 ・勤労学生に関する事項
2025年2月27日木曜	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労学生 後期人事考課と賞与について ・今後の労作活動について

保健師課程選択者選考委員会

1. 構成員

委員長：浦橋久美子

委 員：小田朋子、後藤佳子、鈴木美和、

手塚早苗、山本理

書 記：手塚早苗

2. 職務

- 1) 保健師課程選択者選抜に係る審査の計画と実施に関する事項
- 2) 保健師課程選択者選抜に係る審査に関する事項
- 3) 保健師課程選択者選抜要項および要領に関する事項
- 4) その他保健師課程選択者選抜に関する事項

3. 今年度の活動方針

公正で適切な選抜審査を実施するとともに、志向性の高い学生を選抜するための審査のありかたを検討する。

- 1) 小論文の評価のありかたの検討
- 2) 志向性を高めて受験できるための審査のあり方の検討
- 3) 学生が保健師課程及び保健師活動を理解するための情報発信の推進

4. 活動の実際

委員会は、方針に基づき 9 回開催した（表参照）。

1) 小論文の評価のありかた

2023 年度教授会で、従来の評価（委員長が受験者全員の論文の評価、他の審査担当者 3~4 名は受験者 4~5 名を評価し、受験者 1 名の評価を 3~4 名の審査担当者がする）では、委員長を除いた審査担当者が全受験者の評価に関わらないため公平性を欠くのではないかという意見があ

った。一方、委員会では、評価基準に則り評価している、教員間のばらつきを少なくするため、評価は平均点で行っているなど、差は小さいという意見もあった。これらの意見を受け、公正で厳密な審査を行うために、審査担当者が評価基準に基づき、全受験者の評価を行った。

2) 志向性を高めて受験できるための審査のあり方

学生が自分なりの保健師像や保健師課程で学ぶ意義を考えて審査に臨んでいるのか、最近の受験態度や姿勢に疑問点が多く、検討に至った。

まずは学生の考えが明確になるような志願書の工夫をし、様式を変更した。志願書の記載内容に不備（わかりにくい文章表現や誤字・脱字、訂正文書の書き方など）があることや、面接時の服装や身だしなみが整っていないなど常識的なことへの対応ができていない学生も見られた。

3) 学生が保健師課程及び保健師活動を理解するための情報発信の推進

7 月実施の保健師課程選択者選抜に係る説明会において 4 年生保健師課程の 5 名が、講義や実習状況の説明を行った。

例年実施している 1・2 年生および 3・4 年生保健師課程の学生へグーグルクラスター ムを活用した情報発信が できなかった。

4) 審査の実施

2 年生前期成績が GPA2.7 以上 19 名のうち 8 名（42.1%）が受験し、全員が合格した。

受験票の配布において所定の期間（1 日間）に取りに来た学生が 2 名であった。

申請書の変更は従来の様式より受験生の考えなどが明確な記載が多かった。

審査は、3 年生の実習期間中に東京校舎で、作成したマニュアルに則り、計画通り行われた。

5. 評価

1) 小論文の評価のありかた

審査担当者が受験生全員の論文評価をすることで、課題であった審査担当者間の差をなくした。今年度は受験生が 8 名と少なかったため、審査担当者の負担も少なく実施することができたが、受験生が多い場合、今年度同様の方法がとれるのか課題となる。

2) 志向性を高めて受験できるための審査

志願書を通して、本課程の志願理由など学生の考えが明確になっている記載が多く、学生の考えをまとめやすくすることはできた。

また、常識的なことへの対応ができない学生も見受けられ、一般住民を対象とする保健師として活動ができるのか不安になる場面もあった。審査前の説明会などで教務課と協働し対応する必要がある。

さらに、目指す保健師像や保健師課程への期待など受験生自身のことばで語り、それを審査する方法を取り入れるなど検討が必要である。

3) 学生が保健師課程及び保健師活動を理解するための情報発信の推進

審査説明会での 4 年生の課程紹介はイメージしやすいという感想も聞かれた。当事者を活用した対面での情報発信を今後も継続する。

グーグルクラスルームを活用したタイムリーな情報発信は、保健師課程の教員の稼働量から困難な状況が続いている、今後の課題として、効率的かつ効果的な情報発信方法を検討する必要がある。

4) 審査のありかた

審査の事前シミュレーションを教務課が行ったことで滞りなく実施できた。次年度も今年度同様継続していきたい。

受験票の配布は、周知方法と配付期間を延ばすなどの工夫が必要である。

集団討議面接の課題設定は、受験生の意見

表 2024 年度委員会活動

が賛否両方に分かれることを意図して、時間をかけて検討した。その結果、審査の際に学生から、賛成意見と反対意見が述べられ、討議が充実した。また、学生の課題についての基礎知識の有無も検討し、できるだけ討論できる課題を 3 か月にわたって検討した。今後も受験生の意見交換の状況を適切に評価できる課題を設定するために、時間をかけて丁寧に課題を検討する必要がある。

集団討議面接で意見を賛否分かれできることは受験生にとって討論しやすい課題になったと推察する。委員会で 3 か月かけて検討した結果とも言える。これからも丁寧に検討することで受験生にとって討議しやすい課題の提示ができる。

5) 2025 年度委員会体制の変更

大学より、本委員会が教務委員会管轄のワーキンググループとしての位置づけに変更になることが打ち出された。

位置づけが変っても 1 分野の教育課程の審査を保証する組織であることは変わらない。学生にとって公正な審査が担保されることは重要である。それにより、将来、住民に寄り添い、健康な地域づくりに寄与できる保健師の育成に繋がることを期待する。

回	開催月日	内容
1	4月3日	2024年度3年生保健師課程在籍者の取消し
2	5月21日	1. 今年度の方針 2. 2023年度選択者選抜スケジュール 3. 委員会年間スケジュール
3	6月27日	1. 集団討議面接のグループ設定と担当者 2. 個別面接審査のグループ設定と担当者 3. 委員以外の審査担当教員の検討
4	8月5日	1. 小論文の評価のあり方について検討① 2. 保健師課程選択者選抜に係る説明会報告
5	10月21日	1. 小論文の課題検討① 2. 集団討議面接の課題検討① 3. 追審査の実施
6	11月18日	1. 小論文の課題検討② 2. 集団討議面接の課題検討② 3. 審査当日の動き
7	12月20日	1. 集団討議面接の課題③ 2. 審査当日マニュアルの確認 3. 審査の手続き状況報告 4. 次年度の委員会のありかたに関する意見交換
8	1月15日	1. 保健師課程選択者に係る審査の実施 2. 審査後の振り返り
9	3月6日	1. 2024年度委員会活動の振り返り 2. 年報掲載内容の検討 3. 保健師課程選択者選抜要項の廃止の検討 4. 保健師課程選択者選抜に係る審査要領の廃止の検討

宗教教育委員会

1. 構成員

委員長：長谷川徹

委 員：池田直子、伊佐山流鹿、大橋喬紀、清野
星二、高橋祐希、田渕路、玉那霸直大、
諸見里優子、山地悟、山本理

書 記：大橋喬紀

役割分担

チャプレン（大多喜）	長谷川徹
チャプレン（東京）	長谷川徹、高橋祐希
CMC※（大多喜）	山地悟、伊佐山流鹿、 (サムエル・コランソン)
CMC※（東京）	高橋祐希
活動支援（大多喜）	田渕路、玉那霸直大、山 本理
活動支援（東京）	池田直子、大橋喬紀、清 野星二、諸見里優子

※キャンパス・ミニストリー・センター

2. 所掌事項

- (1)宗教教育の予算に関する事項
- (2)宗教教育プログラム全般に関する事項
- (3)学生の地域ボランティア活動に関する事項
- (4)CMC の企画する宗教プログラムに関する事項
- (5)三育学院教会聖歌隊の活動に関する事項
- (6)教職員の宗教的啓発に関する事項
- (7)教授会への提案に関する事項
- (8)その他宗教教育に関する事項

3. 今年度の活動方針

本学教育事業デザインの基礎であるキリスト教教育においては、知的にキリスト教思想に触れ、自らの価値観を顧みることを奨励するとともに、礼拝への参加やキリスト者との交流を通じた全人的なキリスト教経験を提供することを目的とする。

この目的を果たすため、昨年度に引き続き、大多喜においてはキリスト教への「入り口」を、東京においてはキリスト教の雰囲気のある「居場所」を提供することを活動の基本的な軸とした。

4. 活動の実際

- ・バイブルウィーク（春季・秋季・卒業）・全学
礼拝・ミッションデー等、全学生の参加義務のある
プログラムの企画・実行
- ・ベースパー・祈祷会・教会プログラム・スポーツ
交流会等、自由参加プログラムの充実

5. 評価と課題

- ①大多喜・東京ともに、CMC 提供のプログラム
への参加者が増加し、寮や授業とは別の形で学生
コミュニティの形成をサポートすることができ
た。
- ②今年度は、セブンスデー・アドベンチスト教団
の全日本障がい者大会（9月、横浜市）や教団青年
部主催の青年大会（11月、千葉県白子町）、クリ
スマスチャリティコンサート（12月、茨城県
行方市）など、学外のプログラムに多くの学生が
参加した。①と併せて、学生のキリスト教理解を
深める場を提供できた。
- ③昨年に引き続き、卒業礼拝前日の金曜夜に卒業
献身会を行い、卒業後社会に奉仕する者として献
身の思いを新たにする機会となった。
- ④今年度は、数名の学生の受洗（バプテスマ）が
あった。これは、本学のキリスト教教育が学生に
対してポジティブなものとして伝わっていること
の証左であると言えよう。
- ⑤国試受験者へのビデオメッセージや特別賛美歌
など、教職員に協力をいただいたことは宗教教育
にとって利するところ大であった。今後も全教職
員がこの領域の意義を意識できるよう、委員会と
して工夫をしていきたい。

6. 委員会開催と議題

日 時	議 題
4月 25日 16:10-17:40	年度方針、春季バイブルウィーク（準備進捗・欠席者対応）他
5月 30日 16:10-17:40	バイブルウィークアンケート、聖歌隊夏季練習他
6月 27日 16:10-17:40	大多喜 CMC スタッフ、クリスマス関係スケジュール確認他
7月 25日 16:10-17:40	学内 CMC 活動の報告、中大寮配置変更他
9月 26日 16:10-17:40	学生バイブルウィークメッセンジャー候補他
10月 31日 16:10-17:40	青年大会、聖歌隊活動、各キャンパス活動他
11月 28日 16:10-17:40	クリスマス関連学外活動、東京校舎におけるキリスト教教育他
12月 19日 16:10-17:40	2025 年度バイブルウィーク講師他
1月 30日 16:10-17:20	2025 年度全学礼拝・ミッショングループ他
2月 27日 16:10-17:40	2025 年度キリスト教教育プログラム案他

図書委員会

1. 構成員

委員長：山本理

委 員：相川由紀夫、清水浩美、清野清二

書 記：山本理

2. 職務

- 1) 図書・雑誌・視聴覚資料等に関する事項
- 2) 図書予算策定と執行状況に関する事項
- 3) 図書館・図書室の運営に関する事項
- 4) その他、図書に関する事項

3. 今年度の活動方針

- 1) 学生の学修と知的活動を積極的に支援する。
- 2) 教職員の研究教育活動を積極的に支援する。**
- 3) 各種研修等で修得した知識・スキルを他部門に紹介し、サービスの拡充に努める。

4. 活動の実際

1) 図書委員会の開催

・4/30 火曜 第1回

1. 2023 年度の振り返り

- 1) 図書館紹介 (N1 対象 4/3 研成会)
- 2) 図書館ツアー (N1 対象 6/14 学修センター)
- 3) 学生選書ツアー (6/23 紀伊國屋書店)
- 4) 購入図書実績 (98 冊うち看護 65 冊)
- 5) 2023 年度卒業アンケートから

2. 2024 年度の計画

・図書予算計画 (予算が出てから)

・図書館紹介 (N1 対象 4/2 研成会)

・図書館ツアー (N1 対象 4/9 学修センター)

・学生選書ツアー (N3&N4 紀伊國屋書店)

・図書委員会規定の整備

・寄贈図書規定の整備

・図書の廃棄・除籍に関する規定の整備

・書籍滅菌器について (要望提出)

3 委員会運営方針 (有資料) 決議

4 図書館・図書室利用実績

- 1) 看護学生年間貸出書籍数: 1.2 冊 (2022 年度 2.2 冊、2021 年度 3.7 冊)
- 2) データベース利用: 医中誌検索 9468 回、メディアルオンライン D/L 3002 回

2) 学生選書ツアー計画と実施

・2024 年 12 月 13 日 紀伊國屋書店本店
(参加学生 2 名、引率教員 1 名) 22 冊注文

3) 勤労奨学生による夜間・週末開館

・久しく滞っていた開館時間の拡張が通年で実施できた。

5. 評価と課題

- 1) コロナ禍による遠隔授業の実施や学生の隔離期間延長に伴い、来訪による図書館ならびに図書室の利用は著しく制限された。直接の来訪に頼らない活用法の検討と実施が必要である。
- 2) 書籍の殺菌機が無いために担当者が表面を殺菌するに留まっている。書籍殺菌機の早期導入が望まれる。
- 3) 図書館スタッフ減少による開館時間制限が、勤労奨学生 2 名により解消された。ただし、スケジュールが困難な場面があった。利用者は限定期的で、来館者実績無し日が多くなった。図書館利用の啓蒙がいっそう求められる。
- 4) 昨年度に続き、各種学修活動の遠隔化に伴い、データベースの遠隔利用が増大した。
- 5) 寄贈図書に関する規程が存在せず、未処理書籍の整理が滞っている。規程整備が必要である。
- 6) 価値の無くなった書籍の取り扱いについて、除籍・廃棄の規程整備が必要である。
- 7) 首都圏大手書店との提携による選書ツアーは好評だった。複数回実施の可能性と参加者を増やす取り組みを検討する。

以上

学修委員会

1. 構成員

委員長：山本理

委 員：篠原清夫、田渕路、新妻規恵

書 記：山本理

2. 職務

- 1) 学生が学修目標を達成しうる仕組み作りに関する事項
- 2) 初年次教育の質的保証に関する事項
- 3) 初年次教育の充実と改善に関する事項

3. 今年度の活動方針

- 1) 学修センターの活動を通し、大学生としての学びに必要な素質と能力の向上を図るためにプログラムを企画・実行する。
- 2) 基礎学力の低い学生に対して個別面談を含む支援を実施するとともに、学修習慣を含めた改善案を提供する。

4. 活動の実際

委員会については表1参照。

- 1) 年度始めに基礎学力確認テストを実施し、数学、国語、漢字、語彙力をはかった（学修センターに委託）
- 2) 国語の読解力と数学の計算力においての基礎学力の底上げプログラムの実施（学修センターに委託）
 - ・音読と視写のプログラムを実施（前期）
 - ・計算ドリルを用いた基礎計算力向上プログラムの実施（前期）
- 3) 学修アンケートの実施と振り返り（学修センターに委託、N1アドバイザー報告）
- 4) 学修能力向上のための各種プログラムの実施（学修センターに委託）
 - ・タイムマネジメント講習

- ・タイムマネジメントノート活用法の指導
- ・ノートテイキングの種類と練習
- ・レポート作成上適切な日本語表現
- ・レポート作成の段取り
- ・KJ法を用いた活動内容の相互分析
- ・モチベーションの維持
- ・ハビットトラッカーによる習慣化
- ・保健師課程の紹介
- ・先輩学生による学修アドバイス

5. 評価と課題

- 1) 前期は基礎学習セミナーとの連携を行った。ノートテイキング、レポート作成、活動分析において、授業時のグループ活動を発展させることができた。しかし、各演習を十分に行うことができるほどの時間はとれなかった。
- 2) 読解力向上を目的として音読と視写プログラムを実施したが、数回にとどまった。学生の負担が重く、継続できなかった。
- 3) 計算力向上を目的とした計算ドリルの活用は該当学生の半数において、終了に至った。
- 4) 各自のペースで自学修を継続できること、また、同級生同士の学び合いを発展させていくよう取り組みたい。

表1.

日 時	議 題
2024 年 4 月 10 日	<ul style="list-style-type: none">・活動方針の確認・基礎学力テスト結果の検討・前期学修センタープログラムの計画と検討
2024 年 9 月 27 日	<ul style="list-style-type: none">・前期学修センタープログラムの振り返り・前期学修アンケートの検討・後期学修センタープログラムの計画と検討
2025 年 2 月 27 日	<ul style="list-style-type: none">・後期学修センタープログラムの振り返り・後期学修アンケートの検討・2025 年度前期学修センタープログラムの計画

地域共創委員会

1. 構成員

委員長：平澤久美子

委 員：浦橋久美子、市川光代

遠田きよみ、手塚早苗

2. 所掌事項

1) 健康支援

(1) 健康な地域づくりに関すること。

(2) 地域住民の QOL の向上に関すること。

2) 公開講座の企画運営

地域に開かれた大学として、本学が持つ教育・研究の成果を地域社会（東京キャンパス練馬区含）に解放し、地域交流と教育文化の向上に貢献すること。

3. 活動の実際

1) 地域との連携による活動

(1) 御宿町との連携(表1参照)

御宿町との包括的連携に関する協定に基づき、包括的連携推進会議を年2回行い、年度の計画及び進捗状況の確認をした。具体的な活動は以下のとおりである。

①地域保健・医療・福祉

公開講座(3.2)参照)を活用し、町民の保健・医療・福祉への関心を高めた。

②教育・人材育成

本学の教育プログラムである、専門教育科目の講師や教育ボランティアを町保健師や住民に依頼するとともに、労作教育のフィールドとして活動を展開した。

10プログラムを34日間実施し、65名の住民、11名の町職員に107名の学生の教育に協力をいたしました。プログラムのひとつである総合実習では、公衆衛生看護実習Ⅰを基盤に住民の交流の機

会をつくり、その活動が住民によるグループ活動へと発展した。

小学校5年生に看護・看護師について理解をしてもらいたく、教育委員会の効力を得、御宿小学校で種まき授業を実施した。看護を身近に考えるために、けがをした時の絆創膏の貼り方を演習に取り入れた。

③まちづくり

学生のボランティア活動を通して行われた。5プログラムを16日間、30名の住民、12名の町職員、13名の教職員とともに19名の学生が町づくりに寄与した。

脳トレのために御宿町広報の1ページをいただき、学生の考えたクイズなどを年11か月掲載した。住民から楽しみにしているとの声をよく聞き、定着している様子が伺える。

多世代交流事業として、介護予防保健事業に参加している高齢者などのサポートとして活動、梅採取を通して高齢者と交流をもった。採取した梅は、こども園の園児に配り、家で梅ジュースを家族とともにつくれるような機会をつくった。

町と本学が企画している「世界でひとつシリーズ」は今年度で5年目を迎えてしつつある。参加者は、児童6名、住民6名、スタッフ(町1名・本学4名)5名であった。本学のスタッフは、教員の他に職員の協力も得、全学的に取り組んだ。

(2) 夷隅ひなた(中核地域生活支援センター)との協働：居場所カフェへの参加

夷隅ひなたが中心になり、大原高等学校と居場所カフェ(県補助金事業)を月に1回実施している。夷隅ひなたから本学に学生ボランティアの依頼があり、活動を開始した。活動内容は、高校生との交流やスタッフとして物品配付などであるが、看護学部や神学科の学生が授業のため、参加できない月もある。学生が参加できない時には、大原高等学校とのつながりをつけるためにも本学

部教員やカレッジ教員が参加した。

2)公開講座

(1) 日時：2024年11月17日（日）

10時30分～12時00分

(2) 講師：小澤政成

（東京衛生アドベンチスト病院 内科医師）

(3) テーマ：地域に即した在宅医療のあり方

(4) 実施方法：東京校舎からオンライン配信

(5) 共催：東京衛生アドベンチスト病院

(6) 後援：勝浦市・いすみ市・大多喜町・御宿町

全参加者は134名であった。参加者の内訳として、各自オンライン参加した人が28名、勝浦市・いすみ市・大多喜町・御宿町の各会場から56名、その他の場所から20名の参加があった。

募集案内は大学のホームページと共に共催である東京衛生アドベンチスト病院での案内、4市町にはポスターの掲載を依頼した。今年度も後援先である4市町の保健福祉や在宅医療推進事業に携わっている保健師の方がたの多大なる協力を得て、各会場に参加された地域住民との意見交換が活発に行われ、地域住民の在宅医療に対する関心の高さを感じた。講座終了後のアンケートでは、「老後に備えて考える機会となった」「在住している地域の現状を知った」「今後もこのような講座に参加したい」など、貴重な意見が多数あり、今後の地域共創活動を実施していくうえでの参考にしていきたい。

4.評価と課題

1) 地域との連携による活動

(1) 御宿町との連携

教育・人材育成では、住民が教育ボランティアとして参加する科目について学生および住民から高い評価を得ている。特に、学生は緊張感を持ちながら演習に臨み、住民のあたたかな励ましなどから看護に対する意欲がさらに高まり、学修への影響が大きいと思われる。

種まき授業は、小・中学校の連続性を持ち実施

していく計画である。現在の小学校5年生が、中学生になったときにどのように関連付けていくか課題である。

学生にとって世代の違うこどもや高齢者との交流は、多様な価値観に触れる機会となり、人間としての幅を広げる機会である。実際、活動が学生にとってどのような意味があるのか評価がされていないため、今後、学生への影響を明らかにしていく必要がある。

また、教育・人材育成のひとつである総合実習では、学生が企画した住民の交流の場が住民のグループ作りに発展しまちづくりに寄与した。このように、実習からまちづくりへと有機的につながる取り組みが今後も期待される。

(2) 居場所カフェを活用した本学の広報活動

大原高等学校生徒との交流は、本学の広報活動の場にもなるため、どのような広報活動ができるのかなど入試広報課とも連携しながら活動を展開したい。

2)公開講座のあり方

現在の医療が、病院から在宅医療へとシフトしている現状から、今年度の講座も地域住民が興味関心を示すテーマであったと考えている。日本は世界でも類を見ない速さで超高齢社会へと突入しているため、高齢者に対する制度や支援体制が追いつかないことや、地域差も出ているという現状がある。昨年度のアンケートからは、参加者が生活している地域（特に夷隅郡市）の在宅医療の現状を知りたいとの意見が多数あった。次年度も、地域住民の意見を参考にした講座を企画するのであれば、その地域で保健福祉事業を実践している保健師と話しあいを重ね、テーマや実施場所・方法を決めていく必要がある。また、他大学や公共施設で開催されている公開講座なども概観したうえで、本学の特徴を活かせる講座や多角的な視点をもって「地域交流と教育文化の向上に貢献」で

きる企画を考えていく必要がある。

表1 令和6年度 御宿町・三育学院包括連携に関する活動実績（3月末現在）

内容	企画種類	実績					備考
		開催日数	住民	学生	大学教職員	町職員	
地域産業の振興							
地域保健・医療・福祉		1	1	10		1	3
教育・人材育成	公衆衛生図鑑学実習	2	19		7	2	2
	講師	1	1	1	9	1	2
	看護教育図ランティア	5	8	32	72	15	7
	労作教育	1	5	4	19	10	
	看護種まき授業	1	1	28		4	5
小計		10	34	65	107	32	16
生涯学習							
（多世代の事業）	脳トレ広報掲載	1	11		13	2	2
	うめ採取	1	2	2	6	3	5
	介護予防事業	1	1	10	4	1	1
	世界にひとつ図リーズ	1	1	12		4	1
	寄茶場	1	1	6	1	3	3
小計		5	16	30	19	13	12
その他							
合計		16	51	105	126	46	31

* 地域保健・医療・福祉は、本学主催の市民講座として開催

保健委員会

1. 構成員

委員長：松本浩幸

書 記：小田朋子

委 員：松本浩幸、小田朋子、平田まさ

2. 職務

保健センター業務の企画、運営、検討

- 1) 学生の健康診断、健康相談、保健指導及び救命措置に関すること
- 2) 学生の予防接種に関すること
- 3) その他学生の保健に関すること
- 4) 教職員の健康診断、健康相談、保健指導及び救命措置に関すること

3. 活動方針

2024 年度の方針と年間計画

〈活動方針〉

学生・教職員が、意識して感染症防止対策に取り組み、感染後は迅速かつ的確な対応・対策に乗り出し、学生及び教職員が安全で安心した学生生活を送ることができるよう支え、心身の健康保持増進について自己管理できるよう支援する。

〈活動目標〉

- 1) 感染症に対する予防及び対策ができ、かつ感染後は迅速に対応することができる。
- 2) 身体的及び精神的な健康相談が気軽にできるよう窓口を保健センターに設置する。
- 3) 救急処置が必要な学生・教職員対し、的確に判断し救急対応することができる。
- 4) 定期健康診断を実施し健康面でサポートすることができる。
- 5) 学生の保健・健康に関する必要な教育および指導を行うことができる。

4. 活動内容

1) 保健委員会

毎月 1 回の保健委員会を 11 回/年実施した。（表 2 参照）

2) 保健センター活動内容

2024 年度の保健センター体制として、正規看護師 1 名が常時在籍し保健センター業務を担い、メンタルヘルスの相談、予防接種、応急処置、さらに健康啓発活動といった活動等を実施してきた。

2024 年度も昨年同様に新型コロナウイルスが 5 類に移行されたことで、学生・教職員の活動範囲が広がり、体育館や運動場での活動の機会も増えたことで、整形外科関連の受傷者が増え、保健センター利用と外部クリニック受診者の増加がみられた。

感染対策については感染力の強いインフルエンザ、新型コロナウイルスの罹患者が増える冬季に備えてワクチン接種を実施した。更に感染予防に努めるよう適宜注意喚起を行った。

寮内で感染者が出た場合は寮監と連携をとり、寮内に確保した隔離部屋を使用し感染者を隔離、運搬食の手配、お風呂時間設定、トイレの分離、換気、同室者へ注意喚起を行い、寮生に対しても、繰り返し基本的な感染予防対策の徹底を行った。

体調不良者に対しては教務・学生課へ連絡し、感染症の報告、病気療養期間について等の必要事項を報告し、学部の教員に連絡をしていくことで連携がスムーズに行えた。

①学生、教職員の保健センター利用状況

大多喜キャンパスに於いては、大学の校医、近隣の病院のサポートを得ながら保健センターが中心となって、学生、教職員の健康管理を行った（表 3、表 4）。多くの学生が学寮に入寮しているため、夜間は寮監、授業時間は保健センターで対応した。大多喜では大学の立地上、受診、通院に不便さが伴う為、寮監や保健センターが必要に応じ病院への送迎を行った。また、各寮に救急処置に用いる消毒薬、富士薬品常備薬を配置し、夜間帯や休日などに対応できるようにした。

東京校舎に於いては、実習病院が隣接しているため、病院の支援を得て、学生の健康管理を行なった。三育学院大学・カレッジ教職員の保健センター利用状況を表にした(表3,表4)。

表1. 三育学院大学保健センター一年間計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断（東京衛生アドベンチスト病院）N4 看護師課程 ・新入生に対し健康管理ノートの活用方法説明 ・予防接種のスケジュールについて指導（B型肝炎・麻疹・風疹・ムンプス・水痘） ・救急箱の配布・指導（配置場所：ミルテ・スマイルナ寮、カレッジ寮） ・保健委員会 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回献血調整会議（千葉県赤十字血液センター担当者と日時調整） ・防災訓練（救急用品の確認・担架の準備） ・保健委員会 ・健康診断（大多喜）：教職員、N1、N2、保健師課程4年生、神学科 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ） ・健康診断（東京衛生アドベンチスト病院）N3
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・6/25 献血 1回/年 ・保健委員会 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断・要再検査学生、教職員への対応 ・看護学1年生・2年生、神学科予防接種について説明と指導 ・保健委員会 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・常備薬の補充・点検（富士薬品へ依頼） ・害中対策教育・各寮（ポイズンリムーバーの取り扱い方法） ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ注意喚起 ・私学共済へ健康診断報告 ・保健委員会・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎病院病院長（学校医）とインフルエンザ予防接種調整 ・保健委員会 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎病院（学校医）、東京衛生アドベンチスト病院にてインフルエンザ予防接種 ・保健委員会 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所へTB検査報告 ・私学共済健康診断最終報告 ・労働基準監督署へ定期健康診断結果報告書の提出。 ・保健委員会 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急箱の確認と配置（配置場所：ミルテ・スマイルナ寮、カレッジ寮） ・常備薬の補充・点検（富士薬品へ依頼） ・保健委員会 ・AED点検 日々点検/毎月点検（学生ラウンジ・体育館・カレッジ）

表2. 保健委員会活動内容

回	開催日時	テーマ	参加者	場所
1	4月25日 (木)	・2023年度年報の確認 ・4月予防接種オリエンテーションの振り返り ・メンタル不調学生への対応 ・2024年度年間計画	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
2	5月23日 (木)	・大多喜健康診断振り返り ・国際看護実習I予防接種 ・2024年度年間計画／活動方針 ・2024年度版自己点検確認	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
3	6月4日 (月)	・海外研修(全員予防接種) ・献血について ・健康診断振り返り(東京、大多喜) ・保健委員会規程について	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
4	7月18日 (木)	・学内感染状況 ・予防接種状況について ・海外研修について	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
5	9月24日 (火)	・インフルエンザ予防接種の実施方法について ・新型コロナ予防接種確認 ・次年度健康管理ノートについて ・年間スケジュール ・保健センター移動について ・保健委員会規程について	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
6	10月21日 (月)	・次年度健康管理ノートについて ・年間スケジュールについて ・保健センター移動について ・保健委員会規程について ・予防接種実施状況について	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
7	11月19日 (火)	・2025年度健康診断日程確認 ・学内の感染状況について ・年末年始の体調管理について	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
8	12月24日 (火)	・2025年度保健委員会関係日程確認(大多喜/東京健康診断予定日) ・献血日確認 ・学内感染状況について ・年末年始の健康管理について	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
9	1月20日 (月)	・学内感染状況について ・新年度予算について ・大多喜健康診断日確定	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
10	2月14日 (金)	・次年度体制について ・学内の感染状況について ・保健センター規程、保健室規程について ・新年度予算について	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB
11	3月5日 (水)	・入学時オリエンテーション ・予防接種オリエンテーション ・新年度の方針	松本(司会) 小田(書記) 平田	WEB

②感染対策

学生（看護学科・神学科）・教職員の目的別利用件数の中で、最も多いのは内科で 18.3% であった（表 4）。新型コロナウイルス感染症については、学生 7.8%、教職員 21% となり、昨年と比べ教職員が若干増加傾向であった。コロナは感染力が高いのが特徴で、寮という環境の中においては一気に感染拡大する傾向にあるが、今年度は保健センター職員が副寮監となり、寮と連携し、寮内では感染拡大しないように基本的な感染対策を徹底した結果、感染が抑えられたと考える。

③定期健康診断

4 月から 5 月にかけて、全学年及び教職（中等教育学校を含む）を対象に、定期健康診断を実施した。

看護学科は 1 年次に HBs 抗原抗体検査、HCV 抗体検査、QFT 検査、四価抗体検査（麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘）を行ない、2、3 年次も HBs 抗原・抗体検査を実施した。神学科新入生は心電図と四価抗体検査を行った。健康診断結果に於いて要精密検査、要治療、要観察の指摘を受けた学生及び教職員には受診勧奨・保健指導・健康相談などを個別に実施した。

表 3. 月別の学生・教職員利用状況

利用月	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	総件数	教職員
4 月	30	19	0	6	55	7
5 月	36	35	13	0	84	5
6 月	26	16	0	28	70	2
7 月	40	29	1	15	85	11
8 月	1	1	2	1	5	3
9 月	4	1	0	8	13	3
10 月	12	5	4	24	45	10
11 月	15	4	0	16	35	4
12 月	11	1	0	34	46	2
1 月	16	2	3	8	29	7
2 月	11	3	0	6	20	8
3 月	0	0	0	0	0	0
合計	202	116	23	146	487	62

表 4. 学生・教職員の目的別利用件数

利用領域	学生件数	学生割合	教職員件数	教職員割合
内科	94	19.3%	14	22.6%
コロナ関連	38	7.8%	13	21.0%
外科	6	1.2%	12	19.4%
整形外科	57	11.7%	6	9.7%
皮膚科	40	8.2%	1	1.6%
婦人科	10	2.1%	0	0.0%
眼科	18	3.7%	3	4.8%
耳鼻咽喉科	13	2.7%	0	0.0%
歯科	13	2.7%	1	1.6%
メンタル	48	9.9%	1	1.6%
保健指導	7	1.4%	0	0.0%
脳神経外科	10	2.1%	0	0.0%
予防接種	68	14.0%	3	4.8%
相談	31	6.4%	2	3.2%
その他	34	7.0%	6	9.7%
	487	100.0%	62	100.0%

④実習に必要な予防接種の推奨

冬季に流行するインフルエンザの予防対策として全学生に予防接種を推奨している。大多喜キャンパスでは、学校医が院長である川崎病院で 10 月から 3 回に分けてインフルエンザ予防接種の枠を設けて学生 11 名がインフルエンザワクチン接種を受けた。東京校舎では、看護学科 2, 3 年生全員と一部の 4 年生を対象に衛生病院を主な会場として、予防接種を行った。

⑤学生相談

2024 年度の学生相談の内訳は以下の表 5 の通りである。

大多喜では WEB で、東京では対面で臨床心理士がそれぞれ学生相談を行った。

表 5. 2024 年度相談内訳

学期	人数	相談者数													
		看護学生	神学学生	教職員	対人	異性	教員学生	家族	学業仕事	性格	健康	寮生活	役割	過去	危機
前期	6	6			4		5	2	3	5	4	4		3	
後期	8	8			4	1		1	2	7	7	1	1	1	1

後期 1 人のみ対面での相談。他はすべて WEB での相談。

5. 評価・課題

- 1) 2023 年 3 月に常勤の看護師が配属され、2 年が経過した。常勤の看護師は保健センターの要となり、学生教職員の健康面のサポートを行った。今後も看護師が定着して業務を遂行できるように体制を整える必要がある。
- 2) 新型コロナウイルスが 2 類相当から 5 類となってから、学内でも複数の新型コロナウイルス感染が発生することがあったが、関係者で状況の把握と情報共有をし、適切に対処し、学生生活に大きな影響はでなかった。今後も学校医、教務・学生課など学外の関係者と連携して対応していく必要がある。
- 3) 実習に向けた学生の予防接種について、実習 WG に協力してオリエンテーションや予防接種の管理を行うことができた。実習に必要な予防接種のサポートを確実に行ない。
- 4) メンタル面で体調を崩す学生が目立ってきている。教務・学生課や学生委員会、寮監やカウンセラーと連携をとりながら学生をサポートしていく必要がある。
- 5) 2025 年 4 月から大学の業務の合理化により保健センターは保健室となり、保健委員会は独立した委員会ではなく、学生委員会の中の学生保健 WG に再編される。学生委員会と連携をとりながら学生の健康を支援していくことが重要である。

研究推進委員会

1. 構成員

委員長：廣瀬幸美

委 員：篠原清夫（副委員長：紀要発行）、
鈴木美和（副委員長：年報発行）、
北田ひろ代、新妻規恵、
中村信一、平澤久美子、

書 記：廣瀬幸美

役割分担（チーム編成）

全体の統括	(委員長)廣瀬幸美
研究推進チーム	◎廣瀬幸美、篠原清夫 中村信一、平澤久美子
紀要発行チーム	◎篠原清夫、廣瀬幸美、 鈴木美和、北田ひろ代、 新妻規恵
年報発行チーム	◎鈴木美和、新妻規恵、

◎：チームリーダー

2. 所掌事項

- 1) 研究推進体制の整備に関する事項
- 2) 外部研究費の導入の推進に関する事項
- 3) 各種研修会、研究会の実施に関する事項
- 4) 紀要発行に関する事項
- 5) 年報発行に関する事項

3. 事業計画、活動方針

1) 委員会全体としての活動方針

- (A) 昨年度は研究費支給ポイントシステムへの申請提出率および研究費加算取得率の上昇、ならびに学内外研究費の申請も増加しており、引き続きこれらの申請数が維持向上できるよう教員への働きかけを実施し、研究活動の活性化を図る。
- (B) 今年度は 4 年毎の研究倫理教育（日本学術振興会 e-learning の受講）の受講年になるため、FD 委員会および研究倫理審査委員会と共に研修を実施し、教員全員の受講を目指す。

(C) 紀要発行業務を円滑に行う。

(D) 年報発行業務を円滑に行う

※それぞれの職務については、研究推進チーム、紀要発行チーム、年報発行チームの 3 つに分かれ、組織的に迅速かつ着実に実施する。活動内容によってはチーム間で協働により円滑な業務遂行を図る。加えて、本委員会の職務には、FD 委員会、研究推進支援室、研究倫理審査委員会、教務学生課（東京校舎事務）等との共同事業もあることから、これら関連する委員会、事務との連携協力を図る。

2) チームごとの職務と活動方針・業務内容

- ① **研究推進チーム**：所掌事項 1) 研究推進体制の整備に関する事項、2) 外部研究費の導入の推進に関する事項、3) 各種研修会、研究会の実施に関する事項
 - (1) 教員の研究活動の活性化を図るための対策を引き続き検討し実施する。
 - (2) 研究費支給ポイントシステムへの申請提出率、及び研究費加算取得率アップに向けての働きかけを継続する。
 - (3) 若手研究者の研究推進の一環として、学内共同研究費助成への応募を促し、「学内共同研究費助成規程」に基づき、着実に実施する。
 - (4) 科研費獲得のための広報、及び支援について、研究推進支援室と連携を図り、引き続き強化していく。
 - (5) FD 研修の研究研修の一環として、本年度は 4 年毎の研究倫理教育（日本学術振興会 e-learning の受講）の受講年になるため、早期に実施計画に着手するとともに、e-learning 受講証の取得に向けて事務業務（各教員の PW の発行、受講状況の把握など）を研究推

進支援室が着実に実施する。

② 紀要発行チーム : 所掌事項 4) 紀要発行に関する事項

- (1) 2024 紀要発行スケジュールを作成し、スケジュールに基づいた編集・発行作業を着実に実施する。
- (2) 掲載論文数の増加のための働きかけとして、研究論文（原著、研究報告、総説）はもとより、その他（活動報告、寄稿・提言など）広く投稿を促す。

③ 年報発行チーム : 所掌事項 5) 年報発行に関する事項

- (1) 2023 年度年報の発行は、学内向け PDF 版として 4 月中旬までに完成し G セッションにアップロードし（4 月教授会の資料とする）、学外関連部署には簡易製本して 7 月までには発送する。
- (2) 2024 年度年報発行スケジュールを作成し、スケジュールに基づいた編集・発行作業を着実に実施する。

4. 研究推進チームにおける活動の実際と評価

1) 研究推進チームにおける活動の実際

- (1) 教員の研究活動の活性化を図る一環として、第 1 回看護学部教授会（4 月 23 日(火)開催）において、科研費 2024 年度の採択、2025 年度の応募、2024 年度学内共同研究の募集、ならびに 2024 年度研究費ポイント加算の結果について、以下のような内容を報告した。
- ・科研費について: 2024 年度採択状況（新規 1 件、継続 2 件）、及び 2025 年度の科研費の応募（スケジュール、コンサルタントによる支援を奨励）を報告
- ・2024 年度三育学院大学学内共同研究費助成の募集について: 研究期間、助成額、応募条件・義務、5 月 31 日(金)締切を周知し、応募を募った。

- ・2024 年度研究費ポイント加算の結果報告: 『III-27-5 研究費支給に関するポイントシステムのガイドライン』に基づき、申請状況および加算獲得状況についての報告〔申請期間中に提出された申請者数（20 名／21 名）、提出率 95%、加算獲得者数 13 名／20 名申請）、加算獲得率 65%、教員全体における加算獲得率 62%〕。申請した教員には、各自の加算研究費と基本研究費を合わせた 2024 年度個人研究費を、年度当初迅速に支給するなど、研究活動の円滑化を図った。

(2) 第 1 回研究推進委員会の開催

5 月 7 日 (火) 13:00～13:50

- ・2024 年度委員会の活動方針、役割分担について承認された。
- ・2024 年度紀要発行スケジュールについて、篠原清夫副委員長（紀要発行チームリーダー）より提案され、承認された。
- ・2024 年度年報発行スケジュールについて、鈴木美和副委員長（年報発行チームリーダー）より提案され、承認された。

(3) 学内共同研究費助成の募集

募集期間: 4 月 23 日～5 月 31 日

- ・『三育学院大学教員研究費助成規程』に基づき、2024 年度の研究費助成（学内共同研究費）募集した結果、1 名の申請があった。

(4) 第 1 回研究推進チーム会議・学内共同研究費助成審査会の開催: 6 月 10 日(火)

- ・規程に基づいて選定された審査委員（研究推進委員会の教授 2 名と委員以外の教授 1 名の 3 名）に、事前に申請書類が配布され、審査が実施された結果、採択となった。

(5) 科研費の応募に関する情報提供と申請書作成に向けた支援

5 月末～9 月（9 月中旬の公募締切頃まで）

- ・2025 年科研費応募に関する情報について、メールや教授会、FD 研修を通じて周知した。科研費応募者に対しては、研究推進支援室を通してコンサルタントとの調整をはかるとともに、個別

の相談を受けるなど、科研費獲得に向けての支援を行った。

- (6) 文科省より提出要請のあった「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく取組状況に係るチェックリスト（令和 6 年版）」の記載内容を確認し、研究推進支援室より 11 月 26 日(火)に文科省に提出した。
- (7) 研究倫理教育（日本学術振興会 e-learning の受講）については、夏季休業時に、研究推進支援室より教員個人宛に「研究倫理 e ラーニング 受講開始のお知らせ」をユーザー ID と PW とともに配信し、受講を開始した。受講状況を確認しながら受講の促進を図った。
- (8) 2025 年度研究費ポイント加算の実施

2 月末日～3 月末

- ・『研究費支給に関するポイントシステムのガイドライン』に基づき、2025 研究費加算申請を開始し（申請期間：2 月 10 日～3 月 14 日）、提出された申請書類（2024 年度の研究業績書）に基づき、2025 年度研究業績ポイントの算定を行った。
- ・ポイント加算申請の提出者は 20 名で、申請の提出率は 100%（加算対象メンバー 20 名[新任・育休、大学院特任教授を除く]）で、このうち加算者（5 ポイント以上の獲得）は 10 名、加算獲得率 50.0%（10 名／20 名）であった。
- (9) 2025 年度科研費審査結果通知（学振より 3 月 1 日）を受け、新規申請者には研究推進支援室より個別に結果を通知した。
- ・結果は、基盤研究（C）に応募した 2 名ともに、不採択（新規採択率 0%）であった。

- (10) 第 2 回研究推進委員会の開催

3 月 24 日（月）

- ・2024 年度委員会（各チーム）の活動報告書を確認し、2024 年度の活動を振り返り、2025 年度に向けての課題を共有した。

2) 研究推進チームにおける評価と課題

- (1) 教員の研究活動の活性化を図るため、昨年に引き続き、研究費支給ポイントシステムの申請奨励・加算算出の実施、若手研究者を対象とした学内共同研究費助成申請の支援、科研費申請に関する情報提供と申請書作成に向けた支援、研究倫理教育研修に科研費に関する情報提供は円滑に実施できた。
- (2) 研究費支給ポイントシステム実施の結果、今回の申請者は加算対象 20 名中 20 名で提出率が 100% となり昨年より 5 ポイント上昇したが、加算者は 10 名で昨年の 13 名より 3 名減少し、加算獲得率も 50% で昨年の 62% より 12 ポイント減少した。また、2 年連続（2024 年度業績合計と前年度繰越ポイントとも）0 ポイントが 7 名おり、昨年度の 2 年連続ポイント 0 は 5 名であり、研究活動の停滞が広がってきてている。特に長期にわたって研究活動が停止しているのが、ベテランの准教授・講師であり、大学全体の研究活動の活性化を図る上でも重い課題となっている。このような状況を踏まえ、効果的なポイントシステムの検討が必要である。
- (3) 学内共同研究費助成の支援に関しては、期限内に 1 名の応募があり、審査の結果、採用となった。今年度応募者は助教で、同領域長である教授が共同研究者とした研究指導体制であり、昨年同様、本研究費助成の主旨を踏まえた体制となった。また、本研究助成による成果として、昨年度の申請者、および本年度の申請者においても、関連学会での発表や 2024 年度三育学院大学紀要に研究報告として投稿し掲載が決定しており、着実に成果を公表することができた。
- (4) 科研費応募に対する支援では、これまでと同様、科研費に関する情報を会議やメール等で周知し、応募を募った。2 名応募があり、コンサルタント支援を受けるよう勧めたが、この 2 名とも支援を受けたこともあってか今回は受けなかった。学術振興会からの審査結果は 2 名とも不採択で、新規採択率 0% となり、昨年の 33% を下回った。

この 2 名に対しては審査結果を通知の際、次回の申請に向けて今回の審査結果をもとに再考頂き、コンサルが利用できる環境を準備することを伝えた。また、本学の教員の大半が申請できる「基盤研究（C）」の採択率は例年 30% 未満であり採択は非常に厳しいが、そもそも、本学の教員で科研に応募できる教員は、今回応募された教員や科研費継続中の教員以外は、研究業績が伴わないことから、応募すら厳しい状況である。今後は科研等外部研究費に申請するためにも、特に准教授、講師、若手教授への研究支援を図る必要がある。

(5) 研究倫理教育（日本学術振興会 e-learning、もしくは学振以外の e-APRIN などの研修プログラム）受講対象者は、教員 27 名（研究者向け研修の受講）と大学院生 4 名（大学院生向け研修の受講）の合計 31 名。2 月末日時点で、教員の受講修了者は 24 名（24 名／27 名中で 88.9%）、大学院生は 4 名（4 名／4 名中で 100%）のため、教員未受講者 3 名へ再通知。その結果、3 名とも受講し、受講者全体の受講率 100% を達成した。

(6) 研究推進委員会の予算執行については、2023 年度年報（昨年度）作成より学内における簡易製本としたことから、本年度はかなりの減額予算であったが、紀要発行に関わる経費が予算内に収まることや、年報の簡易製本作成や発送に際し事務方の協力も得られたこと等から、当初の予算内に収まり円滑に実施できた。

5. 紀要発行チームにおける活動の実際と評価

1) 紀要発行チームにおける活動の実際

(1) 研究推進委員会第 1 回会議での紀要発行チーム報告 2024 年 5 月 7 日(火)

- ・紀要発行チームより紀要発行スケジュール(案)の報告をした。

(2) 紀要投稿エントリー確認 7 月 31 日(水)

- ・提出された投稿原稿表紙は 11 件で、その内容確認、エントリーの受理連絡、投稿予定者・テーマ一覧表の作成を行った。

(3) 投稿原稿の確認 9 月 17 日(火)

- ・締め切りまでに提出された 7 論文の原稿を紀要投稿内規に沿っているか確認するとともに、執筆者に受取連絡を実施した。また提出物に不備のあるものに対して再提出を依頼し、投稿者・テーマ・連絡者一覧表を作成した。

(4) 紀要発行チーム第 1 回会議 9 月 24 日(火)

- ・投稿研究論文の査読者およびその他の論文の連絡者について審議・決定をするとともに、投稿者にわかりやすい内規にするため、投稿内規改正の検討をし、承認された（投稿内規は 2025 年 4 月より施行）。

(5) 査読依頼 9 月 25 日(水)

- ・投稿研究論文の整理・確認、査読依頼書作成等の準備をし、その後各査読者にメールで査読依頼をするとともに、査読論文・査読報告書・修正意見書・査読ガイドラインを発送した。

(6) 査読報告書の受理 10 月 18 日(金)

- ・査読者からの査読結果報告書の受理連絡、査読結果報告のための文書編集・コピーおよび PDF 作成を行った。

(7) 投稿者への査読結果の通知 10 月 22 日(火)

- ・査読結果通知書および査読者の修正意見書を投稿者に送付し、論文修正を依頼した。

(8) 修正論文の提出確認 11 月 15 日(金)

- ・執筆者に修正投稿論文の受取連絡をし、修正意見書に基づいた論文であるかの確認、査読者に再査読の依頼準備を行った。

(9) 修正論文の再査読依頼 11 月 20 日(水)

- ・修正投稿研究論文の整理、再査読依頼書作成等の準備をし、査読者に再査読依頼を発送した。

(10) 再査読報告書の受理 12 月 6 日(金)

- ・査読者からの再査読報告書を確認し、受理連絡を行った。

(11) 紀要発行チーム第 2 回会議 12 月 16 日(月)

- ・紀要第 17 卷第 1 号投稿論文について、再査読結果報告をもとに研究論文の掲載について掲載の可否の審議および決定をした。再査読において

てコメントのあった論文については、投稿者からの相談に紀要発行チームの修正相談者が受け、修正のアドバイスをすることを決定した。

(12) 執筆者への掲載可否の結果通知 12 月 16 日(月)

・掲載可否の結果通知を作成、執筆者に発送、電子データ原稿の提出依頼を実施した。再度修正が必要な論文は継続して修正作業を依頼し、紀要発行チームが修正に関するアドバイスを行った。

(13) 論文データ入稿 12 月 25 日(水)

・論文全体を通して確認し、印刷形式に則した電子データの編集作業を行い、データを印刷会社に入稿した。

(14) 発行チームによる初校ゲラ確認 2024 年 1 月 17 日(金)～2 月 7 日(金)

・印刷会社から送られたゲラについてレイアウトや基本的なミスの校正を行い、修正後ゲラの再度確認を行った。

(15) 執筆者によるゲラ校正 2 月 12 日(水)～21 日(金)

・紀要発行チームで確認した修正ゲラを執筆者へ送付し校正を依頼した。その結果について印刷会社へ連絡を行った。

(16) 執筆者による最終ゲラ確認・印刷会社との

打合せ 3 月 6 日(木)～10 日(月)

・依頼のあった箇所について修正がなされていることを執筆者に確認してもらい、再度修正依頼のあった件に関しては印刷会社に連絡、修正を依頼した。

(17) 紀要・抜刷印刷依頼 3 月 12 日(水)

・紀要最終原稿の確定をし、印刷会社に印刷・製本を依頼した。

(18) 紀要完成・配布 3 月 31 日(月)

・印刷会社からの納品がなされ、他大学・機関等に 193 部の発送と大学関係者への配布手配を行った。

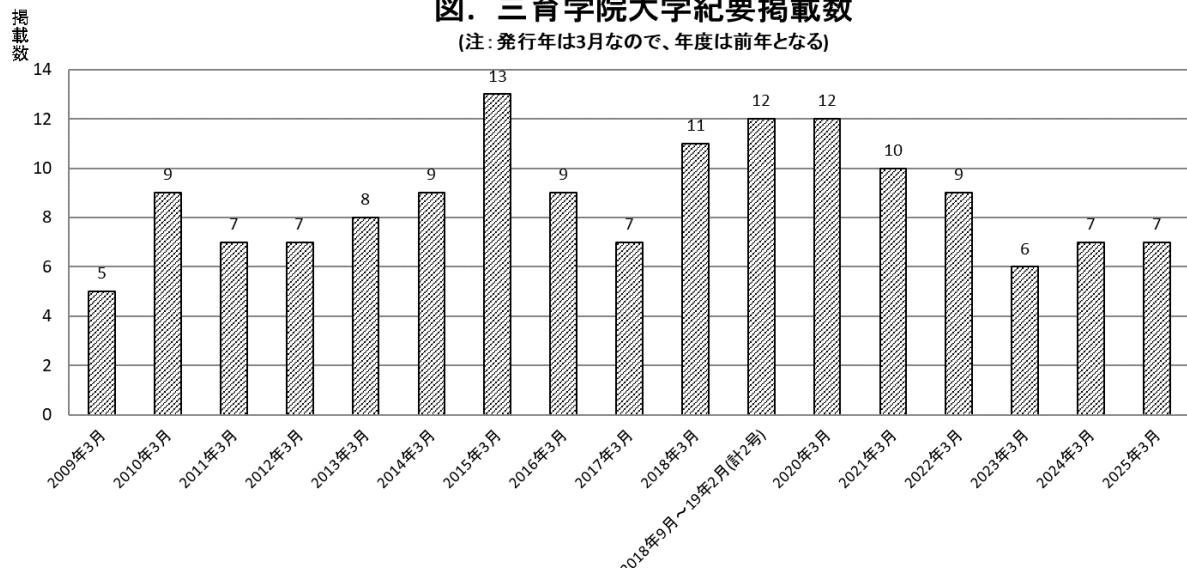
2) 紀要発行チームにおける評価と課題

(1) 本年度の紀要には 7 論文が掲載された。全て査読を要する研究論文(原著 2・研究報告 4・総説 1)で、掲載論文数は昨年度と同じであった(図参照)。エントリーしながら投稿には至らなかつたものが 4 件だったので、研究推進のため論文執筆を促し援助する活動について引き続き検討していきたい。

(2) 原則的に APA(American Psychological Association)に則る形式で執筆してもらっているが、執筆上の細かい点について投稿者より質問があったため、わかりやすい投稿内規に改正

図. 三育学院大学紀要掲載数

(注: 発行年は 3 月なので、年度は前年となる)



することにし、第 17 卷末に掲載することにした。

(3) 昨年度から「査読ガイドライン」に基づく査読を行っているが、より質の高い研究論文にするための前向きなコメントが増えた。今後もガイドライン則した査読をしてもらえるよう査読者に伝えていく。

6. 年報発行チームにおける活動の実際と評価

1) 年報発行チームにおける活動の実際

2023 年度の年報作成にあたっては、各担当者が責任を持って作成および校正等を行い、大学内の簡易製本とすることによって、発行作業の効率化を図ることができた。それに倣って、2024 年度の年報作成も進めている。2 月に原稿募集を周知し、3 月 7 日（金）を締め切りとした。その後、1 か月をかけて、原稿の点検、編集作業を進めた。

2) 年報発行チームにおける評価と課題

年報発行チームの活動は、年報の発行を毎年 7 月としているために、実際に原稿を集め始めるのは、前年度の 2 月である。2023 年度の年報作成においては、原稿募集周知から原稿の収集、点検および校正、簡易製本と円滑に作業を進めることができた。その結果、2024 年 6 月 1 日付年報を発刊することができた。

2024 年度版年報は、2025 年 2 月に原稿募集を開始した。3 月には点検を終了し、4 月には編集作業に入る予定である。原稿提出者が、最終的な校正を行い、誤りのない年報作成に努め、完成させた年報を簡易製本し、関係各所に配付することを計画している。また、年報に掲載した内容は、2025 年度 4 月の第 1 回教授会にて報告予定であり、会議資料として有効活用できる。なお、2024 年度の年報は、昨年度同様の 6 月 1 日発行を目指している。

IR 委員会

1. 構成員

委員長：北田ひろ代

委 員：朝見優子、遠田きよみ、平澤久美子、
松崎敦子

2. 職務

本学における意思決定の支援を行うインスティテューションナル・リサーチに関して必要な事項を定め、委員会の円滑な推進を図ること。

3. 今年度の活動方針

1)データ収集方法

- (1)PROG により、学生のリテラシーとコンピテンシーに関する情報を収集する。
- (2)学内の教育研究や業務運営に必要なデータ収集の要請があった場合は、それに応じる。
- (3)当委員会の職務を遂行する上で必要と判断された場合、教務・学生部や各委員会等で収集、分析したデータを共有させていただく。

2)データの分析

- (1)ジェネリックスキルのアセスメントツールである PROG のデータが、教育において効果的なものとなるよう、必要な部署と連携し、分析方法を検討する。
- (2)PROG 等で得られたデータが、本学の強みを裏付けるエビデンスとなりうるか検討する。
- (3)必要に応じて、各部署が行うデータ分析を支援する。

3)大学への報告

- (1)分析結果について、学内の教育研究や業務運営で活用するための基礎資料として報告する。
- (2)PROG のデータを学生の教育指導に活用できるよう、学内で周知する。

4)学生への働きかけ

- (1)PROG を実施する前に、適宜、必要な説明を行う。
- (2)PROG の結果に関する説明会を行い、学生が主体的に結果を活用できるよう働きかける。

4. 活動の実際

1)委員会の開催

日 時	議 題
第 1 回 2024 年 4 月 10 日 15:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度の PROG の実施における教務課との連携について ・委員会規程について ・今年度の委員会の活動方針について
第 2 回 2024 年 6 月 24 日 13:00～14:00	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年生の PROG について（実施状況と解説会について） ・今期の PROG スケジュール（実施と解説会）について ・PROG のアンケート項目について
第 3 回 2024 年 9 月 10 日 13:00～13:15	<ul style="list-style-type: none"> ・3 年生の PROG 解説会の運営について ・PROG のアンケート項目について
第 4 回 2024 年 11 月 6 日 11:00～11:45	<ul style="list-style-type: none"> ・2 年生の PROG 解説会について ・次年度の PROG について
第 5 回 メール審議 2025 年 2 月 12 日～2 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度のジェネリックスキルの測定方法について

2) ジェネリックスキルの測定について

本学では、ジェネリックスキルの可視化を目的として 2023 年度より PROG を導入した。PROG はコンピテンシーとリテラシーで構成されているため PROG 受験の実施に当たっては、教務課と連携し、コンピテンシー（全学年）とリテラシー（N1,N4）の受験を運営した。学生には受験に関する情報の周知とリマインドを行い、回答時間が 40 分～80 分であることを考慮し、受験期間についても工夫した。

3) 学生への PROG 解説会の実施

N1 は大多喜校舎で対面にて、専門業者による解説会を実施した。クイズ形式で自身のジェネリックスキルを振り返ることで、理解が深まった様子がみられた。N2、N3 については東京校舎において委員会が対面にて実施した。それぞれ基礎看護学実習Ⅱ、領域別実習を控えた時期であったため、実習場面を想起したペアワークを取り入れた。N4 の学生は大多喜と東京の両校舎に在籍しているため、Web 会議システムを用いて、委員会が実施した。国家試験や就職にむけた目標設定の見直しに結び付くような解説会を心掛けた。

4) ジェネリックスキルの分析と活用について

結果の分析は専門業者が行い、委員会ではその内容について確認した。今期は導入 2 期目であり、前期のデータとの比較も行うことで、学生の傾向を詳細に把握することができた。また、学修委員会から提供していただいた N1 の基礎学力確認テスト（国語・数学）は、PROG のリテラシーに該当することから、リテラシー（総合）と国語・数学の各得点との相関を確認した。これらの分析内容については、教務委員会や教授会等で教職員に周知するとともに、G セッションにアップロードすることで共有化を図った。各学生の個人結果については、アドバイザー等が学生の面談などに活用できるよう、大多喜校舎と東京校舎の教

務課に 1 部ずつ設置した。

5) PROG 導入の評価

PROG 導入の評価については、主に分析結果の活用可能性について、本学の特性を踏まえて検討した。現在、本学に在籍する学生は 1 学年当たり 23～39 名であるのに対し、分析の比較対照群となる基準集団は最大 8,000 名以上と、サンプルサイズの差が大きく、結果の解釈が難解である。また、PROG は、コンピテンシーが 30 間、リテラシーが 195 間と項目数が多く、様々な統計手法を用いて分析された結果から集団特性を把握することにも困難さがある。さらに、結果は生データではなく、加工された状態で納品されるため、本学が所有するデータと PROG の関連性を独自に分析するうえで限界がある。受験や分析などに係る費用の高騰もあり、今後は他の方法でジェネリックスキルの可視化を目指すことも必要であると考える。

5. 評価と課題

今期は学生のジェネリックスキルの可視化について、その分析と併せて、PROG の活用可能性についても検討することができた。委員会の職務は「本学における意思決定支援を行うインスティチューションナル・リサーチに関する必要事項を定めること」であり、組織の意思決定支援を職務としていることから、本学の運営方針に基づき、内部質保証委員会などの意思決定機関にとって有益なデータ分析と報告を行うことが求められる。よって、今後は、意思決定支援という委員会の職務を達成するために、必要な学内連携を明確にし、適宜、各部署が行うデータ分析の支援を強化する必要があると考える。

防災委員会（危機管理）

1. 構成員

委員長：杉 正純

委 員：平野美理香（副委員長） 平澤久美子（副委員長） 後藤佳子、篠原清夫、浦橋久美子、真境名悟、中村信一、山口伊作、田渕路、棚橋ゆか、阿部芳也

2. 職務

防災委員会（危機管理）は、本学における自然災害および人的災害等のあらゆる危機に備え、これに対処するための計画策定、準備、訓練の実施を担当する。その職務は、災害発生時における迅速かつ適切な対応を可能にするための体制構築を主軸とし、以下の諸業務を含む：

- 1) 災害対策基本方針の立案および見直し
- 2) 防災訓練の計画と実施（大多喜キャンパス・東京校舎学内全体および学寮単位）
- 3) 緊急時における情報伝達・連絡体制の構築とその定期的検証
- 4) 教職員および学生への危機管理教育・啓発活動の推進
- 5) 危機発生後の対応計画（事後対応、復旧、再発防止策の策定）

3. 今年度の活動方針

学内における防災意識の向上と災害対応能力の強化を主眼として展開する。とりわけ、地震・火災・台風などの自然災害に加え、感染症拡大や不審者侵入等の人的リスクに対する備えを含む包括的な危機管理体制の強化を図る。

具体的には、以下の方針に基づき活動を推進する：

- 1) 全学的な防災訓練計画を策定し、学寮における避難訓練、ならびに各種災害を想定したシ

ナリオ型訓練を定期的に実施する。これにより、学生および教職員の行動力・判断力の向上を図る。

- 2) 緊急連絡訓練の定期的な実施と通信手段の多重化
- 3) 災害発生時における迅速かつ正確な情報共有を実現するため、緊急連絡網の整備と訓練を定期的に行うとともに、複数の通信手段（電話、SMS、メール、専用アプリ等）を活用した情報伝達手段の確保と運用訓練を強化する。

3. 活動の実際

- 2024年03月28日 第一回防災（危機管理）委員会
2024年04月18日 防災訓練（大多喜・東京）
2024年7月19日 第二回（危機管理）防災委員会
2024年8月9日 臨時防災（危機管理）委員会（臨時運営委員会と合同）
2024年10月1日 安否確認システムを利用した防災訓練
2024年11月13日 ミルテ寮避難訓練
2025年01年27日 臨時防災（危機管理）委員会（臨時運営委員会と合同）

5. 評価と課題

本年度においては、防災委員長不在時の緊急連絡体制に関する明確な代行体制を整備し、以下の通り決定を行った。すなわち、大多喜キャンパスにおける防災委員長代行として尾上中等教育学校校長を任命し、その補佐として中村法人事務次長および平澤事務次長を配置した。また、東京キャンパスにおいては平野学部長を代行とし、補佐として後藤学部長補佐を任命し、いずれも運営委員

会において正式に承認を得た。

さらに、防災訓練の実施および訓練後のフィードバックをもとにした改善策の検討を行い、あわせて危機発生時における対応手順を可視化する危機管理フローチャートの作成を実施した。また、現行の「規定 IV-17 『危機管理について』」に関しては、その内容の一部が現状に即していないことが判明したため、新たに「防災に関する規定」および「防災委員会の規定」として整理・再構成を行った。

あわせて、2022 年度版「危機管理基本マニュアル」のガイドラインを見直し、IV-17 と統合する形で最新版としての位置付けを明確にした。ただし、2025 年度においては、大多喜キャンパスの中等教育学校の完成年度を迎えることに伴い、組織変更が予定されているため、それに応じた関連規程の改定作業を次年度に実施する予定である。

本年度の施策の一環として、大多喜キャンパスにおける備蓄倉庫の移設を実施した。従来、女子寮に設置されていた備蓄物資については、当該地域が土砂災害リスク区域であることを踏まえ、安全性の高い一号館 1 階倉庫へ移転し、その過程で備蓄品の点検および再配置を実施することができた。

また、2024 年 8 月 9 日に発生した宮崎県における地震に際しては、政府より南海トラフ地震に関する注意喚起がなされたことを受け、臨時の防災（危機管理）委員会を運営委員会と併せて開催し、学生および教職員全員に対して注意喚起を行った。

さらに、2025 年 1 月 27 日には、本学および全国の大規模教育機関に対し爆破予告メールが送付される事案が発生した。これを受け、臨時危機管理委員会を運営委員会と併せて開催し、千葉県警察・千葉県教育委員会等への報告を実施するとともに、大多喜キャンパスにおける施設警備体制について千葉県警の協力を得る対応を取った。

これら一連の対応については、迅速かつ的確な危機対応が図られたと評価できるものであり、今後の体制整備と改善にもつながる重要な取り組みであったと総括する。

高大連携委員会

1. 構成員

委員長：杉 正純

副委員長：平澤 久美子

委員：今野 玲子、山口 道子、山本 理、
長谷川 徹、真境名 悟、山口 伊作
書記：長谷川 徹

4) 千葉県立大多喜高校との協議

4. 活動の実際

1) 委員会の開催：表1

2) 全学研修での説明

3) 中等教育学校生徒への説明

2. 所掌事項

- 1) 高大連携の実施・支援に関する事項
- 2) 高校校長、教員との意見交換に関する事項
- 3) 高校および教育委員会との連携事業実施に関する事項
- 4) 教育プログラムの実施・支援に関する事項
- 5) 大学入試受験資格認定・受講証明に関する事項
- 6) カリキュラム開発の実施・支援に関する事項
- 7) その他高大連携の目的達成に必要な事項

5. 評価と課題

系列中等教育学校において 2025 年度より高大連携（先取り科目履修）が始まる前提で、第一に系列校との連携プログラム作成と、その調整に取り組んだ。中等教育とは以前より連携の計画が話されていたので、数年前より準備に取り掛かるのが望ましく見切り的側面も否めず反省点といえる。

今後、系列校のみならず県立大多喜高等学校や東京校舎近隣高等学校、キリスト教主義学校等との連携を模索し、学生募集に繋がるプログラム構築へ進めることが課題となる。

また、2025 年度委員会体制が発表され、当該委員会については他委員会と統合の予定となり、その上で目的を達成するための構想を討議しつつ締めくくることとなった。

3. 事業計画

- 1) 系列中等教育学校との連携内容（カリキュラム他）準備と関係部署との調整
- 2) 学内および連携校教職員への情報提供
- 3) 連携対象生徒への PR 活動

表1 委員会の開催状況

開催日	議題
第1回 2024年7月9日	1. 年間計画・方針 2. 委員会規程の確認 3. 単位認定プログラム内容 4. 他大学事例
第2回 2024年3月5日	1. 委員会規程の承認 2. 全学研修の説明内容確認 3. カリキュラム・時間割案の検討
第3回 2024年9月19日	1. ワーキンググループ設置 2. カリキュラム連携情報交換 3. 他校訪問報告

第4回 2024年11月14日	1. WG 進捗報告 (2025年度開講科目 他) 2. 高大連携に関する基本方針 (案)
第5回 2025年3月3日	1. 2025年度開講科目承認 2. 科目履修受講料 3. 履修要項確認 4. 大多喜高校との進捗報告 5. 2025年度委員会体制検討

ハラスメント防止委員会

1. 構成員（2024年10月まで）

委員長：後藤佳子

委員：新城明子、池田直子

（2024年11月以降）

委員長：平野美理香

委員：篠原清夫、後藤佳子、真境名悟、長谷川

徹

分かりやすく修正するとともに、周知を図っていく。

2. 所掌事項

- 1) ハラスメント防止のための啓発
- 2) 学内でハラスメントが起こった場合の対応

3. 活動の実際

- ・2023年度にハラスメントの訴えがなかったため、啓発活動の一つとして新年度オリエンテーションで相談できる窓口があることを発表した。
- ・ハラスメント委員会の構成員を運営委員会で検討し、年度途中で変更した。
- ・学期中にあらためてメールで相談員がいることを発表した。
- ・ハラスメントガイドラインを作成した。
- ・年度途中にハラスメントの相談窓口が内部の教職員であると相談しにくいということで検討し、外部窓口を設けた。
- ・ハラスメントが考えられる案件が1件あったが、当事者が訴える考えがなかったため、委員会内の検討で終了し、疑わしい言動については控えるように指導のみとした。

4. 評価と課題

ガイドラインを発表した後、外部の相談窓口が必要であるとの意見を反映し、「外部相談窓口」を新設することができ、ハラスメントの対応環境が整いつつある。ガイドラインはさらに

衛生委員会

1. 構成員

委員長：杉正純 衛生管理者：小田朋子
産業医：伊藤真夏 保健センター長：松本浩幸、委員：新城明子、平田まき

2. 審議事項

衛生委員会は次の事項を審議または実施する。

- 1) 教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること。
- 2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。
- 3) 労働災害の原因及び再発防止で衛生にかかるものに関すること。
- 4) 定期に行われる健康診断、臨時の健康診断、自発的健康診断及びその他に行われる医師の診断、診療又は処置並びにその結果に対する対策の樹立に関すること。
- 5) 長時間にわたる労働による教職員の健康障害の防止を図るための対策の樹立に関すること
- 6) 教職員の精神的健康の保持増進を図るための対策の樹立に関すること。
- 7) その他安全衛生に必要と認められる重要な事項に関すること。

3. 活動方針

衛生委員会を毎月1回開催し、教職員の健康障害を防止し、健康増進を図る。

4. 活動目標

- 1) 毎月1回衛生委員会を開催し、教職員の健康障害を防止し、健康増進について検討する。
- 2) 希望者や高ストレス者に対して面談し、必要なサポートを行う。

5. 活動内容

表1. 衛生委員会開催実績参照

6. 評価・課題

月に1回のペースで衛生委員会を開催し、教職員の健康障害を防止し、健康増進について検討した（表1参照）。

大学では、勤怠管理システム（ハモス）を導入し教職員の勤怠状況と長時間労働の実態把握及びメンタルヘルス、休職者、労災件数の把握など幅広いテーマで衛生委員会活動を行ってきた。更に、年度末には2024度の年間の活動計画を立案した。職場巡視については、実際に教職員が働いている職場（東京校舎/大多喜校舎）の巡視をした。今後も職場巡視、定期健診、労働時間の把握、ストレスチェック等を実施する中で、教職員の健康障害の防止や健康の保持増進に努めてゆく。

衛生委員会開催実績

表 1. 衛生委員会開催実績

回	開催日	議 題	参加者	場所
1	4月 25日 (金) 14:30~15:30	・第7回衛生委員会会議録について・2024年度の方針について ・衛生委員会年報について ・勤怠管理システムによる教職員の勤怠状況と長時間労働者の健康被害の防止について・2023年度有給休暇取得・職場巡視について	杉正純、伊藤真夏松本浩幸(進行)、小田朋子、新城明子、平田まき(書記)	会議室
2	5月 16 (木) 14:30~15:00	・第1回生委員会会議議事録について ・勤怠管理システムによる教職員の勤怠状況と長時間労働者の健康被害の防止について ・有給休暇取得について・職場巡視について	伊藤真夏、松本浩幸(進行)、小田朋子(書記)、新城明子、(杉正純・平田まき委任)、	会議室
3	6月 20 (木) 14:30~15:30	・第2回衛生委員会議事録について ・勤怠システム(ハーモス)による教職員の勤怠状況と長時間労働による労働者の健康障害の防止について ・2023年度衛生委員会規程について ・ストレスチェックについて・職場巡視について	杉正純、伊藤真夏松本浩幸(進行)、小田朋子、新城明子、平田まき(書記)、	会議室
	7月 24 (木) 13:30~14:00	・第3回衛生委員会議事録について・衛生委員会規程について ・勤怠管理システムによる教職員の勤怠状況と長時間労働者の健康被害の防止について・有給休暇状況について ・今年度のストレスチェックについて ・職場巡視について	杉正純、伊藤真夏、松本浩幸(進行)、小田朋子、新城明子、平田まき(書記)	会議室
5	8月 29日 (木) 14:30~15:00	・第4回衛生委員会議事録について ・勤怠管理システムによる教職員の勤怠状況と長時間労働者の健康被害の防止について・今年度のストレスチェックについて ・職場巡視について(伊藤先生・小田先生)・委員長より(杉学長)	杉正純、伊藤真夏、松本浩幸(進行)、小田朋子、新城明子、平田まき(書記)	会議室
6	9月 26日 (木) 11:00~11:40	・第5回衛生委員会議事録について ・勤怠管理システム(ハーモス)による教職員の勤怠状況と長時間労働者の健康被害の防止について ・有給休暇取得状況・今年度のストレスチェック ・職場巡視について	杉正純、伊藤真夏、松本浩幸(進行)、小田朋子、新城明子、平田まき(書記)	会議室
7	10月 10日(木) 11:00~11:40	・第6回衛生委員会議事録について ・勤怠管理(ハーモス)による教職員の勤怠状況と長時間労働による労働者の健康障害の防止について ・有給取得状況について ・今年度ストレスチェック実施率について ・職場巡視について	杉正純、伊藤真夏、松本浩幸(進行)、小田朋子、新城明子、平田まき(書記)	会議室

8	11月14日(木) 14:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回衛生委員会議事録について ・勤怠管理（ハーモス）による教職員の勤怠状況と長時間労働による労働者の健康障害の防止について ・有給取得状況について ・ストレスチェック規程について ・職場巡視について 	杉正純、伊藤真夏、 松本浩幸（進行）、小 田朋子、新城明子、平 田まき（書記）	会議室
9	12月12日(木) 14:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回衛生委員会議事録について ・勤怠管理（ハーモス）による教職員の勤怠状況と長時間労働による労働者の健康障害の防止について ・有給休暇取得状況について ・ストレスチェック規程について 	杉正純、伊藤真夏、 松本浩幸（進行）、小 田朋子、新城明子、平 田まき（書記）	ZOOM 開催
10	1月23日(木) 14:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回衛生委員会議事録について ・勤怠管理（ハーモス）による教職員の勤怠状況と長時間労働による労働者の健康障害の防止について ・有給休暇取得状況について <ul style="list-style-type: none"> ・学内感染状況について ・ストレスチェック規程について <ul style="list-style-type: none"> ・職場巡視について 	杉正純、伊藤真夏、 松本浩幸（進行）、小 田朋子、新城明子、平 田まき（書記）	ZOOM 開催
11	2月27日(木) 13:15~14:15	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回衛生委員会議事録について ・衛生委員会規程について ・勤怠管理（ハーモス）による教職員の勤怠状況と長時間労働による労働者の健康障害の防止について ・有休暇取得状況について <ul style="list-style-type: none"> ・年報の作成について ・25年度の方針について <ul style="list-style-type: none"> ・25年度委員会の日程 	杉正純（zoom）、伊藤 真夏、松本浩幸（進 行）、小田朋子、新城 明子、平田まき（書 記）	会議室 (第2)
12	3月27日(木) 14:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回衛生委員会議事録について ・勤怠管理（ハーモス）による教職員の勤怠状況と長時間労働による労働者の健康障害の防止について 	杉正純（zoom）、伊藤 真夏、松本浩幸（進 行）、小田朋子、新城 明子、平田まき（書 記）	ZOOM 開催

SD 委員会

1. 構成員

委員長：山口伊作

副委員長：中村信一

委 員：新城明子、平澤久美子

4. 活動の実際

1) 委員会の開催：表 1

2) SD 研修会の開催：表 2

3) 個別研修の参加状況：表 3

2. 所掌事項

1) 職員の資質向上に関する事項

2) 研修会の実施に関する事項

3) その他 SD に関する事項

5. 評価と課題

大学の優先課題である内部質保証の取組みについて各職場での理解を深め対応するため、FD と合同の全学研修を行った。SD は部署による職務内容、課題、内部質保証に対する理解度等に差異が見られるが、数年にかけ実施してきたので、引き続き SD 全体として理解、目標を共有するために継続的に取組みたい。

部署ごとの研修は例年とおり個別研修を中心に行なった。

3. 事業計画

1) 職員個々の資質向上を図るため、SD 研修会（全体研修）を実施する。

2) 職員個々の資質向上を図るため、それぞれの業務にあわせた研修参加を促す。

表 1 委員会の開催状況

開催日	議 題
第 1 回 2024 年 8 月 2 日	1. 年間計画・方針 2. FD/SD 研修会計画・打合せ
第 2 回 2024 年 3 月 5 日	1. 2024 年度総括

表 2 SD 研修会の開催

開催日	内 容	参加者
8 月 21 日	FD/SD 合同研修：大学新システム導入・高大連携について ・内部質保証自己点検評価について ・学習目標の確認、新システム導入、運用 ・高大連携について	27 名

表 3 個別研修

日程	主催者	内容	参加者
6 月 27 日	夷隅都市栄養士会	令和 6 年度夷隅都市栄養士会総会および研修会 「災害を振り返る」	1 名
7 月 1 日～2 日	日本学生支援機構	令和 6 年度障害学生支援実務者育成研修会（基礎プログラム）	1 名
7 月 1 日～14 日	夷隅保健所	令和 6 年度夷隅保健所給食施設管理者・従事者講習会 「衛生管理について」	10 名
8 月 26 日	千葉県私学教育振興財団	学校法人会計基礎講座	1 名
10 月 3 日～4 日	日本産業衛生学会	第 34 回日本産業衛生学会全国協議会	2 名
2 月 26 日	夷隅都市栄養士会	夷隅都市栄養士会研修会 「石川県の地震被害での JDA=DAT 活動事例」	2 名

内部質保証委員会

1. 構成員

委員長：平野美理香（山口伊作9月まで）

副委員長：廣瀬幸美

委 員：浦橋久美子、大橋喬紀、後藤佳子、

今野玲子、北田ひろ代、篠原清夫、

鈴木美和、平澤久美子、松本浩幸

山口伊作

オブザーバー：杉正純

書 記：廣瀬幸美

2. 所掌事項

1) 大学の人材養成および教育目標に関する事項

2) 3つのポリシーに関する事項

3) 自己点検・評価の評価項目に関する事項

4) 内部質保証組織機能の適切性の点検および評価に関する事項

5) 自己点検評価結果に基づく改善案の立案と学長への報告に関する事項

6) 認証評価に関する事項

7) その他必要と認める事項

3. 事業計画

1) 機関別認証評価受審準備

日本高等教育評価機構による追評価を2025年度に受審し「適合」判定を受けるための取り組み作りを進め、実質的な運用（PDCAサイクル）を目指す。

2) 研修実施

FD委員会、自己点検評価委員会と協力のもと、昨年度に続き研修を計画し、内部質保証の浸透を図る。

3) 内部質保証の状況、自己点検・評価結果の公表大学の進める内部質保証の状況及び自己

点検・評価結果等を含む教育研究活動等の状況を公表し、法律上に明記される情報公開の義務を果たす

4. 評価と課題

2024年度は機関別認証評価追受審準備を主な取り組みとして活動を行った。

7月に日本高等教育評価機構へ、2021年度の評価報告書で「満たしている」基準項目の「改善を要する点」に対する改善報告書を提出した。（基準 4-1 5-1 5-2 5-3 5-4）その結果、基準 5-1、5-4 については、追評価対象である基準 3-3：教育成果の点検評価および基準 6-3：内部質保証の機能性の自己点検評価書の提出とともに再度提出することになった。基準 4-1, 5-2, 5-3 についても、追評価の基準 3-3、6-3 との関連が高いことから、追評価自己点検評価書とともに提出する予定である。

7月には、2025年に追評価受審の申請を行い、8月に受理された。

2025年に追評価受審に向けて、「追認証ワーキンググループ」を10月に立ち上げ、廣瀬幸美ワーキング長のもと、追認証ワーキングスケジュールに沿って、規程・ポリシーの整備、修正作業を行った。

追評価受審ワーキングチーム

ワーキング長：廣瀬幸美

メンバー：今野玲子、北田ひろ代、篠原清夫、杉正純、平澤久美子、平野美理香

山口伊作

12月4日に日本高等教育評価機構説明会がオンラインで開催され、本学から追評価受審ワーキングメンバー（学長含む）が参加した。機構側から、「追評価受審の手引き：令

和 7 年度追評価受審大学用」に沿って、受審の流れ、評価書等の作成・提出等について一通りの説明がなされ、その後に、事前に評価機構に送った「三育学院大学追評価書(暫定版)2024. 12. 03」についてコメントを頂き、本学からの質問に回答を頂くことができた。追評価書(暫定版)の記述内容について、より詳細な記述が求められる箇所やエビデンスの出し方など、受審に向けて非常に参考になる意見を頂くことができた。機構からは報告書の提出は義務付けられなかったが、自主的に提出したことで、追認証においてより精度の高い報告書を作成できるアドバイスを受けることができた。

2023 年度に作成されたアセスメントチェックリストの内容について、結果の活用の欄が現実的な内容になっているかの確認、その他の項目においても適切な内容になっているかの確認を内部質保証委員会で検討し、一部修正した。8 月と 12 月の FD 研修会で教員へ周知を行った。

2024 年度は、授業可視化システムのアセスメンターの運用をスタートすることができ、FD 研修にて、システムの運用の説明と領域別で授業評価を行い、それぞれの評価と改善案を作成することができた。

次年度もアセスメントチェックリストに沿って学修評価方針 3P に基づく項目の評価と改善策について各担当からの報告を受け、内部質保証委員会が中心となり、自己点検評価報告のエビデンスとして残せる 体制作りに注力していくことが重要である。

2023 年度版自己点検評価報告書については、自己点検評価サイクルの実態として、報告書に反映されるよう、各基準担当者がチェックリスト責任者と確認の上、作成する作成

作業を行った。今後大学ホームページへ新しく公表する予定である。

開催日	議題
第1回 4月23日	<ol style="list-style-type: none"> 2024年度委員会活動方針（案）について 学修成果可視化システム運用準備について 中期計画について
第2回 5月28日	<ol style="list-style-type: none"> 今年度前期の取り組みについて FD研修会について 改善報告書の提出について
第3回 6月18日	<ol style="list-style-type: none"> FD研修会について 改善報告書の作成について 2023年度自己点検評価報告書の作成について セミナー情報について
第4回 7月23日	<ol style="list-style-type: none"> 可視化システム導入の進捗状況と今後の計画について 改善報告書の確認について 自己点検評価報告書の確認について
第5回 9月17日	<ol style="list-style-type: none"> 可視化システム導入の進捗状況について 全学研修振り返りと今後の計画について
第6回 10月29日	<ol style="list-style-type: none"> 組織体制強化について 追評価受審ワーキングについて アセスメントチェックリストの結果の活用についての確認 施行規則の一部を改正する省令の公布を受けての対応
第7回 11月19日	<ol style="list-style-type: none"> 改善報告書基準の作成・提出についての進捗状況について 規程確認およびワーキング全体の進捗状況について 規程の確認・組織図の見直し・確認事項の報告 第4回FD研修についての報告 中期事業計画について
第8回 12月17日	<ol style="list-style-type: none"> 12月4日日本高等教育評価機構説明会について 今後のワーキングスケジュールの進め方について 中期計画について 2024年度第4回FD研修プログラムについて
第9回 1月28日	<ol style="list-style-type: none"> 第5回FD研修内容について 追評価受審ワーキング進捗状況と今後の進め方について 第3次中期計画について 大学経営会議より内部質保証に関わる内容について
第10回 2月20日	<ol style="list-style-type: none"> 三育学院大学内部質保証委員会規程について 2024年度内部質保証委員会年報（案）について 2025年度内部質保証委員会活動方針（案）について 追評価受審ワーキング進捗状況
第11回 3月18日	<ol style="list-style-type: none"> 追評価自己点検評価書「基準3-3、基準6-3」について 三育学院大学内部質保証委員会規程について 追評価受審ワーキング進捗状況

教育活動

教養教育・専門基礎領域

教 授 篠原 清夫
教 授 山本 理
講 師 新妻 規恵
講 師 サムエル・コランテン

カリキュラム・ポリシーに基づき、本学のカリキュラム内容は【教養教育科目】【専門基礎科目】【専門教育科目】の3区分から構成されている。その中で教養教育・専門基礎領域は、学士としての基礎的な素養を身につけるための【教養教育科目】《アドベンチストの信仰と生活》《人間の理解》《文化・社会の理解》《情報科学》《基礎科学》《語学の修得》の6科目群、【専門基礎教育科目】《人間と健康》《健康と環境》の2科目群の教育を担当している。

《情報科学》の<基礎学習セミナー>(1年生)は、一斉授業6回およびゼミ形式9回の全15回で構成されている。ゼミの学修内容を統一するため、プログラムを科目責任者の新妻が作成し、教養教育・専門基礎領域を含む9名の教員が指導を担当した。今年度は新任教員3名がベテラン教員のゼミに加わり、指導方法を学びながら指導に参加した。全体は6グループに分かれて進められた。1年生にとってゼミ形式のグループ学習は初めての経験であり、アクティブラーニングの一環としてLTD (Learning through Discussion) を導入した。このディスカッション形式の学びを通じて、大学での予習・復習を重視した勉強方法を身につける機会となった。3回のレポート作成やゼミでの振る舞い方についてはルーブリック表が効果的に活用された。また本科目で学んだ内容は本科目内容と並行して実施される学修センターのプログラムや実習におけるカンファレンス、他課目で課されるレポート課題の作成に活かすことができた。

篠原は【教養教育科目】の中の《文化・社会の理

解》の<社会学>(1年生)、《情報科学》の<情報科学>(1年生)、<統計学>(1年生)を、【専門基礎教育科目】の中の《人間と環境》の<保健統計演習>(2年生)、《健康と環境》の<保健医療社会学>(3年生)を担当した。1年生の必修科目<情報科学>は、情報科学理論とPC操作演習を実施した。PC演習では今後の学習に必要なWord・Excel・PowerPointの使用方法、医学中央雑誌Webでの論文検索方法の基礎を学んでもらった。2年生の選択科目<保健統計演習>は、1年生の必修科目<統計学>の発展としてExcelを用いての分析方法の実際を行い、個別対応による効果的な授業を実施できた。東京校舎での3年生の必修科目<保健医療社会学>は2キャンパス体制の関係上、昨年度はZoomによるオンライン授業が多かったが、今年度は東京校舎での対面授業を中心に実施することができた。

山本は【教養教育科目】の中の《自然の理解》の<生物学>(1年生)を、《情報科学》の<基礎学習セミナー>(1年生)を、【専門基礎教育科目】の中の《人間と健康》の<人体の形態と機能 I>(1年生)、<人体の形態と機能 II>(1年生)、<生化学>(1年生)、<微生物学>(1年生)を担当した。<人体の形態と機能 I>と<人体の形態と機能 II>では、Google Classroom上で全員が同一紙面に書き込む形式の課題を各章ごとに実施した。各自の入力履歴が残ることから、自分の書き込みと他者のものを比較し、自分の書き込みとの違いを認識することができる良い振り返りの機会にもなった。<人体の形態と機能 I>では、グループ毎に人体骨

格標本の紙模型を制作する活動を行った。各パートに記名し、一つ一つ組み立てる過程で、人体骨格の緻密さや複雑さ、繋がりの学びを深めると同時に、細かいパートを助け合って組み上げることにより、手先の器用さと協調作業の練習にもなった。〈人体の形態と機能Ⅱ〉では、グループ毎に振り当てられた教科書単元の復習教材を制作する活動を行った。それぞれ趣向を凝らし、要点のまとめ、対応する国家試験過去問題の解説、復習問題などの教材を作成した。また、作成した教材の活用方法についての発表を行い、各自の復習に役立てた。〈生化学〉では、各章ごとにマインドマップ形式のまとめを提出し、振り返りの機会を設けた。また、提出されたマインドマップを Google Classroom 上で匿名にて相互評価する活動も実施した。自分と異なる表現や視点を知る良い機会になり、同級生による評価は励みになった。〈微生物学〉では、毎授業後に大福帳を提出した。質問と感想を自由記述の形式で実施した。集まった質問は、次回授業開始時に解答され、復習の機会と同時に関連するトピックへの広がりを知る機会にもなった。また、家族に対する予防接種の接種アンケートを実施するグループ課題を行った。匿名で実施された接種アンケートにより、現実的な予防接種の接種状況を知ると同時に、公衆衛生に関する働きや、身近な人に予防についての啓発活動をする難しさと大切さを学ぶことができた。

新妻は【教養教育科目】の中の《情報科学》の〈基礎学習セミナー〉(1年生)を、《語学の修得》の〈英語Ⅰ〉(1年生)、〈英語Ⅱ〉(2年生)を担当した。英語は高校までの習熟度に個人差が大きいため、理解度チェックとして授業冒頭と最後にクイズを実施し、スマールステップで学べるよう工夫した。また、ペアやグループでの活動を増やし、学び合いを通じて理解を深め、安心感を高める取り組みは好評だった。授業後にはミニッツペーパーを活用し、学生のリフレクションと教員の授業改善に役立てた。初回と最終回には英語力診断テス

トを行い、成長を実感できる機会を提供した。〈英語Ⅱ〉では国際看護の自作テキストを使用し、看護の知識と関連づけながら英文読解力を養った。各 Lesson で発表グループを設定し、英語Ⅰのリーディング・スキルを活用した英語発表を実施。事前にスライドを教員がチェックし、個々に適したアドバイスを行った。最後の3回は LTD (Learning through Discussion) 形式で進め、多くの学生が予習を徹底していた。そのため学び合いの充実度・満足度が高く、英文読解や大学での学び方への習熟が見られた。

コランテンは【教養教育科目】の中の《語学の修得》の〈英会話Ⅰ〉(1年生)、〈英会話Ⅱ〉(1年生)を担当した。〈英会話Ⅰ〉および〈英会話Ⅱ〉では、昨年と同様に LMS プログラム (Google Classroom) を用いることにより、学生は個別に適時おのの学修課題に取り組むことができた。また学生同士の協同学習では、少人数での英会話のやりとりが学生の気恥ずかしさを低減させ、より多くの学生が積極的に授業内活動に関与する傾向が見られ、学習を強化するのに役立った。さらに、英会話学習により多くの手助けが必要な学生のために、木曜日放課後に特別クラスを設け、学生の学力向上のためのサポートをした。

上記科目以外に篠原、山本、新妻は【専門教育科目】《看護の発展科目》の〈卒業研究〉を担当し、計6名の卒業論文指導を行った。また新妻は〈国際看護実習Ⅰ(欧米の看護体験)〉を担当し、主にアメリカ渡航前の指導を行った。対象は2年生と、コロナ禍で参加できなかった4年生であった。参加学生の多くが大多喜キャンパスに在住のため、提出物の対応や連絡を主に担当した。

教養教育・専門基礎領域は広範囲な学問領域のため、専門学校三育学院カレッジ神学科や系列病院の専門領域の非常勤講師が一部科目を担当した。非常勤講師による科目は、【教養教育科目】では《アドベンチストの信仰と生活》の1年生4科目(必修2科目)、2年生1科目、3年生1科目、《人間の理

解》の1年生5科目(必修1科目)、2年生1科目、《文化・社会の理解》の1年生3科目、2年生2科目、《情報科学》の1年生1科目(必修)、《基礎科学》の1年生1科目、2年生1科目、《語学の修得》の2年生1科目であった。【専門基礎教育科目】では《人間と健康》1年生2科目(必修)、2年生3科目(必修)、《環境と健康》1年生2科目(必修1科目)であった。上記科目の非常勤講師は系列校・系列病院の教員が多数を占めるため、本学の理念を理解している。また昨年度に続き【教養教育科目】【専門基礎教育科目】を専任教員で担当する科目が増加しており、本学のカリキュラム・ポリシーに適した教育環境が整えられている。

基礎看護学領域

教授 後藤佳子
准教授 山口道子
講師 遠田きよみ
玉那霸文美
助手 石井慶子

看護学領域では、アドベンチストのキリスト教教育を土台に、看護の対象を神に愛され人として個別性を持つ存在として尊重できる看護のあり方を考え、それを見護技術を通して実践していくことのできる基礎的な力を身に着けることを目指し、基礎看護学領域の各科目群を通して教育指導を展開している。また、3年次からの配置となるスピリチュアルケアおよびその実習は、全ての領域の基盤となる本学の特徴的な科目であり、基礎看護学領域として重要な位置づけである。

以下、学年ごとにまとめる。

(1年生)

＜看護学概論(1年次)＞は後藤が担当した。この科目では、看護を考える上で基盤となる人間、健康、環境、看護といった概念のほか、人間の尊厳や看護の役割、看護理論といった看護を考えていく上で重要なことがらを取り上げた。特に本学の特色であるスピリチュアルケアの教育の土台となる部分をこの科目で取り上げた。＜看護技術の基礎(1年次)＞は後藤および遠田、石井が担当した。この科目では看護の実践に向けた基盤づくりをした。看護技術の根拠や感染予防といったどの領域の看護でも不可欠な技術を取り上げた。

＜生活行動援助論 I(1年次)＞は、遠田と石井、安ヶ平(非常勤講師)が担当した。この科目は環境調整、活動の援助、睡眠・休息の援助といった看護の基本となる知識と技術を取り上げた。また、各单元の技術演習前にデモンストレーションを行い、

次回演習までに技術練習を行ってもらいチェックを行った。実技演習は、担当教員で協力しながら少人数で対応し、学生らが練習した技術を確認、積み上げていけるよう実技演習を組み立てた。

＜生活行動援助論 II(1年次)＞は、遠田、石井、安ヶ平(非常勤講師)が担当した。この科目は後期に、前期の生活行動援助論 I に引き続き、日常生活の援助技術を取り上げた。食事の援助、排泄の援助、清潔の援助といった日常生活の援助技術を取り上げた。学生が具体的にイメージし主体的な学びにつながるように動画教材も提示し活用するよう促した。今年度で3回目となるが、清潔の单元では、御宿町の協力を得て高齢者ボランティアに対し足浴を実施する演習を行った。この取り組みでは、学生以外の対象者へケアの実施することで、技術を修得するだけでなく、看護者としての態度の育成、看護へ意欲向上を得ることができた。また地域住民とのつながりを楽しむ機会となつた。

＜基礎看護学実習 I(1年次)＞は、病棟での同行実習を2日間行い、最後にまとめの報告会を実施した。看護の役割は何か、看護の対象の特徴は何かということを、実習を通して学んだ。指導は、後藤、石井、遠田、玉那霸、山口のほか、他領域の教員から協力を得た。

＜看護過程の基礎(1年次)＞は遠田と安ヶ平(非常勤講師)、石井が担当した。また、この科目では、1年次の学生の学修状況に合わせて疾病治療学や

検査等の知識をワークブックを用いて補い、事例が理解できるように、事前学習を設定した。ロイ適応看護論の枠組みを用いて2つの事例を展開した。また、講義とグループワークを交互に行うこととで、看護過程の段階ごとに理解しながらステップアップできるように注力した。看護問題を明確にする段階では、昨年度作成した記録用紙を引き続き用いて根拠に基づいた判断ができるように思考を工夫した。また、基礎看護学と成人看護学の担当教員と情報共有を行い、基礎看護学と成人看護学の記録（看護診断の確定）との連結を確認することができた。

＜三育の全人的看護と伝統(1年次)＞は後藤が担当した。この科目は、三育が掲げる全人的看護の土台となっているアドベンチストの思想や歴史的背景を取り上げた。

(2年生)

＜診療の援助技術論I(2年次)＞は、山口、後藤、石井、柏木（非常勤講師）が担当した。この科目では与薬の援助技術、検査や導尿の援助技術等の診療の援助技術を取り上げた。

ナーシングスキルを活用し、学生個人で映像の視聴やオンライン上のテストなども実施することができた。少人数グループでの実技演習を実施し、基礎的な手技を学んだ。

＜ヘルスアセスメント(2年次)＞は遠田と安ヶ平（非常勤講師）がオムニバス形式で授業を展開した。この科目はバイタルサインをはじめとする系統別アセスメントの力を身につけるために講義のあとオフィスアワーを設定し、次の演習までに練習を重ね、技術のチェックをおこない、タスクトレーニングによる技術の習得を行った。また、動画教材を活用し視覚的に繰り返し確認できるよう工夫した。臨床で実際に活用する技術となるよう各单元に状況設定事例を作り、必要とするフィジカルアセスメントを考える工夫をした。

＜診療の援助技術論II(2年次)＞は、山口、後藤、石井、柏木（非常勤講師）が担当した。この科目で

は呼吸の援助技術や侵襲的処置の看護、皮膚創傷処置の看護等の診療の援助技術を取り上げた。皮膚創傷処置の看護の单元では隣接の東京衛生アドベンチスト病院の皮膚・排泄ケア認定看護師により講義を持っていただき、より実践的な学びにつなげた。

＜基礎看護学実習II(2年次)＞は、2月に2週間の実習を行った。実習前のオリエンテーションをはじめ、いくつかの事例を設定したバイタルサインの測定技術テストを行い準備した。指導は、山口、後藤、遠田、石井のほかに、他領域の教員の協力を得た。

(3年生)

＜スピリチュアルケア(3年次)＞は、山口が担当した。スピリチュアル、スピリチュアルケアの関連用語の定義について国内外のスピリチュアルケア研究者から幅広く学習した。隣接の東京衛生アドベンチスト病院のチャップレンより聖書における死生学について、また米国の緩和ケア医である伊藤先生より終末期患者のスピリチュアルケアニアーズについて、各コマの講義を持っていただきより実践的な学びに繋げた。事例分析(小児、成人の症例)をグループに分かれて行い、スピリチュアルペインのある患者の事例をスピリチュアルペインの理論を用いた分析に取り組んだ。リフレクションペーパーの書き込みでは、これまで明確ではなかったスピリチュアルケアのことが少しずつ理解できるようになった、具体的にどのような痛みがスピリチュアルペインなのか、ということが理解できるようになった、などの感想が見られた。

＜スピリチュアルケア実習(3年次)＞は、山口が担当した。東京衛生アドベンチスト病院チャップレンより実習指導を受け、病む人の心に真に寄り添うこと、自己を知ることなどを通してスピリチュアルケアについて体験的に学んだ。

＜看護診断論(3年次)＞は、後藤が担当した。事例でNANDA-I・NOC・NICの学修をした後、各学生が基礎看護学実習IIで受け持った患者に

NANDA-I・NOC・NIC を展開した。

(4年生)

＜総合看護実習(4年次)＞は、緩和ケア病棟でのスピリチュアルケア実習を山口、石井が担当した。この実習では緩和ケア病棟においてスピリチュアルケアに特化した実習を行い、これまでの学びを生かし、患者のスピリチュアルペインのアセスメントやスピリチュアルケアの実践について、看護師、チャップレンから学んだ。また、看護技術をテーマとした実習を後藤が担当した。この実習では関心のある看護技術の研究をもとに実際の患者に適用していくながら患者に合った看護技術の学びを深めた。

＜卒業研究(4年次)＞は、遠田、山口、後藤で8名の学生を担当した。

小児看護学領域

教授 廣瀬幸美
特任准教授 松崎敦子
助教 清野星二

小児看護学領域では、子どもの成長・発達と社会的環境、健康障害・健康問題をもつ子どもと家族の看護支援について教育を行っている。令和6年度は、子どもの特徴と生活と健康、子どもの健康と看護、健康問題をもつ子どもと看護、小児看護学実習、総合看護実習、卒業研究を、それぞれの教員が分担して行った。

子どもの特徴と生活と健康では、子どもの成長・発達と家族の特徴、医療・看護・福祉の現状と社会的環境の変化、そして子どもと家族への看護の役割に関する講義を行った。

子どもの健康と看護では、病気・障害を持つ子どもと家族の特徴、子どもにおける疾病的経過・症状・必要な看護、子どものアセスメントに必要な知識、子どもの基本的生活習慣の支援方法について講義を行った。

健康問題をもつ子どもと看護では、小児期の主な疾患・症状・診断・治療・看護、与薬・抑制・バイタルサインズ測定に関する知識、発達段階を踏まえた看護過程の展開について講義と演習を行った。

小児看護学実習では、子どもの成長発達に関しては私立桃井幼稚園、東京衛生病院病児保育室こひつじハウスで実習指導を行った。外来における看護は東京衛生アドベンチスト病院付属教会通りクリニックにて実習指導を行った。病気の子どもと家族の看護については東京衛生アドベンチスト

病院小児科病棟にて実習指導を行った。各実習場における子どもと家族との関わりや看護師からの助言・指導をグループメンバー間で共有し、各実習場での学びをまとめる機会を提供することで、小児看護に対する学生の理解が深まるよう実習環境を整えた。

総合看護実習では、東京衛生アドベンチスト病院小児科病棟、東京衛生アドベンチスト病院付属教会通りクリニック、杉並区立重症心身障害児通所施設わかば、重症心身障害児通所施設放課後等デイサービスミントで実習を行った。領域別看護学実習での学びを踏まえ、より専門性を深めた健康に障害をもつ子どもと家族への看護を学ぶことができるよう実習環境を整えた。

廣瀬は、「健康問題をもつ子どもと看護」で2回、清野とともに担当し、技術演習と看護過程を展開した。「小児看護学実習」では、主に幼稚園、病児保育室、外来、病棟実習を清野と協力して学生指導にあたった。「総合看護実習」では、小児科病棟実習2名と子どもの保健医療福祉に関する実習3名の学生指導を清野と協力して行った。卒業研究では、2名の学生指導を近藤（勇）とともに担当した。また、看護の発展科目「看護研究の基礎」の担当責任として授業計画を立案し、11回／15回を担当した。

松崎は「子どもの特徴と生活と健康」、「子どもの健康と看護」、「健康問題をもつ子どもと看護」において中心となり授業計画を立案し授業を行っ

た。卒業研究においては 1 名の学生の指導を担当した。また、教養教育科目の「発達心理学」の責任教員として全 8 回を担当した。

清野は、「子どもの特徴と生活と健康」の授業を 2 回、「子どもの健康と看護」の演習を松崎とともに 1 回、健康問題をもつ子どもと看護の授業を 5 回・演習と看護過程の展開を廣瀬とともに 2 回担当した。「小児看護学実習」では、主に幼稚園、病児保育室、外来、病棟実習を廣瀬とともに担当し、実習の計画・調整・実施・評価において中心的役割を果たした。「総合看護実習」では、小児科病棟実習 2 名と子どもの保健医療福祉に関する実習 3 名の学生指導を廣瀬と協力して行った。卒業研究においては 2 名の学生指導を担当した。また、教養教育科目の「基礎学習セミナー」演習を担当した。

女性看護学領域

教授 廣瀬幸美
准教授 北田ひろ代
助教 近藤勇美

女性看護学領域では、女性を中心とした看護 (Women centered care) を学ぶとともに、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念に基づき、女性のライフサイクルに応じて、ウェルネスの視点からよりよい健康状態を目指すための支援を学ぶことを目的としている。

【2年生】<女性の特徴と生活と健康>は、北田が担当した。リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念や動向、女性を中心としたケアのあり方と女性看護学における倫理、女性のライフステージ各期の特徴と看護について講義を行った。女性を取りまく社会環境については、わが国の母子保健施策の変遷とともに、諸外国の動向についても講義を行い、内外のデータからわが国の周産期医療の特徴を学ぶ機会とした。

<リプロダクティブ・ヘルスと看護>は、北田が担当した。正常な経過をたどる妊産褥婦や新生児の特徴と、母子とその家族に必要な看護を中心に講義を行った。また、わが国の少子高齢社会における母子の健康課題とその支援に関するレポートでは、母子保健施策に関する文献検索を行い、様々なニーズを持つ母子と家族の健康について考察する機会とした。災害時における母子支援や外国人妊産婦への看護について、事例を用いて講義を行い、社会の変化によって法律や施策の内容が改定されることや、それらが女性や母子に影響を及ぼすことを講義し、看護のあり方を考える機会とした。

【3年生】<女性の健康問題と看護>は、北田

が担当した。2年次の学修内容を踏まえ、出生前診断や不妊治療と倫理、周産期における正常経過からの逸脱と、その予防のための看護について講義を行った。看護過程の学修では、ウェルネスに関する講義とグループワークを行った。実技演習では、子宮底の計測、レオポルド触診法と胎児心音聴取、産褥期の進行性変化と退行性変化の観察、妊婦体験、新生児のバイタルサイン測定と観察、沐浴を北田と近藤で行った。

<母性看護学実習>では、東京衛生アドベンチスト病院で実習を行った。事前課題として母性看護に必要な知識についてノートにまとめる課題を課した。実習中の課題としてナーシングスキル映像の視聴やテストを実施した。1週目の産科外来では妊娠後期の妊婦健診、保健指導の見学、NST実施を通して妊婦の健康の保持・増進に必要な看護を学ぶ機会とした。分娩室では分娩期の産婦を受け持ち、生理的範囲を逸脱しないために必要な分娩期の看護や命の尊厳を考える機会とした。2週目は新生児室、産科病棟で母子の受け持ち実習を行い、周産期における母子の健康の保持・増進、発達課題の達成を促す支援を考察し実践できるよう実習環境を整えた。また、カンファレンスでは母子相互作用、母子愛着形成、母親役割過程といった母性看護学の特徴や、退院後のサポートや社会資源について学ぶ機会とした。

【4年生】<総合看護実習>では、子ども家庭センター、助産院、東京衛生アドベンチスト病院の産科病棟、新生児室、分娩室、母乳外来で実習を行った。子ども家庭センター、助産院の実習では退院

後の母子を取り巻く環境や母子保健活動を理解できるよう実習環境を整えた。病院では複数の母子の受け持ち実習を行い、さらに専門性を深めた看護を学ぶ機会とした。

＜卒業研究＞では、各学生が興味・関心のあるテーマを選び出し、テーマに沿って指導した。廣瀬が4名の学生指導を担当し、北田が3名の学生指導を担当した。

成人・老年看護学領域

教 授	平野美理香
特任教授	市川光代
准 教 授	今野玲子
講 師	近藤かおり
講 師	素村知佳
助 手	清水浩美
助 手	小林梨沙 (2025 年 2 月就職)

成人・老年看護学領域では、ディプロマポリシーの「科学的根拠に基づいて、全人的看護（ホリスティック・ナーシング）を実践する能力」を中心として、看護学の専門知識と看護の実践能力の育成を目指して、幅広い科目の講義・演習・実習を実施した。

「成人の特徴と生活と健康」（1 単位）は、成人各期の特徴と発達課題、成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策、および成人を看護する際の基本的アプローチを理解することを目的とし、今野と近藤が担当した。成人各期に特徴的な健康問題を概観し、「現代日本における成人期の健康問題とその対策」についてのレポート課題を通して、個々の学生が興味のある健康問題について調べて論述する機会をもった。

「高齢者の特徴と生活と健康」（1 単位）は、市川が担当した。初回、講義全般についてのオリエンテーションを行った後、「あなたが考える高齢者のイメージについて具体例を入れながら述べる」というテーマでレポートを課した。講義では、老いを生きるということ、超高齢社会と社会保障、老年看護における理論・概念の活用、高齢者のヘルスアセスメント、高齢者の生活機能を整える援助、治療を必要とする高齢者の看護、エンドオブライフケア、生活・療養の場における看護、高齢者のリスクマネジメントについて講義を行った。科目試験に合格するための勉強だけではなく、高齢

者の発達段階や疾患の病態生理を踏まえて看護実践できるように教授するにはどのような方法が良いのか検討が必要である。

「慢性期看護論」（2 単位）は、慢性疾患をもちらながら生きる人のニーズを考え、その人らしい生活を支える看護を学ぶ講義と看護過程の事例展開を含む演習科目である。今野が慢性期看護概論と循環器・内分泌・代謝系の障がいがある対象者の看護、近藤が、消化器、腎臓、身体防御機能の障がいがある対象の看護、市川が脳・神経、呼吸器疾患の看護の講義を担当した。本年度は、II型糖尿病の事例について看護過程を展開し、指導案と資料を作成し、学生同士で健康指導を実施する機会をもった。

「回復期リハビリテーション看護論」（1 単位）では、リハビリテーションに用いられる主要な概念、チームアプローチと看護の役割、生活の再構築へのアセスメントと援助、事例で学ぶリハビリテーション看護として、脳血管疾患患者を事例としたリハビリテーション看護とリハビリテーションチームにおける看護師の役割について、市川が講義を行った。また、クラス全員に中途失明者の疑似体験をしてもらい、視力障害者への支援方法を学ぶという目的で体験学修を行った。

「急性期・周手術期看護論」（2 単位）は、近藤が急性期看護概論、周手術期看護、救急看護、化学・放射線療法を受ける対象の看護、今野が疾患

により人体の機能（脳・神経、呼吸器、循環器、消化器）に急激な障がいを起こしている対象の看護を担当した。周手術期看護の単元は、週に 2 コマ講義を配置し、その後「看護展開演習I」と連携し、理解を深めた。

「看護展開演習I」（1 単位）では、周術期に焦点を当てた看護過程の展開と演習を今野と近藤が担当した。本年度は S 状結腸切除術を受ける患者事例の看護過程を展開し、演習としては①術後帰室時の全身状態の観察、②術後合併症の観察/初回離床の介助、③退院指導を実施した。加えて、CPR トレーニングマネキンを用いた BSL（一時救命処置）の演習を実施した。

「看護理論」（1 単位）は選択科目だが、本年度は 7 名が選択し、今野と近藤が担当した。前半は主に講義形式にて、看護理論についての総論と成人看護に有用な理論について講義した。後半は、2 名から 3 名ずつのグループに分かれ、興味のある看護理論について調べてまとめ、プレゼンテーションを行い、看護理論の臨床事例への応用を含めて、討議・考察する機会を持った。

「看護展開演習II」（2 単位）は、領域別看護実習において必要な看護過程の展開とそれに関わる技術のスキルアップを、事例とシミュレーションを通して模擬体験し、看護実践能力を高める目的で実施された。本年度は、アテローム血栓性脳梗塞患者事例の看護展開を実施した。看護計画の立案と、状況設定を伴うシミュレーション演習を、患者役と看護師（看護学生）役、観察者に分かれて実施した。また、最終回は事例についての口頭試験および実技テストを、今野、近藤、市川、素村で実施し看護実践力の向上に努めた。

また、老年看護技術演習として高齢者疑似体験を通して、高齢者のイメージと必要となってくる看護についてグループで考え発表する機会をもつた。

「緩和ケア・終末期看護論」（1 単位）は、緩和ケア認定看護師の足立非常勤講師が担当した。本

学の基本理念であるキリスト教精神に基づき、終末期にある患者や家族に対して生きることを支える看護について教授した。

「慢性期看護実習」（2 単位）は、地域包括ケア病棟と、健診センターにて行い、素村が担当した。健診センターでは、測定や問診、診察、保健指導、特定保健指導の見学を行い、健診センターにおける看護師、保健師の役割を学んだ。病棟では、7 日間の受け持ち看護実習を行い、看護過程を展開した。学生が受け持った患者の対象特性として、後期高齢者で疾患によりセルフケア能力が著しく低下し、退院後の生活環境を整える必要があった。学生は、自立と援助のバランスを考えて看護介入し、多職種と連携して退院調整活動を行う看護師の役割について学んだ。また、医療ソーシャルワーカーによる講義を受け、退院支援における患者、家族とのかかわり方や各職種の役割について学びを深めた。

「急性期看護実習」（2 単位）は、外科病棟・手術室・外来の 3 か所で実習を行い、近藤と実習補助教員が担当した。外来における半日の見学実習では、限られた時間の中での患者への対応、他部門との連携や調整など様々な場面に触れ、外来における看護師の役割や患者・家族の意思決定を支える看護について考える機会となった。手術室実習（2 日間）では、既習の術中看護の役割、麻酔や手術侵襲による身体への影響について理解を深めることができた。外科病棟では、日々状態が変化する患者に対し、根拠に基づいて観察項目を上げアセスメントに繋げていく重要性を学んだ。また、患者の個別性と状況の理解に努め、術後の回復および社会復帰に向けての援助・指導を計画し、おおむね実施することができた。3~4 日という短い受け持ち期間の中で看護を展開することに困難を感じた学生もおり、事前準備の重要性をより周知し、事前課題を工夫していく必要がある。

「回復期看護実習」（2 単位）は、リハビリテーション病棟の他に、脳神経外科・脳血管内治療科

病棟、整形外科病棟で、運動障害、意識障害、高次脳機能障害を伴う患者の看護を学修した。実習 1 週目には、ICF（国際生活機能分類）を用いて看護過程の展開と全体像の把握を行い、対象者の全人的な理解を深め、個別性に即した看護計画を立案した。2 週目には立案した看護計画の実践と修正・評価を行い、退院後の生活を見据えた看護援助を実施した。また、回復期看護で必要な多職種連携として、医師、薬剤師、リハビリテーション科スタッフ（PT、OT、ST）、管理栄養士、ソーシャルワーカー、介護福祉士との連携を行い、退院後の生活拠点を考慮した対象者に必要な支援方法、福祉・社会資源などの情報提供についての学びを深めた。実習は清水が担当した。

「緩和ケア・終末期看護実習」（2 単位）では、緩和ケア病棟にて終末期にある患者を受け持ち、患者と家族の全人的痛みを知り、限られた時間によりよく生きられるよう支援するためのケアを学修した。病棟での関りを通して終末期にある患者・家族の理解を深め、その人らしさを支える看護に一部関わり、看護師に同行する中で、丁寧なケアや声掛け、尊厳を守る姿勢など、看護の原点を再確認する機会となった。病棟の実習指導者の協力のもとに今野が担当した。

「老人福祉施設実習」（1 単位）では、特別養護老人ホームで生活している高齢者と自宅からデイサービス（通所介護）に参加している高齢者との関りを通して、施設で生活する高齢者と通所介護を利用する高齢者ケアのあり方を学修した。また、指導者のもとで学生にできるケアを実施した。医師の回診にも参加し、利用者の移動介助と診療補助業務（学生 1 人につき利用者 4~5 名）を担当した。また、施設内で行われている利用者と家族を含めた専門職会議に参加し、多職種連携のあり方とその中の看護師の役割について学修した。市川が担当した。

「総合看護実習」（2 単位）では、学生の希望領域を調査し、選択した領域で実習する機会を持つ

ている。緩和ケアの学生 3 名を今野が、回復期リハビリテーションの学生 6 名を市川と清水が、亜急性期/慢性期の学生 4 名を近藤と素村が担当した。また、平野が看護管理の学生 1 名を担当した。計 14 名の学生が本領域教員による 4 年次のまとめとなる実習に臨んだが、一部主体性や実習生としての社会性に課題が残る学生も存在したため、今後、指導を検討し改善に努める。

「卒業研究 I」（2 単位）では、学生に領域やテーマの希望を取り、平野が 1 名、市川が 3 名、今野と清水が 3 名、近藤 2 名、素村 2 名の合計 11 名の学生に対して、各自が興味を持ったテーマについての研究計画書立案を指導した。

上記科目以外に、近藤は「国際看護実習 I（欧米の看護体験）」（2 単位）を担当し、米国テネシー州にある本学の系列大学へ学生を引率した。約 2 週間のプログラムでは、キャンパス内での英語や看護のクラス・演習のほか、医療・福祉施設見学を行った。これらを通して、地域住民の健康課題や保健医療福祉の状況を知り、健康との関連を考察する機会となった。また、実習期間中は大学関係者宅にホームステイし、異文化の理解や人々との交流を深めることができた。

今野は国内で開講された「国際看護実習 II（アジアの看護体験）」（2 単位）に参加する機会を得た。学生は石川県珠洲市に支援拠点を置く NGO 団体の活動に参加した。学生は NGO スタッフと共に避難所の環境改善活動、被災者への家電の配布、訪問看護師に同行し仮設住宅/家庭を訪問し健康状態や住環境の確認、困りごとの調査の実際から災害復興時の健康問題や課題について学修する機会をもった。また、仮設住宅婦人会の活動や地域の納涼会への参加を通して、コミュニティを支える支援の実際を学ぶ機会を得た。学生の実習への取り組み姿勢や生活態度について訪問看護師や指導者から指摘があった。今後学内オリエンテーションの充実を図り参加準備を整えていきたい。

精神看護学領域

准教授 松本浩幸

「こころと健康」、「こころの健康増進と看護」、「こころを病む人と看護」、「卒業研究」のすべてについて松本が担当した。精神看護学実習については、主に実習指導教員の須藤が担当し、松本は須藤のサポートを行った。精神看護学領域では、精神的健康の回復、維持増進について理解し、精神の健康問題を抱えて入院している患者および地域で生活をしている人やその家族に対し、その人らしく生きることを支える為の諸制度や諸理論、ならびに具体的な看護実践方法について教育を行っている。

「こころと健康」においては、看護学部 2 年生に向けて対面で、精神保健の概念、自己洞察と自己活用、ひきこもり、家庭における危機、医療現場、災害現場の精神保健についての授業を行った。

「こころの健康増進と看護」においては、一部 ZOOM で、看護学部 2 年生に向けて精神保健の概念、自己洞察と自己活用、ひきこもり、家庭における危機、医療現場、災害現場の精神保健についての授業を行った。 「こころを病む人と看護」においては、一部 ZOOM で看護学部 3 年生に対して、精神の健康問題を抱えて入院している患者および地域で生活をしている人や家族に対し、その人らしく生きることを支える為の諸制度と諸理論、ならびに具体的な看護実践方法についての授業を展開し、ペーパーペーチェントを用いて個別に添削して、看護過程の展開の指導を行った。 「卒業研究 I」においては、看護学部 4 年生 2 名に対して、文献検討を通して精神看護に関する研究計画書作成までの指導を行った。 その他、精神看護学の国家試験対策、保健師課程の「対象別支援技術論」の精神障害者支援に関する授業を行った。

2023 年度領域精神看護学実習は、松本と実習指導教員の須藤りつが担当した。 2023 年 10 月から 2024 年 2 月まで全 7 グループが、前年度までのようないく感染の影響は無く、6 日間（祝日の場合は 5 日間）の病棟実習、1 日のデイケアで

の地域看護学実習と学内実習を行うことができた。

デイケア実習では、就労移行支援・定着支援の就労班プログラムとスポーツ、WRAP 等生活班のプログラムに参加することができ、カンファレンスを行い、グループ内で違いや内容を共有することができていた。また、慈雲堂の組織には、病院をはじめ、デイケア室、グループホーム、訪問看護ステーションがあることを、看護部からオリエンテーション時に説明を受けていたため、精神に障害をもつ人々を包括的に知ることができた。

そして、入院中の患者と地域で生活している精神に障害をもつ者の両方との関わりを持ち、より理解を深めることができていた。特に、病棟実習では、コロナ禍の時のような受け持ち患者との関わりや実習日数に制限はなく、6 日間の実習で、考え、悩みながら、患者と良い関係性を（信頼関係を）築くまでのプロセスを体験することができた。指導においては、学生が、幻覚、妄想等の精神症状や自閉等の陰性症状、情緒症状がある患者とコミュニケーションをとることが最初はたいへん難しいため、学生がいつでも報告相談ができるように、また、患者との関わりに戸惑っている学生には、教員が同伴するように心掛けた。そして、毎日、1 日のまとめとして、指導看護師を含めカンファレンスを行ない、次の実習に繋げることができていた。

学生からの欠席等の連絡、インシデント対応時等、非常勤の須藤では対応ができないときは、松本が対応をすることで、2024 年度の精神看護学実習を、無事終了することができた。

大学院地域看護学領域の地域看護学特論では、地域精神保健活動の講義と演習を、実践看護学演習 I、特別研究 I では学生の研究支援を行った。

地域看護学・公衆衛生看護学領域

教 授	浦橋久美子
教 授	鈴木 美和
助 教	手塚 早苗
助 教	朝見 優子

地域看護学・公衆衛生看護学領域は、看護師基礎教育としての地域看護学、保健師基礎教育としての公衆衛生看護学の教育を展開している。

2024 年度は、COVID-19 が 5 類感染症対応へと移行（2023 年 5 月 8 日）して 1 年が経過し、学生および教職員が、自立的な感染対策を進めてきた。

その結果、年間を通して、対面による講義・演習・実習を実施できた。

＜地域看護学概論＞は 1 年次の前期に開講し、看護をおこなう上での地域、生活者としての対象や健康のとらえ方について浦橋が講義を担当した。健康づくりをプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの視点から教授した。病院で行われているヘルスプロモーション事例を取り上げ、看護職にとって身近であることを意識する工夫をした。病院以外で活動する看護職とその役割について視聴覚教材を活用しイメージ化を図った。地域看護活動のコアスキルである家庭訪問の演習を取り入れ、浦橋・手塚・非常勤講師が担当した。

＜地域看護学実習＞は 1 年次の前期、地域看護学概論終了後に実施した。生活の視点で看護をとらえることの重要性から、基礎看護学領域の教員である遠田・石井を加え、浦橋・手塚・非常勤講師が担当した。学生が訪問する 2 町の特徴と地域看護の概略について、公衆衛生看護実習 I を担当している浦橋・手塚が講義をした。その後、高齢者が生活している場に学生 3 名 1 組で出向き、日常生活の状況・価値観、健康状態などについてインタビューや観察を行い、地域の特徴・資源と健康の関連、生活と健康の関連を考察した。学内の報告

会後、訪問した高齢者や町職員に公民館あるいは本学に招き報告会を行い、高齢者から生活の振り返りができたなどの感想をいただいた。

＜地域交流実習＞は選択科目として 1 年次後期に行われ 12 名が履修した。人としての尊厳を尊重する姿勢を培うための実習を浦橋・手塚が担当した。学生は 3 名 1 組になり高齢者を訪問した。大事にしてきたことや取り組んできたことなどを自由に語っていただく中で、寄り添うこの難しさ、沈黙の意味などを理解した。語りは聞き書き手法で進め、1 冊の冊子にし、配布した。聞き書き手法について昨年度は聞き書きの第一人者を講師に招いたが、今年度はそれを参考にし、手塚が担当した。また、対象が生きてきた昭和の社会情勢と生活状況について非常勤講師が講義をした。高齢者にとって冊子は生きてきた証、思い出のアルバムとなり、大変喜んでもらい、学生の達成感も高かった。

＜健康教育論 I＞は 1 年次後期に開講し、保健行動を促すための理論について浦橋が担当した。そして健康教育の実際として企画書・指導案作成、教材づくりに必要な技術について非常勤講師が担当し、次年度の健康教育論 II へつなげた。

＜健康教育論 II＞は 2 年次前期に開講し、健康相談の対象を生活者として捉えるための問診、対象の生活に合った教材作成の演習を、浦橋・手塚・非常勤講師が担当した。演習では、大学周辺の市町に居住している高齢者にボランティアとして患者役を担当していただき、生活把握のための問診を学生 3 名 1 組で行った。その問診から対象にあつた教材作成のための企画書、教材作成を学生個人

で取り組んだ。

＜家族看護学＞では、家族をシステムとしてとらえた家族発達理論、家族ストレス対処理論、家族アセスメントモデル・家族支援モデルを中心に鈴木が講義を担当した。使用テキストを変更し、内容を刷新した。その結果、試験対策が不足したためか、再試験受験者が増加した。講義内容の要点を押さえながら学生が受講できるよう工夫する必要がある。

＜在宅看護論 I＞では、訪問看護を中心とした在宅看護のあり方、在宅療養者を支える資源、地域包括ケアシステム、住環境のあり方等について講義を行った。また、今年度も現役の訪問看護ステーション所長に、訪問看護活動の実際の講義を依頼した。さらに、小児の訪問看護の講義内容を充実させ、医療的ケア児への支援内容を取り入れた。

＜在宅看護論 II＞では、＜在宅看護論 I＞の知識を基に、在宅療養者の問題や課題を解決するための看護過程の展開を鈴木・朝見で担当した。演習事例を理解し、情報整理からアセスメント、課題の明確化、目標および具体策の検討をグループワークにより実施した。また、在宅療養者支援の視聴覚教材の視聴、経管栄養法の演習、文字盤を用いたコミュニケーションの演習を実施した。しかし、演習内容が実習に生かされていない状況もあり、事例を用いた看護過程の展開演習の工夫と用いる事例の変更を検討する必要がある。

＜在宅看護論実習＞は、履修学生 29 名の実習指導を鈴木・朝見が担当した。東京校舎近郊の訪問看護ステーション 4 施設、立川市にある訪問看護ステーション 1 施設、国立市にある訪問看護ステーション 1 施設の協力を得て実施した。前年度と比較すると、履修学生は 10 名減となった。実習施設に 1 人で出向く学生も生じ、グループダイナミクスを活用した効果的な学習になり難い状況が生じており、今後もこのような状況が継続することが予測される。そのため、少人数実習における効果的な指導について検討していく必要がある。

公衆衛生看護学領域は、保健師課程に在籍している 3 年生 9 名、4 年生 10 名を対象に授業を開講した。公衆衛生看護とは何かを常に問う、保健師としてのアイデンティティを培うための教育とともに公衆衛生看護学に必要な理論と実践について系統的に教育を開講した。

＜公衆衛生看護学原論＞は 3 年生前期に開講した。保健師活動の本質の探究を森永ひ素ミルク事件に関する先人の保健活動を例に講義・演習を浦橋が担当した。現場の保健師そしてともに健康づくりをしている住民をゲストスピーカーとして招き、東京校舎と大多喜キャンパスを zoom でつなぎ、授業を行った。それぞれの立場からヘルスプロモーションの実際、連携する意義、活動の魅力を語っていただいた。

＜公衆衛生看護活動展開論 I＞では、保健師活動の基盤となる地域診断の理論および活動計画のプロセス、評価について非常勤講師が担当した。地域アセスメントの実際として東京校舎周辺の地区視診・踏査を実施し、イメージづくりをした。

＜公衆衛生看護活動展開論 II＞では、公衆衛生看護学実習 I で担当する市町を受け持ち地域として、地域診断に学生個人で取り組んだ。受け持ち地域の地区視診・踏査を実施し、既存資料と関連させながら地域診断の一連のプロセスの演習を浦橋・手塚が担当した。

＜対象別支援技術論＞では、様々なライフステージにある人々とその家族、健康障がいをもつ人への支援について鈴木・松本（精神看護学領域の准教授）が担当した。本科目は、前学期 30 回であり、講義と演習を組合せながら、地域の健康課題を解決するための具体的方法をグループワークにより検討した。

＜地域ケアシステム論＞では、地域ケアシステムの構築およびコーディネーターとしての保健師の役割について浦橋が講義を担当した。事例をもとにケアシステムの構築の演習を手塚が担当し、イメージ化を図った。

＜組織協働活動論＞では、保健師が組織活動を育成する一連のプロセスと保健師の役割について浦橋が講義を行った。事例をもとにそのプロセスと保健師の活動を確認する演習を行い、最後に保健師が組織活動をする意義についてディスカッションをし、深めた。

＜健康危機管理論＞では、災害時の保健師活動および感染症の集団発生時の保健所や市町村の役割、そこで行われる保健活動について非常勤講師が講義を担当した。

＜公衆衛生看護管理＞では、公衆衛生看護管理の基本について非常勤講師が担当した。公衆衛生看護学実習終了後の後期に開講される科目であり、公衆衛生看護管理の視点から実習を振り返り、深めた。

＜公衆衛生看護学実習Ⅰ＞は 3 市町の臨地で行い、浦橋・手塚が担当した。公衆衛生看護活動方法論Ⅱのまとめをもとに、さらに既存資料の確認や地区視診・踏査を行い、地域診断のプロセスを経験した。家庭訪問、健康教育の企画・指導案作成・および実施とともに各種保健事業に参加し、保健師の機能と役割について理解を深めた。

＜公衆衛生看護学実習Ⅱ＞は、学生が 2 グループに分かれて、千葉県内の保健所 1 か所で実施した。浦橋・手塚が担当した。保健所の機能や役割に関する講義を 1 日聴講した。その後、主に健康危機管理における保健所の活動の理解、難病療養者や結核患者の支援における保健所保健師の役割について事例を通して学んだ。

＜公衆衛生看護学実習Ⅲ＞では、学生は 1 企業の研究所、2 か所の工場に分かれて実習を行った。その職場の特性に合わせた健康管理や職場巡回、産業医との連携、産業保健チームの取り組みについて理解を深めた。

＜総合実習＞在宅看護論の総合実習は、鈴木・朝見が 4 名の学生を担当した。2 週間の実習内容として、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、ディサービス事業所、居宅介護支援事業所

における看護職者の活動を組み合わせてプログラムを作成した。学生は、訪問看護の実践への理解を深めるとともに、地域包括支援センターやディサービス等の関連事業への参加を通し、地域包括ケアシステムへの理解を深めた。

公衆衛生看護学の総合実習では 4 名の学生を、浦橋・手塚が担当した。2 町で実施し、公衆衛生看護学実習Ⅰから興味・関心を持った分野を選び、実習内容および計画を立案し、保健活動の実施・評価の PDCA サイクルに添って実習した。

また、2 名の学生はグループ作りのプロセスに取り組み、地域診断、企画、実施、評価の一連を経験した。このため実習を夏季休暇から実施した。この取組は、町スタッフの指導のもとグループ活動に発展した。

＜卒業研究Ⅰ＞は、在宅看護分野において鈴木・朝見が 2 名の学生、公衆衛生看護分野において、浦橋・手塚が 3 名の学生を担当した。それぞれのテーマに基づいた研究計画書の作成に取り組んだ。

＜卒業研究Ⅱ＞は選択科目として 4 年次後期に行われ、1 名が履修し、浦橋・手塚が担当した。卒業研究Ⅰで計画した文献研究を実施し、文献リサーチ・分析・考察の一連の過程を論文としてまとめた。

研究・ 社会活動

教養教育・専門基礎領域

1. 研究論文

- 1) 新妻規恵. (2025). 看護系大学の初年次教育で扱われる学修内容の実態調査：シラバスからの検討, 三育学院大学紀要, 17(1), 73-81.
- 2) 篠原清夫. (2025). 医療マンガ研究の動向：医療データベースより抽出された文献の分析, 三育学院大学紀要, 17(1), 83-91.

2. 学会発表

- 1) 藤平敦, 篠原清夫, 牛渡淳. (2024). 教員免許状取得希望学生への支援を目的とした追跡調査の中間報告(4). 日本教師教育学会第34回大会, 島根大学, 9月21日.
- 2) 篠原清夫. (2024). 医療マンガ作品における社会学的研究の検討. 第97回日本社会学会大会, 京都産業大学, 11月9日.
- 3) 篠原清夫. (2024). 保健医療マンガにおける職業的社会化分析の可能性：養護教諭・看護師の比較を通して. 第44回日本看護科学学会学術集会, 熊本城ホール, 12月8日.
- 4) サムエル・コランテン. (2025). Structures and Strategies for an Active Learning Classroom. English Teachers in Japan (ETJ) 2025 東京大会(Tokyo Expo), 大妻女子大学, 2月9日.

3. その他（書籍, 総説, 解説など）

なし

4. 社会活動（学外活動・賞など）

- 1) 篠原清夫. (2024). 亀田医療技術専門学校 助産学科 非常勤講師. 「家族社会学」.
- 2) 篠原清夫. (2024). 三育学院カレッジ 神学科 非常勤講師. 「社会学1」「社会学2」.
- 3) 山本理. (2024). 三育学院カレッジ 神学科 非常勤講師. 「生物学I」「生物学II」.

- 4) 新妻規恵. (2024). 三育学院カレッジ 神学科 非常勤講師. 「英文法I」「英文法II」.
- 5) サムエル・コランテン. (2024). 三育学院カレッジ 神学科 非常勤講師. 「神学書購読I」「神学書購読II」「英会話I」「英会話II」「英会話III」「英会話IV」「TOEFL」.
- 6) サムエル・コランテン. (2024). 三育学院大学附属光風台三育小学校 非常勤講師. 「英語I」「英語II」「英語III」「英語IV」「英語V」「英語VI」「個人研究I」「個人研究II」「個人研究III」.
- 7) 山本理. (2024). 千葉県立大多喜高等学校 出前授業講師. 「イヌ語、ネコ語、リス語？：動物の言語」, 5月30日.
- 8) サムエル・コランテン. (2024). 教会講話, True Education: Preparing for this life and the life to come, 浦和アドベンチスト教会, 11月24日.
- 9) 篠原清夫. (2024). 日本総合文化研究会 理事.
- 10) 篠原清夫. (2024). 夷隅郡市行政不服審査会委員. 千葉県夷隅郡市広域市町村事務組合.
- 11) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2020年度～2024年度「養護教諭の職業的社会化と育成に関する研究」研究代表者: 篠原清夫. 全体経費3,900,000円（直接経費3,000,000円）・今年度経費0円（直接経費0円〔事業延長〕）.
- 12) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2023年度～2026年度「『4年間の追跡調査』を踏まえて再構築する教員免許状取得希望学生への支援方法」研究代表者: 藤平敦・研究分担者: 篠原清夫. 全体経費4,550,000円（直接経費3,500,000円）・今年度分担額（直接経費180,000円）.

基礎看護学領域

1. 研究論文

特になし

2. 学会発表

特になし

3. その他（書籍,総説,解説など）

特になし

4. 学内外活動・社会活動（賞など）

1) 遠田きよみ,後藤佳子,石井慶子,安ヶ平伸枝

（非常勤講師）（2024, 11月 14 日）. 御宿町ボランティア, 生活行動援助論Ⅱにおける足浴ボランティアの実施.

2) 浦橋久美子,棚橋ゆか,遠田きよみ（2025年 2

月 3 日）. 「御宿町多世代交流仕組みづくり事業」支援, (寄茶場の方向性), 御宿町.

3) 遠田きよみ（講師）,石井慶子,浦橋久美子,平澤久美子（2025年 2月 14 日）. 「三育学院大学と御宿町（小学校・教育委員会・保健福祉課）の連携事業」企画・運営, (種まき授業～御宿町立小学校 5 年生 - プチナースになる!!). 御宿町.

4) 浦橋久美子,遠田きよみ,平澤久美子（2025,3 月 27 日）. 「御宿町多世代交流仕組みづくり事業」支援, (世界に一つだけのポストカード 3 月 27 日). 御宿町.

5) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2022 年度～2025 年度「幼児の「健康をつくる力」育成にむけたアクションを支援する WEB システムの開発」分担者：後藤佳子. 全体経費 4,160,000 円（直接経費 3,200,000 円）・今年度(2024)分担額 2024 年度は 2023 年度の持ち越し金があるため今年度経費 0 円

小児看護学領域

1. 研究論文

- 1) 高崎洋子・廣瀬幸美・松崎敦子 (2025) . 無痛分娩を選択した産婦の出産体験の自己評価に関連する要因. *母性衛生*, 65(4). 420-427.
- 2) 黒澤佳世子・廣瀬幸美・松崎敦子 (2025) . 無痛分娩後1ヶ月時の母乳育児の実態と母乳育児の確立に影響する要因. *三育学院大学紀要*, 17(1), 1-11.
- 3) 松崎敦子. (2025) . 早産児の発達に関する研究動向と今後の課題に関する文献研究. *三育学院大学紀要*, 17(1), 23-43.

2. 学会発表

- 1) 永田真弓・飯尾美沙・廣瀬幸美・徳丸裕恭 (2024). 一般病棟に入院する小児と家族への周術期ケア実践における課題とその課題への取り組み. *日本小児看護学会第34回学術集会*. 大阪. 7月7日.
- 2) 岡橋彩・佐藤優希・吳英俊・原康一郎・今泉 隆行・土方みどり・桃木恵美子・石井和嘉子・長野信彦・加藤奏・若村礼子・松崎敦子・井上健・出口貴美子・森岡一朗. (2025). *Vineland-II 適応行動尺度と新版K式検査*で見た早産児の発達の評価. 第71回小児保健協会学術集会. 北海道. 6月22日.
- 3) 清野星二・廣瀬幸美・永田真弓. (2024). 幼児後期の先天性心疾患児をもつ親の育児関与とその関連要因. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会. 福岡. 7月13日.

3. その他(書籍,総説,解説など)

- 1) 松崎敦子. (2025). 学習理論の基礎と応用. 今福理博・鹿子木康弘(編), みんなの教育心理学(印刷中). 大学教育出版.

4. 社会活動(学外活動・賞など)

- 1) 廣瀬幸美 (2024). 東洋大学文学部教育学科非常勤講師, 「病弱児の病理と臨床」の7回の講義: 4月9日, 4月16日, 4月23日, 5月7日, 5月14日, 5月21日, 5月28日
- 2) 廣瀬幸美 (2024) . 日本乳幼児精神保健学会理事, 理事会(第1回7月14日, 第2回12月10日)
- 3) 廣瀬幸美 (2024~2026) . 日本看護研究学会専任査読委員
- 4) 廣瀬幸美 (2022~2026) . 日本小児看護学会専任査読委員者
- 5) 廣瀬幸美・北田ひろ代 (2025) 子育て支援施設交流会(子ども・子育てプラザ天沼) 参加. 2月28日
- 6) 松崎敦子 (2024-2025) . 星槎大学大学院兼任講師, 選択科目「応用行動分析学特論」, 2回のスクーリング: 6月30日, 1月11日.
- 7) 松崎敦子 (2024-2025) . 日本大学医学部客員研究員.
- 8) 松崎敦子 (2024-2025) . 東京三育小学校 発達支援アドバイザー. 5月20日, 7月8日, 10月21日.
- 9) 松崎敦子 (2024-2025) . 東京衛生アドベンチスト病院 発達アドバイザー. 4月8日, 5月13日, 6月10日, 7月8日, 8月12日, 9月9日, 10月14日, 11月11日, 12月9日, 1月13日, 2月10日, 3月10日.
- 10) 松崎敦子 (2024-2025) . ミュージックaspallett 「プラクティショナー養成講座」5月26日, 10月6日, 12月21日, 1月19日, 2月8日.

- 11) 松崎敦子 (2024-2025) . ミュージック as パレット「スーパーバイザー養成講座」6月 22 日, 7月 14 日, 7月 28 日.
- 12) 松崎敦子 (2024) . 港区 2023 年度前期子育て支援員研修「小児栄養・新生児期から乳児期の病気・特別に配慮を要する子どもへの対応 I, IIまとめ」6月 28 日.
- 13) 松崎敦子 (2024) . ザベリオ学園小学校教員研修「グレーゾーンや診断の出ている子への支援」9月 5 日.
- 14) 松崎敦子 (2024) . 菊池記念子ども保健医学研究所（第 23 回郡山サロン）「保護者との連携と対応～良好な関係を築くには？」9月 27 日.
- 15) 松崎敦子 (2024) . 兵庫県音楽療法士会 第 143 回（公開）研修会「応用行動分析学の基礎を音楽療法での応用」10月 5 日.
- 16) 松崎敦子 (2024) . ザベリオ学園幼稚園 教育講演「子どもが幸せにいるために大人ができること」11月 6 日.
- 17) 松崎敦子 (2024) . 港区 2023 年度後期子育て支援員研修「小児栄養・新生児期から乳児期の病気・特別に配慮を要する子どもへの対応 I, IIまとめ」11月 8 日.
- 18) 松崎敦子 (2025) . ミュージック as パレット第 97 回研究会「心の整え方」1月 19 日.
- 19) 松崎敦子 (2025) . 多摩市 2024 年度後期子育て支援員研修「小児栄養・小児保健、新生児期から乳児期の病気、特別に配慮を要する子どもへの対応 Iまとめ」1月 25 日.
- 20) 松崎敦子 (2025) . 渋谷区障害者福祉センター代々木の杜ピア・キッズ、はあとぴあキッズ 療育講座「子どもが幸せでいるために大人ができること」2月 15 日.
- 21) 松崎敦子 (2025) . 高浜市 2024 年度子育て支援員研修「子どもの障害」「特別に配慮を要する子どもへの対応」2月 16 日.
- 22) 清野星二 (2024) . 杉並区立重症心身障害児通所施設わかば「夏祭りボランティア」7月 20 日.
- 23) 清野星二 (2024) . 広島三育学院高校 CMM クリスチャン医療伝道授業「健康問題をもつ児と家族」11月 6 日.
- 24) 清野星二 (2024) . 杉並区立重症心身障害児通所施設わかば「餅つき大会ボランティア」12月 14 日.
- 25) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2020 年度-2023 年度「先天性心疾患児の養育ニーズに応じた前向き子育てプログラムの開発とその評価」代表者: 廣瀬幸美, 分担者: 清野星二. 全体経費 4,290,000 円（直接経費 3,300,000 円）. 2024 年度は研究期間延長のため、経費なし
- 26) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2024 年度-2026 年度「早産児に対する発達支援プログラムの開発と評価：神経発達症へのプロアクティブな介入」代表者: 松崎敦子. 全体経費 4,680,000 円（直接経費 3,600,000 円）. 2024 年度経費 2,210,000 円（直接経費 1,700,000 円）.
- 27) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2019 年度～2022 年度「周手術期の小児と家族に携わる一般病棟看護師への複合的支援に関する基礎的研究」分担者: 廣瀬幸美. 全体経費 4,290,000 円（直接経費 3,300,000 円）. 2024 年度は研究期間再延長のため、経費なし

女性看護学領域

1. 研究論文

- 1) 高崎洋子・廣瀬幸美・松崎敦子 (2025) . 無痛分娩を選択した産婦の出産体験の自己評価に関連する要因. 母性衛生, 65(4). 420-427.
- 2) 黒澤佳世子・廣瀬幸美・松崎敦子 (2025) . 無痛分娩後1ヶ月時の母乳育児の実態と母乳育児の確立に影響する要因. 三育学院大学紀要, 17(1), 1-11.
- 3) 近藤勇美・北田ひろ代 (2024). 看護基礎教育におけるパフォーマンス課題に関する文献検討. 三育学院大学紀要, 17(1), 45-54.

2. 学会発表

- 1) 永田真弓・飯尾美沙・廣瀬幸美・徳丸裕恭 (2024). 一般病棟に入院する小児と家族への周術期ケア実践における課題とその課題への取り組み. 日本小児看護学会第34回学術集会. 大阪. 7月7日.
- 2) 清野星二・廣瀬幸美・永田真弓. (2024). 幼児後期の先天性心疾患児をもつ親の育児関与とその関連要因. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会. 福岡. 7月13日.
- 3) Hiroyo KITADA, Yasuko SAITO. Study on access to continuous support: Focus on websites with pregnancy notification information of Tokyo 23 wards. The World Association for Infant Mental Health (@ Finland)

3. その他（書籍、総説、解説など）

4. 社会活動（学外活動・賞など）

- 1) 1) 廣瀬幸美 (2024). 東洋大学文学部教育学科非常勤講師, 「病弱児の病理と臨床」の7

- 回の講義: 4月9日, 4月16日, 4月23日, 5月7日, 5月14日, 5月21日, 5月28日
- 2) 廣瀬幸美 (2024) . 日本乳幼児精神保健学会理事, 理事会 (第1回7月14日, 第2回12月10日)
 - 3) 廣瀬幸美 (2024~2026) . 日本看護研究学会専任査読委員
 - 4) 廣瀬幸美 (2022~2026) . 日本小児看護学会専任査読委員者
 - 5) 廣瀬幸美・北田ひろ代 (2025) 子育て支援施設交流会 (子ども・子育てプラザ天沼) 参加. 2月28日
 - 6) 北田ひろ代 (2024) . 石川県助産師会 令和6年度安全管理研修会「あなたの発信は大丈夫? 今どきのSNSと個人情報の安全な取り扱い」, 8月3日.
 - 7) 北田ひろ代 (2024~2025) . 双日国際事業「モンゴルの助産師卒後教育『産褥期のケア』の向上のための交流事業」
 - 8) 北田ひろ代 (2024~2025) . 日本産前産後ケア・子育て支援学会 編集委員.
 - 9) 北田ひろ代, 近藤勇美, 清野星二 (2024) . 東京三育小学校2年生「いのちの授業」. 11月7日.
 - 10) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2020年度-2023年度「先天性心疾患児の養育ニーズに応じた前向き子育てプログラムの開発とその評価」代表者: 廣瀬幸美, 分担者: 清野星二. 全体経費4,290,000円（直接経費3,300,000円）. 2024年度は研究期間延長のため、経費なし
 - 11) 科学研究費補助金（基盤研究(C)）2019年度~2022年度「周手術期の小児と家族に携わる一般病棟看護師への複合的支援に関する基

礎的研究」分担者: 廣瀬幸美, 全体経費
4,290,000 円 (直接経費 3,300,000 円) . 2024
年度は研究期間再延長のため、経費なし

成人・老年看護学領域

1. 研究論文
なし
2. 学会発表
 - 1) 清水浩美, (2024). 妊娠糖尿病と診断を受けた女性の産後生活～出産後1年以内の女性のインタビューから～, 第29回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 口演, 9月22日, 国立京都国際会館（京都府）.
3. その他（書籍, 総説, 解説など）
なし
4. 社会活動（学外活動・賞など）
 - 1) 市川光代 (2024). 東京衛生アドベンチスト病院の看護師を対象とした講話：「看護研究を始める前に」, 12月12日.
 - 2) 今野玲子 (2024). 広島三育学院高等学校 CMMⅡ（クリスチャン医療伝道クラス）特別講師「成人・老年看護学から」11月20日.
 - 3) 平野美理香 (2022-2024). 東京都地域医療対策協議会専門委員, 9月5日, 10月21日
 - 4) 平野美理香 (2022-2024). 東京都看護人材確保対策会議委員, 7月1日, 3月3日,
 - 5) 平野美理香 (2022-2024). 東京都ナースプラザ運営協議会委員, 2月27日
 - 6) 平野美理香 (2022-2024). 河北医療財団倫理審査外部委員, 倫理委員会, 4月15日, 6月17日, 10月21日, 3月3日.
 - 7) 平野美理香 (2024). 千葉県看護協会, 千葉県看護教育コース「ACPを学ぼう」を講義, 7月29日.
- 8) 平野美理香 (2024). セブンスデー・アドベンチスト天沼教会. 講演会「幸せな人生を生きるための選択-アドバンス・ケア・プランニングとは」を講演, 5月11日.
- 9) 平野美理香 (2025). 千葉労災看護専門学校 卒業記念講演「その人らしく生きることを支えるスピリチュアルケア」を講演, 2025年2月19日.
- 10) 科学研究費補助金（基盤研究（C））2022年度～2025年度課題番号 22K10967 「ヤングケアラー・若者介護者の包括的支援を目指したリフレクティブな支援プログラム」 代表者：青木由美恵, 分担者：平野美理香. 全体経費 4,160,000円（直接経費 3,200,000円） 今年度分担額 200,000円.

精神看護学領域

1. 研究論文

- 1) 岡本隆寛, 松本浩幸.(2025).統合失調症者のパーソナル・リカバリーに関連する社会因子に関する研究（原著論文 査読あり）.三育学院大学紀要, 第 17 卷 第 1 号 2025, 13-22.

2. 学会発表

- 1) 藤江直子, 斎藤泰子, 松本浩幸. 健康診断後の受診に影響を及ぼす要因（口頭 査読あり）第 65 回 日本人間ドック・予防医療学会学術大会 2024 年 9 月 6 日（金）
- 2) 松本浩幸, 岡本隆寛. 農福連携による精神障害者への影響とその課題についての文献レビュー（ポスター 査読あり）日本リハビリテーション連携科学学会 第 25 回大会, 東京, 2025 年 3 月 15 日（土）.

3. その他

地域看護学・公衆衛生看護学領域

1. 研究論文

- 1) 朝見優子, 鈴木美和(2025) : 訪問看護ステーション実習における看護学生の学びとその促進要因・阻害要因, 三育学院大学紀要, 17, 55-71.

2. 学会発表

- 1) 朝見優子, 鈴木美和(2025) : 訪問看護ステーション実習における看護学生の学びとその促進要因・阻害要因, 日本公衆衛生看護学会第 13 回学術集会講演集, 307.
- 2) Yuko Asami, Satoshi Yago, Motoko Okamitsu (2025) : Practices of Home Visiting Nurses in Promoting Partnerships with Parents in Pediatric Home Healthcare in Japan: A Qualitative Study, 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025.

3. その他（書籍, 総説, 解説など）

- 1) 猪俣久美, 岩本里織, 浦橋久美子, 大越扶貴, 大木幸子, 岡本玲子, 北村眞弓, 草野恵美子, 工藤恵子, 合田加代子, 鈴木晃, 多田美由貴, 西嶋真理子, 野原真理, 森田桂, 山口佳子, 山下正 (2025) : 公衆衛生看護活動論 技術演習第 4 版, 190-199.
- 2) 舟島なをみ, 中山登志子, 上國料美香, 服部美香, 鈴木美和, 松田安弘, 宮芝智子, 山下暢子, 山澄直美, 伊勢根尚美, 植田満美子, 金谷悦子, 永野光子 (2024) : 看護実践・教育のための測定用具ファイル 第 4 版, 342-352.

4. 社会活動（学外活動・賞など）

- 1) 浦橋久美子 (2024年4 月-2025年3 月) . 地域職域連携推進協議会委員. 夷隅健康福祉センター
- 2) 浦橋久美子 (2024年6 月-9 月). 亀田医療大

学 非常勤講師（公衆衛生看護支援技術 I）

- 3) 浦橋久美子 (2024 年4 月-2025 年3 月) . 「御宿版多世代交流仕組みづくり事業」支援（企画・運営）. 御宿町
- 4) 浦橋久美子 (2024年4 月-2024, 3 月) 保健師試験委員 公益財団法人日本人事試験研究センター
- 5) 鈴木美和 (2024, 6 月-2025, 6 月) . 一般社団法人全国保健師教育機関協議会 副会長
- 6) 鈴木美和 (2024, 4 月-2025, 3月) . 天使大学大学院 看護学研究科 非常勤講師（看護教育学特論I）
- 7) 鈴木美和 (2024, 8 月) . 一般社団法人全国保健師教育機関協議会 公衆衛生看護学教員ラダー I 研修 ファシリテーター
- 8) 鈴木美和 (2025 年3 月28 日) . 一般社団法人全国保健師教育機関協議会 公衆衛生看護学教員ラダー I 研修 ファシリテーター
- 9) 鈴木美和 (2024 年4 月 1 日-2025 年 3 月 31 日) . 令和 6 年度国保・後期高齢者ヘルスサポート事業に関する保険者ヒアリング評価委員（千葉県）
- 10) 鈴木美和 (2025 年1 月-10 月) 日本看護教育学会第34 回学術集会企画委員
- 11) 手塚早苗 (2024 年10 月) 三育学院中等教育学校. 4 年生沐浴体験指導
- 12) 手塚早苗 (2024 年11 月) . 東京三育小学校「喫煙防止教室」講師
- 13) 手塚早苗 (2024 年4月-2025年3 月) 大原高校居場所カフェ支援

資 料

2020年度以降入学者 看護師課程カリキュラム

区分		授業科目	授業の形態	単位数		1年		2年		3年		4年		
				必修	選択	前期必修	後期選択	前期必修	後期選択	前期必修	後期選択	前期必修	後期選択	
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	講	2		◎								
		聖書Ⅰ	講	1			◎							
		聖書Ⅱ	講	1					◎					
		聖書Ⅲ	講	1										
		聖書Ⅳ	講	1										◎
		キリストの生涯	講		2			○						
		キリスト教音楽Ⅰ	演		1	○								
		キリスト教音楽Ⅱ	演		1			○						
		パーソナルミニストリー	講		1						○			
		ミニストリー オブ ヒーリング	講		2					○				
		クリスチャンの奉仕	講		1									○
教養教育科目	人間の理解	発達心理学	講	1				◎						
		人間関係論	講	1				◎						
		哲学	講	2		○								
		心理学	講	2		○								
		スポーツ科学Ⅰ	演	1		○								
		スポーツ科学Ⅱ	講	1				○						
		教育学	講	2						○				
教養教育科目	文化・社会の理解	社会学	講	2		○								
		歴史	講	2				○						
		美学	演	1				○						
		ボランティア活動論	講	1		○								
		日本国憲法	講	2							○			
		日本文化演習(茶道)	演	1						○				
教養教育科目	情報科学	基礎学習セミナー	演	1		◎								
		論理的思考	演	1				◎						
		情報科学	演	1		◎								
		統計学	演	1				◎						
	基礎科学	物理学	講		1	○								
教養教育科目	生物学	講		1	○									
	化学	講		1				○						
	生活環境論	講		1						○				
	語学の修得	英会話Ⅰ(日常英会話)	演	1		◎								
		英会話Ⅱ(看護英会話)	演	1				◎						
		英語Ⅰ(読む)	演	1				◎						
		英語Ⅱ(書く)	演	1					◎					
		韓国語	演		1						○			
専門基礎教育科目	人間と健康	人体の形態と機能Ⅰ	講	2		◎								
		人体の形態と機能Ⅱ	講	2				◎						
		生化学	講	1		◎								
		微生物学	講	2				◎						
		栄養学	講	1				◎						
		疾病・治療学Ⅰ	講	1				◎						
		疾病・治療学Ⅱ	講	2					◎					
		疾病・治療学Ⅲ	講	2						◎				
	薬理学	講	2						◎					
専門基礎教育科目	環境と健康	公衆衛生学	講	1				◎						
		健康教育論Ⅰ(理論)	講	1				◎						
		健康教育論Ⅱ(演習)	演	1					◎					
		保健統計演習	演		1					○				
		疫学	講	2								◎		
		保健医療福祉行政論	講	2								◎		
		保健医療社会学	講	1								◎		
		ファシリテーション	講	1		○								
専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	講	2		◎								
		三育の全人的看護と伝統	講	1				◎						
		看護技術の基礎	講	1		◎								
		生活行動援助論Ⅰ	演	1		◎								
		生活行動援助論Ⅱ	演	1				◎						
		看護過程の基礎	演	1				◎						
		ヘルスアセスメント	演	1					◎					
		診療の援助技術論Ⅰ	演	1					◎					
		診療の援助技術論Ⅱ	演	1						◎				
		基礎看護学実習Ⅰ	実	1		◎								
		基礎看護学実習Ⅱ	実	2		115				◎				

区分	授業科目	授業の形態	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期必修	後期選択	前期必修	後期選択	前期必修	後期選択	前期必修	後期選択
地域看護学	地域看護学概論	講	2		◎							
	家族看護学	講	1						◎			
	在宅看護論Ⅰ(在宅療養者の生活と支援)	講	2						◎			
	在宅看護論Ⅱ(在宅療養者の支援の実際)	演	1							◎		
	産業保健	講	1							◎		
	学校保健	講		1						○		
	地域看護学実習	実	1		◎							
	在宅看護論実習	実	2							◎		
	地域交流実習	実		1		○						
成人・老年看護学	成人の特徴と生活と健康	講	1				◎					
	高齢者の特徴と生活と健康	講	1				◎					
	慢性期看護論	演	2					◎				
	急性期・周手術期看護論	講	2						◎			
	回復期(リハビリテーション)看護論	講	1					◎				
	緩和ケア・終末期看護論	講	1						◎			
	慢性期看護実習	実	2							◎		
	急性期看護実習	実	2							◎		
	回復期看護実習	実	2							◎		
	緩和ケア・終末期看護実習	実	2							◎		
	老人福祉施設実習	実	1							◎		
専門教育科目	看護理論	講		1					○			
	子どもの特徴と生活と健康	講	1					◎				
	子どもの健康と看護	演	1						◎			
	健康問題をもつ子どもと看護	講	2							◎		
	小児看護学実習	実	2							◎		
女性看護学	女性の特徴と生活と健康	講	1				◎					
	リプロダクティブ・ヘルスと看護	講	2					◎				
	女性の健康問題と看護	演	1						◎			
	母性看護学実習	実	2							◎		
精神看護学	こころと健康	講	1					◎				
	こころの健康増進と看護	講	1						◎			
	こころを病む人と看護	講	2							◎		
	精神看護学実習	実	2							◎		
国際看護	国際看護論	講	1				◎					
	国際保健医療問題	講		1						○		
	国際看護実習Ⅰ(欧米の看護体験)	実		2			○					
	国際看護実習Ⅱ(アジアの看護体験)	実		2						○		
看護の発展科目	医療安全管理学	講	1						◎			
	看護倫理	講	1						◎			
	看護展開演習Ⅰ	演	1						◎			
	看護展開演習Ⅱ	演	2							◎		
	スピリチュアルケア	講	2							◎		
	スピリチュアルケア実習	実	1							◎		
	看護研究の基礎	講	2						◎			
	看護専門職論	講	1								◎	
	災害看護学	講	1								◎	
	卒業研究Ⅰ(研究計画)	演	2								◎	
	卒業研究Ⅱ(研究の実践)	演		2								○
	総合看護実習	実	2								◎	
	看護診断論	講		1						○		
	看護管理学	講		1							○	
	看護における補完療法	演		1								○
	論文講読(看護)	講		1								○
	合計コマ数		114	46								

2020年度以降入学者 保健師課程カリキュラム

区分	授業科目	授業の形態	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	キリスト教概論	講	2		◎							
	聖書Ⅰ	講	1			◎						
	聖書Ⅱ	講	1				◎					
	聖書Ⅲ	講	1							◎		
	聖書Ⅳ	講	1									◎
	キリストの生涯	講		2			○					
	キリスト教音楽Ⅰ	演		1	○							
	キリスト教音楽Ⅱ	演		1		○						
	パーソナル ミニストリー	講		1					○			
	ミニストリー オブ ヒーリング	講		2					○			
	クリスチャンの奉仕	講		1							○	
人間の理解	発達心理学	講	1			◎						
	人間関係論	講	1			◎						
	哲学	講		2	○							
	心理学	講		2	○							
	スポーツ科学Ⅰ	演		1	○							
	スポーツ科学Ⅱ	講		1		○						
	教育学	講		2			○					
文化・社会の理解	社会学	講		2	○							
	歴史	講		2			○					
	美学	演		1			○					
	ボランティア活動論	講		1	○							
	日本国憲法	講		2					○			
	日本文化演習(茶道)	演		1				○				
情報科学	基礎学習セミナー	演	1		◎							
	論理的思考	演	1			◎						
	情報科学	演	1		◎							
	統計学	演	1			◎						
基礎科学	物理学	講		1	○							
	生物学	講		1	○							
	化学	講		1			○					
	生活環境論	講		1				○				
語学の修得	英会話Ⅰ(日常英会話)	演	1		◎							
	英会話Ⅱ(看護英会話)	演	1			◎						
	英語Ⅰ(読む)	演	1			◎						
	英語Ⅱ(書く)	演	1				◎					
	韓国語	演		1					○			
専門基礎教育科目	人間の形態と機能Ⅰ	講	2		◎							
	人間の形態と機能Ⅱ	講	2			◎						
	生化学	講	1		◎							
	微生物学	講	2			◎						
	栄養学	講	1			◎						
	疾病・治療学Ⅰ	講	1			◎						
	疾病・治療学Ⅱ	講	2				◎					
	疾病・治療学Ⅲ	講	2					◎				
環境と健康	薬理学	講	2				◎					
	公衆衛生学	講	1			◎						
	健康教育論Ⅰ(理論)	講	1			◎						
	健康教育論Ⅱ(演習)	演	1				◎					
	保健統計演習	演	1				◎					
	疫学	講	2							◎		
	保健医療福祉行政論	講	2							◎		
	保健医療社会学	講	1							◎		
専門教育科目	ファシリテーション	講	1		○							
	看護学概論	講	2		◎							
	三育の全人的看護と伝統	講	1			◎						
	看護技術の基礎	講	1		◎							
	生活行動援助論Ⅰ	演	1		◎							
	生活行動援助論Ⅱ	演	1			◎						
	看護過程の基礎	演	1			◎						
	ヘルスアセスメント	演	1				◎					
	診療の援助技術論Ⅰ	演	1				◎					
	診療の援助技術論Ⅱ	演	1					◎				
	基礎看護学実習Ⅰ	実	1		◎							
	基礎看護学実習Ⅱ	実	2			◎			◎			

区分	授業科目	授業の形態	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期必修	後期選択	前期必修	後期選択	前期必修	後期選択	前期必修	後期選択
地域看護学	地域看護学概論	講	2		◎							
	家族看護学	講	1						◎			
	在宅看護論 I (在宅療養者の生活と支援)	講	2						◎			
	在宅看護論 II (在宅療養者の支援の実際)	演	1							◎		
	産業保健	講	1							◎		
	学校保健	講	1						◎			
	地域看護学実習	実	1		◎							
	在宅看護論実習	実	2							◎		
	地域交流実習	実		1		○						
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	講	2							◎		
	対象別支援技術論	演	2							◎		
	公衆衛生看護活動展開論 I (理論)	講	1							◎		
	公衆衛生看護活動展開論 II (演習)	演	1								◎	
	地域ケアシステム論	講	1							◎		
	組織協働活動論	講	1							◎		
	健康危機管理論	講	1							◎		
	公衆衛生看護管理論	講	1								◎	
専門教育科目	公衆衛生看護学実習 I (市町村)	実	3							◎		
	公衆衛生看護学実習 II (保健所)	実	1							◎		
	公衆衛生看護学実習 III (産業保健)	実	1							◎		
	成人の特徴と生活と健康	講	1				◎					
	高齢者の特徴と生活と健康	講	1			◎						
	慢性期看護論	演	2				◎					
	急性期・周手術期看護論	講	2					◎				
	回復期(リハビリテーション)看護論	講	1				◎					
成人・老年看護学	緩和ケア・終末期看護論	講	1						◎			
	慢性期看護実習	実	2							◎		
	急性期看護実習	実	2							◎		
	回復期看護実習	実	2							◎		
	緩和ケア・終末期看護実習	実	2							◎		
	老人福祉施設実習	実	1							◎		
	看護理論	講		1					○			
	小児看護学	講	1				◎					
女性看護学	子どもの特徴と生活と健康	演	1					◎				
	子どもの健康と看護	講	2						◎			
	健康問題をもつ子どもと看護	講	2							◎		
	小児看護学実習	実	2							◎		
	女性の特徴と生活と健康	講	1				◎					
	リプロダクティブ・ヘルスと看護	講	2					◎				
	女性の健康問題と看護	演	1						◎			
	母性看護学実習	実	2							◎		
精神看護学	こころと健康	講	1					◎				
	こころの健康増進と看護	講	1						◎			
	こころを病む人と看護	講	2							◎		
	精神看護学実習	実	2							◎		
	国際看護論	講	1				◎					
	国際保健医療問題	講		1						○		
	国際看護実習 I (欧米の看護体験)	実		2			○					
	国際看護実習 II (アジアの看護体験)	実		2						○		
看護の発展科目	医療安全管理学	講	1						◎			
	看護倫理	講	1						◎			
	看護展開演習 I	演	1						◎			
	看護展開演習 II	演	2							◎		
	スピリチュアルケア	講	2						◎			
	スピリチュアルケア実習	実	1							◎		
	看護研究の基礎	講	2						◎			
	看護専門職論	講	1								◎	
	災害看護学	講	1								◎	
	卒業研究 I (研究計画)	演	2								◎	
	卒業研究 II (研究の実践)	演		2								○
	総合看護実習	実	2								◎	
	看護診断論	講		1						○		
	看護管理学	講		1							○	
	看護における補完療法	演		1								○
	論文講読(看護)	講		1								○
合計コマ数			131	44	118							

2017年度以降入学者 看護師課程カリキュラム

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	4		◎							
	ミニストリー オブ ヒーリング		2				○				
	アセンブリー I	1		◎							
	アセンブリー II	1				◎					
	アセンブリー III	1						◎			
	アセンブリー IV	1							◎		
	キリスト教倫理		2			○					
	キリスト教音楽		1	○							
	SDA教会史		2							○	
	パーソナル ミニストリー		2						○		
教養	クリスチャン サービス		2						○		
	現代とキリスト教		2					○			
	哲学		2	○							
	心理学		2	○							
	人間関係論	2		◎							
教育科目	教育学		2	○							
	スポーツ科学		2	○							
	社会学		2	○							
	文化人類学		2					○			
	歴史		2		○						
	経済学		2	○							
	異文化演習		1			○					
情報科学	美学		1		○						
	日本国憲法		2					○			
	ボランティア活動論		1	○							
	情報科学		2	○							
自然科学	統計学		2		○						
	論理的思考	2			◎						
	基礎学習セミナー	1		◎							
	物理学		2		○						
語学の修得	生物学		2	○							
	化学		2	○							
	生活環境論		1	○							
	英語 I (読む)	1			◎						
	英語 II (書く)	1				◎					
	英語 III (論文講読)		1							○	
	英会話 I (日常英会話)	2		◎							
看護	英会話 II (看護英会話)	2			◎						
	英会話 III (海外研修)		1			○					
	韓国語		1	○							

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎教育科目	発達心理学	2			◎						
	人体の形態と機能 I	2			◎						
	人体の形態と機能 II	2			◎						
	生化学	2		◎							
	栄養学	1			◎						
	疫学	2							◎		
	保健統計演習	2					◎				
	公衆衛生学	2			◎						
	疾病・治療学 I	1			◎						
	疾病・治療学 II	2				◎					
	疾病治療学特論	1							◎		
	薬理学	2			◎						
	環境と健康	微生物学	2			◎					
	保健医療福祉論	2					◎				
専門教育科目	保健医療福祉行政論	3							◎		
	保健医療社会学	1							◎		
	基礎看護学	看護学概論	2		◎						
	看護倫理	1			◎						
	看護技術概論	1		◎							
	看護技術各論 I (生活援助技術)	2			◎						
	看護技術各論 II (診療補助技術)	2				◎					
	看護技術各論 III (ヘルスアセスメント)	1				◎					
	看護技術各論 IV (看護過程)	1				◎					
	看護研究の基礎	2					◎				
	健康教育論	1					◎				
	基礎看護学実習 I	1		◎							
	基礎看護学実習 II	2					◎				
地域看護学	地域看護学概論	2			◎						
	地域看護方法論	1				◎					
	家族看護学	1				◎					
	在宅看護論	2					◎				
	地域看護学実習	1		◎							
	在宅看護論実習	2							◎		
成人看護学	成人看護学概論	1			◎						
	成人看護方法論 I (急性期看護)	2				◎					
	成人看護方法論 II (慢性期・機能回復期看護)	2				◎					
	成人看護方法論 III (終末期看護)	1						◎			
	成人看護学実習 I (急性期看護)	3							◎		
	成人看護学実習 II (慢性期・機能回復期看護)	3							◎		
老年看護学	老年看護学概論	1				◎					
	老年看護方法論 I (高齢者の生活と看護)	1					◎				
	老年看護方法論 II (高齢者の疾病と看護)	2						◎			
	老年看護学実習	3							◎		

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門教育科目	小児看護学概論	1				◎					
	小児看護方法論 I (子供の成長・発達と看護)	1				◎					
	小児看護方法論 II (健康障害を持つ子供の看護)	2					◎				
	小児看護学実習	2						◎			
	母性看護学概論	1				◎					
	母性看護方法論 I (女性のライフサイクルと周産期看護)	2				◎					
	母性看護方法論 II (周産期の健康障害の看護)	1					◎				
	母性看護学実習	2						◎			
	精神看護学概論	1				◎					
	精神看護方法論 I (精神保健)	1				◎					
看護の発展科目	精神看護方法論 II (精神障害を持つ人の看護)	2					◎				
	精神看護学実習	2						◎			
	国際看護論		2					○			
	国際保健医療問題		1					○			
	国際看護実習		2					○			
	医療安全管理学	1				◎					
	看護管理学		1						○		
	スピリチュアルケア	2					◎				
	看護における補完療法		1						○		
	看護診断・成果・介入のリンクエージ		1						○		
卒業研究	災害看護学		1						○		
	看護教育学		1						○		
	卒業研究	4								◎	
	総合看護実習	2									◎
	合 計	119	58								
卒業要件		131単位以上									

2017年度以降入学者 保健師課程カリキュラム

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	4		◎							
	ミニストリー オブ ヒーリング		2				○				
	アセンブリー I	1		◎							
	アセンブリー II	1				◎					
	アセンブリー III	1						◎			
	アセンブリー IV	1							◎		
	キリスト教倫理		2			○					
	キリスト教音楽		1	○							
	SDA教会史		2							○	
	パーソナル ミニストリー		2							○	
	クリスチヤン サービス		2							○	
	現代とキリスト教		2					○			
教養	哲学		2	○							
	心理学		2	○							
	人間関係論	2		◎							
	教育学		2	○							
	スポーツ科学		2	○							
教育科目	社会学		2	○							
	文化人類学		2					○			
	歴史		2		○						
	経済学		2	○							
	異文化演習		1			○					
	美学		1		○						
	日本国憲法		2				○				
情報科学	ボランティア活動論		1	○							
	情報科学		2	○							
	統計学		2		○						
	論理的思考	2			◎						
自然科学	基礎学習セミナー	1		◎							
	物理学		2		○						
	生物学		2	○							
	化学		2	○							
語学の修得	生活環境論		1	○							
	英語 I (読む)	1			◎						
	英語 II (書く)	1				◎					
	英語 III (論文講読)		1								○
	英会話 I (日常英会話)	2		◎							
	英会話 II (看護英会話)	2			◎						
	英会話 III (海外研修)		1			○					
	韓国語		1	○							

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎教育科目	発達心理学	2			◎						
	人体の形態と機能 I	2		◎							
	人体の形態と機能 II	2			◎						
	生化学	2		◎							
	栄養学	1			◎						
	疫学	2							◎		
	保健統計演習	2				◎					
	公衆衛生学	2			◎						
	疾病・治療学 I	1			◎						
	疾病・治療学 II	2				◎					
	疾病治療学特論	1							◎		
	薬理学	2			◎						
環境と健康	微生物学	2			◎						
	保健医療福祉論	2				◎					
	保健医療福祉行政論	3						◎			
	保健医療社会学	1						◎			
専門	基礎看護学	看護学概論	2		◎						
	看護倫理	1			◎						
	看護技術概論	1		◎							
	看護技術各論 I (生活援助技術)	2			◎						
	看護技術各論 II (診療補助技術)	2				◎					
	看護技術各論 III (ヘルスマネジメント)	1				◎					
	看護技術各論 IV (看護過程)	1				◎					
	看護研究の基礎	2					◎				
	健康教育論	1					◎				
	基礎看護学実習 I	1		◎							
教養	基礎看護学	基礎看護学実習 II	2				◎				
	地域看護学	地域看護学概論	2			◎					
	地域看護学	地域看護方法論	1				◎				
	家族看護学	家族看護学	1				◎				
	在宅看護学	在宅看護論	2					◎			
	地域看護学	地域看護学実習	1		◎						
科目	公衆衛生看護学	在宅看護論実習	2						◎		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	2							◎	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動展開論	2							◎	
	公衆衛生看護学	対象別支援技術論	2							◎	
	公衆衛生看護学	地域ケアシステム論	2								◎
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護管理論	2								◎
	公衆衛生看護学	産業保健	1						◎		
	公衆衛生看護学	学校保健	1						◎		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学実習 I (市町村)	3							◎	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学実習 II (保健所)	1								◎
成人看護学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学実習 III (産業・学校保健)	1							◎	
	成人看護学	成人看護学概論	1			◎					
	成人看護学	成人看護方法論 I (急性期看護)	2				◎				
	成人看護学	成人看護方法論 II (慢性期・機能回復期看護)	2				◎				
	成人看護学	成人看護方法論 III (終末期看護)	1					◎			
	成人看護学	成人看護学実習 I (急性期看護)	3							◎	
	成人看護学	成人看護学実習 II (慢性期・機能回復期看護)	3							◎	

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門教育科目	老年看護学概論	1				◎					
	老年看護方法論Ⅰ（高齢者の生活と看護）	1					◎				
	老年看護方法論Ⅱ（高齢者の疾病と看護）	2						◎			
	老年看護学実習	3							◎		
	小児看護学概論	1				◎					
	小児看護方法論Ⅰ（子供の成長・発達と看護）	1					◎				
	小児看護方法論Ⅱ（健康障害を持つ子供の看護）	2						◎			
	小児看護学実習	2							◎		
	母性看護学概論	1				◎					
	母性看護方法論Ⅰ（女性のライフサイクルと周産期看護）	2					◎				
	母性看護方法論Ⅱ（周産期の健康障害の看護）	1						◎			
	母性看護学実習	2							◎		
看護の発展科目	精神看護学概論	1				◎					
	精神看護方法論Ⅰ（精神保健）	1					◎				
	精神看護方法論Ⅱ（精神障害を持つ人の看護）	2						◎			
	精神看護学実習	2							◎		
	国際看護論		2						○		
	国際保健医療問題		1						○		
	国際看護実習		2						○		
	医療安全管理学	1					◎				
	看護管理学		1						○		
	スピリチュアルケア	2						◎			
	看護における補完療法		1						○		
	看護診断・成果・介入のリンクエージ		1						○		
	災害看護学		1						○		
	看護教育学		1						○		
	卒業研究	4								◎	
	総合看護実習		2								○
合計		136	58								
保健師国家試験受験資格必要単位数		143単位以上									

2024年度 開講科目一覧（1年次）

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考		
					単位数					
					前期	後期				
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論 A	2	必	2		山地 悟			
		キリスト教概論 B	2	必			長谷川 徹			
		聖書 I	1	必		1	福田ダニエル			
		キリストの生涯	2	選		2	近藤 光顕			
		キリスト教音楽 I (カレッジ共通科目)	1	選	1		譜久島 肇			
		キリスト教音楽 II (カレッジ共通科目)	1	選		1	譜久島 肇			
		発達心理学	1	必		1	松崎 敏子			
	人間の理解	人間関係論 (カレッジ共通科目)	1	必		1	高井良しづか			
		哲学	2	選	2		梅田 興四男			
		心理学	2	選	2		森山 哲美			
		スポーツ科学 I	1	選	1		玉那覇 直大			
		スポーツ科学 II	1	選		1	森 実由樹			
		社会学(カレッジ共通)	2	選	2		篠原 清夫			
情報科学	文化・社会の理解	歴史(カレッジ共通)	2	選		2	村上 良夫			
		美学(カレッジ共通)	1	選		1	中島 健三			
		ボランティア活動論 (カレッジ共通科目)	1	選	1		橋本 笹子			
		基礎学習セミナー	1	必	1		新妻規恵 他			
		論理的思考 (カレッジ共通科目)	1	必		1	福田 和美			
	基礎科学	情報科学	1	必	1		篠原 清夫			
		統計学	1	必		1	篠原 清夫			
		物理学	1	選	1		尾上 富佐子			
		生物学	1	選	1		山本 理			
語学の修得	英会話	化学生物	1	選		1	尾上 富佐子			
		英会話 I (日常英会話)	1	必	1		サムエル コランテン			
		英会話 II (看護英会話)	1	必		1	サムエル コランテン			
		英語 I (読む)	1	必		1	新妻 規恵			

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考		
					単位数					
					前期	後期				
専門教育科目	人間と健康	人体の形態と機能 I	2	必	2		山本 理			
		人体の形態と機能 II	2	必		2	山本 理			
		生化 学	1	必	1		山本 理			
		微生物 学	2	必		2	山本 理			
		栄養 学	1	必		1	仲本 桂子			
		疾病・治療 学 I	1	必		1	塚本 利朗			
	環境と健康	公衆衛生 学	1	必		1	渡邊 いよ子			
		健康教育論 I (理論)	1	必		1	佐藤 壽子 浦橋 久美子 手塚 早苗			
		ファシリテーション	1	選	1		田渕 蘿			
	基礎看護学	看護学概論	2	必	2		後藤 佳子			
		三育の全人的看護と伝統	1	必		1	後藤 佳子 平野 美理 石川 香二 近藤 雄二 藤田 顕			
		看護技術の基礎	1	必	1		後藤 佳子 遠田 きよみ 森山 歩			
		生活行動援助論 I	1	必	1		遠田 きよみ 安ヶ平 伸枝 森山 真歩			
		生活行動援助論 II	1	必		1	遠田 きよみ 安ヶ平 伸枝 森山 真歩			
		看護過程の基礎	1	必		1	遠田 きよみ 山口 道子 安ヶ平 伸枝			
		基礎看護学実習 I	1	必	1		後藤 佳子 他			
		地域看護学概論	2	必	2		浦橋 久美子 手塚 早苗 佐藤 壽子			
	地域看護学	地域看護学実習	1	必	1		浦橋 久美子 他			
		地域交流実習	1	選		1	浦橋 久美子 手塚 早苗 佐藤 壽子			
		成人・老年看護学	1	必		1	今野 玲子 近藤 かおり			
		高齢者の特徴と生活と健康	1	必		1	市川 光代			

2024年度 開講科目一覧 (2年次)

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考		
					単位数					
					前期	後期				
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	聖書 II	1	必	1		杉正純			
		パーソナルミニストリー	1	選		1	杉正純			
		ミニストリーオブヒーリング	2	選		2	宮崎恭一			
	人間の理解	教 育 学	2	選	2		森祐二			
	文化・社会の理解	日本国憲法	2	選		2	望月穂貴			
		日本文化演習(茶道)	1	選	1		竹上三恵			
	基礎科学	生 活 環 境 論	1	選	1		竹上嘉征			
	語学の修得	英語 II (書く)	1	必	1		新妻規恵			
		韓 国 語	1	選	1		長谷川うね			
専門基礎教育科目	人間と健康	疾病・治療学 II	2	必	2		塚本利朗 小川里佳			
		疾病・治療学 III	2	必		2	東京衛生アドベンチスト病院 医師 15名			
		薬理学	2	必	2		佐藤信範 小野寺隆芳 刈込博			
	環境と健康	健康教育論 II (演習)	1	必	1		浦橋久美子 手塚早苗 佐藤壽子			
		保健統計演習	1	選	1		篠原清夫			
専門教育学	基礎看護学	ヘルスアセスメント	1	必	1		遠田きよみ 安ヶ平伸枝他			
		診療の援助技術論 I	1	必	1		山口道子 柏木良幸 森山真歩他			
		診療の援助技術論 II	1	必		1	山口道子 後藤佳子 森山真歩			
		基礎看護学実習 II	2	必		2	山口道子他			
	地域看護学	家族看護学	1	必		1	鈴木美和			
		在宅看護論 I (在宅療養者の生活と支援)	2	必		2	鈴木朝見 夏目優子 昌信			

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考		
					単位数					
					前期	後期				
専門教育学	成人・老年看護学	慢性期看護論	2	必	2		今野 玲子 近藤 かおり 市川 光代 他			
		急性期・周手術期看護論	2	必		2	近藤 かおり 今野 玲子			
		回復期(リハビリテーション)看護論	1	必		1	市川 光代			
		看護理論	1	選		1	今野 玲子 近藤 かおり			
	小児看護学	子どもの特徴と生活と健康	1	必	1		松崎 敦子			
		子どもの健康と看護	1	必		1	松崎 敦子 清野 星二			
	女性看護学	女性の特徴と生活と健康	1	必	1		北田 ひろ代			
		リプロダクティブ・ヘルスと看護	2	必		2	北田 ひろ代			
	精神看護学	こころと健康	1	必	1		松本 浩幸			
		こころの健康増進と看護	1	必		1	松本 浩幸			
	国際看護	国際看護論	1	必	1		押見 美和			
		国際看護実習I (欧米の看護体験)	2	選	2		近藤 かおり 新妻 規恵			
	看護の発展科目	医療安全管理学	1	必		1	平野 美理香 水溜 和子 佐藤 里砂			
		看護倫理	1	必		1	平野 美理香 永田 英子			
		看護展開演習I	1	必		1	今野 玲子 近藤 かおり			

2024年度 開講科目一覧 (3年次)

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考		
					単位数					
					前期	後期				
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	聖書 III	1	必	1		東出 克己			
専門基礎教育科目	環境と健康	疫学	2	必	2		渡邊 いよ子 仲本 桂子			
		保健医療福祉行政論	2	必	2		渡邊 いよ子			
		保健医療社会学	1	必	1		篠原 清夫			
専門教育科目	地域看護学	在宅看護論 II (在宅療養者の支援の実際)	1	必	1		鈴木 美和 朝見 優子			
		産業保健	1	必	1		中野 愛子			
		学校保健	1	選	1		坪井 美智子	保健師課程必修		
		在宅看護論実習	2	必		2	鈴木 美和 朝見 優子			
	成人・老年看護学	緩和ケア・終末期看護論	1	必	1		足立 光生			
		慢性期看護実習	2	必		2	素村 知佳			
		急性期看護実習	2	必		2	今野 玲子			
		回復期看護実習	2	必		2	今野 玲子 他			
		緩和ケア・終末期看護実習	2	必		2	今野 玲子 他			
		老人福祉施設実習	1	必		1	市川 光代			
	小児看護学	健康問題をもつ子どもと看護	2	必	2		松崎 敦子 清野 星二 廣瀬 幸美			
		小児看護学実習	2	必		2	廣瀬 幸美 清野 星二			
	女性看護学	女性の健康問題と看護	1	必	1		北田 ひろ代 近藤 勇美			
		母性看護学実習	2	必		2	北田 ひろ代 近藤 勇美 廣瀬 幸美			

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考		
					単位数					
					前期	後期				
専門教育科目	精神看護学	こころを病む人と看護	2	必	2		松本 浩幸			
		精神看護学実習	2	必		2	松本 浩幸 須藤 りつ			
	国際看護	国際保健医療問題	1	選	1		福家 伸夫			
		国際看護実習Ⅱ (アジアの看護体験)	2	選	2		橋本 笠子			
	看護の発展科目	看護展開演習Ⅱ	2	必	2		今野 玲子 市川 光代 近藤 かおり 素村 知佳			
		スピリチュアルケア	2	必	2		山口 道子 永田 英子			
		スピリチュアルケア実習	1	必		1	山口 道子			
		看護研究の基礎	2	必	2		廣瀬 幸美 北田 ひろ代			
		看護診断論	1	選	1		後藤 佳子			

《保健師課程カリキュラム選択者》

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考		
					単位数					
					前期	後期				
専門教育科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	2	必	2		浦橋 久美子			
		対象別支援技術論	2	必	2		鈴木 美和 松本 浩幸			
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ (理論)	1	必	1		齋藤 泰子			

2024年度 開講科目一覧 (4年次)

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考		
					単位数					
					前期	後期				
教養教育科目	アドベントリストの信仰と生活	聖書 IV	1	必		1	杉正純			
		クリスチヤンの奉仕	1	選	1		杉正純			
専門教育科目	看護の発展科目	看護専門職論	1	必		1	鈴木純恵 平野美理香			
		災害看護学	1	必	1		齋藤正子			
		看護管理学	1	選	1		平野美理香 澤間泰子			
		看護における補完療法	1	選		1	ドナルドミラー			
		論文購読(看護)	1	選		1	村上寛			
		卒業研究Ⅰ(研究計画)	2	必	2		山口道子 学部教員	保健師課程 後期		
		卒業研究Ⅱ (研究の実践)	2	選		2	山口道子 学部教員			
		総合看護実習	2	必	2		松本浩幸 学部教員			

《保健師課程カリキュラム選択者》

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目		教員名	備考		
					単位数					
					前期	後期				
専門教育科目	公衆衛生看護学	地域ケアシステム論	1	必	1		浦橋久美子 手塚早苗			
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ (演習)	1	必	1		浦橋久美子 手塚早苗			
		組織協働活動論	1	必	1		浦橋久美子			
		健康危機管理論	1	必	1		佐藤壽子			
		公衆衛生看護管理論	1	必		1	佐藤壽子			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ (市町村)	3	必	3		浦橋久美子 手塚早苗			
		公衆衛生看護学実習Ⅱ (保健所)	1	必	1		浦橋久美子 手塚早苗			
		公衆衛生看護学実習Ⅲ (産業保健)	1	必	1		浦橋久美子 手塚早苗			

2024年度 看護学部非常勤講師一覧

	氏名	ヨミガナ	科目名
1	足立 光生	アダチ コウセイ	緩和ケア・終末期看護論
2	石川 雄二	イシカワ ヨウジ	三育の全人的看護と伝統
3	伊藤 志朋	イトウ ヒロ	スピリチュアルケア
4	稻村 ルヰ	イナムラ ルイ	疾病・治療学Ⅲ
5	梅田 與四男	ウメダ ヨシオ	哲学
6	小川 里佳	オガワ リカ	疾病・治療学Ⅱ
7	尾阪 咲弥花	オザカ サヤカ	疾病・治療学Ⅲ
8	押見 美和	オミ ミツ	国際看護論
9	尾上 富佐子	オノウエ フサコ	化学、物理学
10	小野寺 隆芳	オノデラ ルカ	薬理学
11	柏木 良幸	カシワギ ヨシキ	診療の援助技術論Ⅰ
12	刈込 博	カリコミ ヒロシ	薬理学
13	倉澤 聰	クラザワ サトシ	疾病・治療学Ⅲ
14	近藤 光顕	コンドウ コウエン	キリストの生涯
15	齋藤 正子	サイトウ マサコ	災害看護学
16	齋藤 泰子	サイトウ ヤスコ	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ
17	齋藤 之彦	サイトウ ユキヒコ	疾病・治療学Ⅲ
18	佐々木 啓成	ササキ ヨシル	疾病・治療学Ⅲ
19	佐藤 壽子	サトウ ドコ	健康教育論Ⅰ（理論）、健康教育論Ⅱ（演習）、健康危機管理論、公衆衛生看護活動展開論Ⅱ（演習）、公衆衛生看護管理論、地域看護学概論、地域看護学実習、地域交流実習
20	佐藤 信範	サトウ ノブノリ	薬理学
21	佐藤 里砂	サトウ リサ	医療安全管理学
22	佐野 陽子	サノ ヨコ	疾病・治療学Ⅲ
23	澤間 泰子	サワマ ヤスコ	看護管理学
24	芝崎 江美子	シバザキ エミコ	地域看護学実習
25	嶋 和加子	シマ ハコ	疾病・治療学Ⅲ
26	須藤 りつ	スドウ リツ	精神看護学実習
27	瀬戸 愛花	セト アイカ	疾病・治療学Ⅲ
28	高井良 しづか	タカイハ シズカ	人間関係論
29	高橋 兼一郎	タカハシ ケンイチロウ	疾病・治療学Ⅲ
30	高橋 麻衣子	タカハシ マイコ	疾病・治療学Ⅲ
31	竹上 三恵	タケガミ ミツエ	日本文化演習（茶道）
32	竹上 嘉征	タケガミ ヨシキ	生活環境論
33	塙本 利朗	ツカモト トシロウ	疾病・治療学Ⅰ、疾病・治療学Ⅱ

34	坪井 美智子	ツボイ ミコ	学校保健
35	ドナルド ミラー	ドナルド ミラー	看護における補完療法
36	中島 健三	ナカジマ ケンゾウ	美学
37	永田 英子	ナガタ ヒデコ	スピリチュアルケア、看護倫理
38	中野 愛子	ナカノ アイコ	産業保健
39	仲本 桂子	ナカモト ケイコ	栄養学、疫学
40	夏目 昌信	ナツメ マサノブ	在宅看護論Ⅰ
41	橋本 笠子	ハシモト ショウコ	ボランティア活動論、国際看護実習Ⅱ（アジアの看護体験）
42	長谷川 うね	ハセガワ ウネ	韓国語、スポーツ科学Ⅱ
43	原 澄子	ハラ スミコ	疾病・治療学Ⅲ
44	東出 克己	ヒガシデ カツミ	聖書Ⅲ
45	平林 あゆみ	ヒラハヤシ アユミ	疾病・治療学Ⅲ
46	平林 尚	ヒラハヤシ ヒサシ	疾病・治療学Ⅲ
47	譜久島 肇	フクシマ ハジメ	キリスト教音楽Ⅰ、キリスト教音楽Ⅱ
48	福田 和美	フクダ カズミ	論理的思考
49	福田 ダニエル	フクダ ダニエル	聖書Ⅰ
50	福家 伸夫	フカノ ハラオ	国際保健医療問題
51	松村 真由子	マツムラ マユコ	疾病・治療学Ⅲ
52	水溜 和子	ミズタメ カズコ	医療安全管理学
53	宮崎 恭一	ミヤザキ キヨウイチ	ミニストリーオブヒーリング
54	村上 寛	ムラカミ ユカ	論文講読（看護）
55	村上 良夫	ムラカミ ヨシオ	歴史
56	望月 穂貴	モチツキ ホカ	日本国憲法
57	森 実由樹	モリ ミユキ	スポーツ科学Ⅱ
58	森 祐二	モリ ユウジ	教育学
59	森山 哲美	モリヤマ テツミ	心理学
60	森山 真歩	モリヤマ マユミ	生活行動援助論Ⅰ、生活行動援助論Ⅱ、看護技術の基礎、診療の援助技術論Ⅰ
61	安ヶ平 伸枝	ヤスガヒラ ノブエ	生活行動援助論Ⅰ、生活行動援助論Ⅱ、看護過程の基礎、ヘルスアセスメント
62	渡邊 いよ子	ワタナベ 伊ヨコ	疫学、保健医療福祉行政論、公衆衛生学
63	渡辺 浩太郎	ワタナベ コウタロウ	疾病・治療学Ⅲ

2024年度 大学院看護学研究科看護学専攻修士課程カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	単位数		1年		2年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目	キリスト教人間学 I (全人的人間観の探求)	2		◎			
	キリスト教人間学 II (全人的看護の探求)	2			◎		
	保健医療福祉連携特論	2			◎		
	看護研究方法論 I (総論)	2		◎			
	看護研究方法論 II (量的研究・質的研究)	2			◎		
	看護理論		2	○			
	看護管理学		2		○		
	実験的行動分析学特論		2		○		
専門科目	スピリチュアルケア特論		2	○			
	看護教育学特論		2	○			
	看護技術特論		2	○			
	成育看護学特論		2	○			
	成人看護学特論		2	○			
	高齢者看護学特論		2	○			
	地域看護学特論		2	○			
	実践看護学演習 I (事例分析)		2	○			
	実践看護学演習 II (文献講読)		4		○		
研究科目	特別研究 I	4			○		
	特別研究 II	4					○
合 計		18	26				

◎ : 必修共通科目

専門領域別 研究指導教授・研究テーマ一覧

専門領域・科目	研究指導教授	研究テーマ
看護教育学	鈴木美和	1. 訪問看護師の看護実践上直面する問題自己診断ツールの開発 2. 新人期保健師の保健活動に関する研究 3. 臨地実習ループリックの学生および教員への効果に関する研究 4. 看護師が知覚する魅力的な教育プログラムに関する研究
看護技術学	後藤佳子	1. 看護技術を学ぶ学生の学習支援に関する研究 2. 看護技術に関する質的研究 3. 臨床における看護技術の実践に関する研究
成育看護学	廣瀬幸美	1. 先天性障害のある子どもの発達支援や家族支援に関する研究 2. 妊娠期からの切れ目のない子育て支援に関する研究 3. 慢性疾患のある子どものセルフケア獲得のケアプログラム開発に関する研究 4. 母子保健対象者の健康課題・健康増進のための支援方法に関する研究
	北田ひろ代	1. 母子保健における切れ目のない支援に関する研究 2. 産後ケアに関する研究 3. 地域における助産師の役割に関する研究 4. 周産期における女性と家族の健康に関する研究
成人看護学	今野玲子	1. 熟練看護師のわざに関する研究 2. 成人の健康や看護に関する研究 3. 成人看護学における学生の学びと実習指導に関する研究
高齢者看護学	平野 美理香	1. 高齢者施設における看取りケアに関する研究 2. 高齢者施設における意思決定支援に関する研究 3. アドバンス・ケア・プランニングの取り組みに関する研究
	市川光代	1. 高齢者が老人ホームに適応していくプロセスを質的に分析していく研究 2. 高齢者の生きがい支援に関する研究 3. 高齢者看護学を実習していく学生の学びのプロセスに関する研究
地域看護学	齋藤泰子	1. 地域で生活する人々の健康に関する研究 2. 地域で生活する人々の社会的孤立と健康に関する研究 3. 地域包括ケアシステムや在宅移行支援における看護職の役割に関する研究 4. 子ども虐待予防や産後ケアに関する研究
キリスト教人間学	東出克己	1. 看護と人間観の関係をめぐる研究 2. スピリチュアルケアにおける人間理解の意義と課題に関する研究 3. スピリチュアルケアにおけるキリスト教人間観の意義と課題に関する研究
保健医療社会学	篠原清夫	1. 医療系専門職者（看護師・助産師・養護教諭）の職業的社會化に関する研究 2. 保健医療福祉関連データの信頼性に関する社会調査論的研究 3. 社会的弱者の排除に関する福祉社会学的研究 4. 保健医療福祉従事者に対する社会学教育の教材開発に関する研究

2024年度 看護学研究科非常勤講師一覧

	氏名	ヨミガナ	科目名
1	板倉 朋世	イタカラ トモヨ	看護技術特論
2	陣田 泰子	ジンタ ヤスコ	看護管理学
3	筒井 真優美	ツヅイ マユミ	看護理論
4	村上 寛	ムラカミ ユカ	看護技術特論
5	森山 哲美	モリヤマ テツミ	実験的行動分析学特論
6	西野 俊宏	ニシノ トシロ	保健医療福祉連携特論
7	西村 ユミ	ニシムラ ユミ	看護研究方法論 II

あとがき

新カリキュラム（2020年度）により4年間学んだ第2期の学生が、2025年3月に卒業いたしました。新カリキュラムの評価を客観的に行い、学士教育および看護専門職の養成教育として適正であるのか、そして、三育学院大学の理念を反映した教育が実現しているのか、課題を見出し改善に取り組んでいく必要性を2023年度の年報のあとがきに述べました。2024年度は、大学の3ポリシーに基づきカリキュラムが進行しているか、学生による授業評価をアセスメンターを用いて行うという試みにより客観視し、改善点を見出してきました。2025年度は、その改善点を具体策に変え、新カリキュラム全体の評価を進めるとともに、看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年改訂版）との対比を通して、超高齢化社会に生じることが予想されている2040年問題に対応できる人材育成のためのカリキュラムを編成していきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症が、5類感染症に移行（2023年5月8日）して1年が経過した2024年度は、国際看護実習やインドネシアの看護研修など、海外における学修機会を拡大し提供することができました。世界とつながる三育学院大学として、様々な学修機会を提供し、その環境を整えることによって、国際的活動ができる人材育成の実現を確信できる一年でもありました。“異文化を理解し国際看護に貢献できる能力”を獲得する機会を今後も継続して提供していく必要があります。そして国際看護に貢献できる看護職者を一人でも多く輩出するために、2025年度も引き続き学生募集活動の強化を図っていきたいと思います。

三育学院大学大学院看護学研究科においては、3名の修士課程の修了生を輩出し、2025年度の入学生も得ることができました。その一方、研究科の在籍継続を断念する大学院生も生じました。高度看護専門職者として教育・実践・研究に取り組んでいける人材をどのように募集し、受け入れ、学修機会を提供していくのか、教育課程および教育体制を改善していくことは、大学院看護学研究科の重要な課題です。

最後になりましたが、ご多忙の中、原稿の作成に多大なご協力を頂きました教職員のみなさまに心より感謝申し上げます。

研究推進委員会

委員長 廣瀬 幸美
篠原 清夫
鈴木 美和
北田ひろ代
新妻 規恵
中村 信一
平澤久美子

三育学院大学年報 2024 年度

2025 年 6 月 1 日発行

編 集 三育学院大学研究推進委員会

発 行 所 三育学院大学
〒298-0297

千葉県夷隅郡大多喜町久我原 1500 TEL0470-84-0111(代表)

Edited, published, and distributed, by Saniku Gakuin College,
1500 Kugahara, Otaki-machi, Chiba-ken, 298-0297 Japan
